

鍼灸スポーツ学科

1 基礎分野

文学

担当教員 高 継芬

配当年次 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

本講義で日本文学においては、日本近代文学の巨匠夏目漱石が切り開いた近代小説の世界とは何か、彼の文学の人生についてアプローチし彼の心を理解する。中国文学から受けた影響、そして西洋文学から受けた影響を学ぶことで漱石についての理解を深める。”

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	『草枕』を始め、『虞美人草』『三四郎』『門』等の作品から文学観の変化をとらえる。
2	夏目漱石という人物について、人生歴、交友、側面からアプローチする。
3	『草枕』を始め、『虞美人草』『三四郎』『門』等の作品から文学観の変化をとらえる。
4	熊本小天温泉を舞台にした『草枕』の背景について初期の文学観について学ぶ。
5	『草枕』を読みながら作者の西欧文化に対する考えを理解する。
6	夏目漱石のイギリス留学について説明する。
7	『永日小品』を読みながら夏目漱石がイギリスに対する印象を理解する。
8	『永日小品』の「下宿」を解説する。
9	『永日小品』の「印象」を解説する。
10	『永日小品』の「昔」を解説する。
11	『永日小品』の「過去の匂い」を解説する。
12	『永日小品』の「暖かい夢」を解説する。
13	夏目漱石の作品を読みながら中国文学から受けた影響を理解する。
14	『草枕』を読みながら作者の東洋文化に対する考えを理解する。
15	夏目漱石の作品を学んだ総まとめ。

【履修上の注意事項】

夏目漱石の作品を読んでいくが、講義の時間だけでは限りがあるので、事前予習、事後復讐など積極して頂ければ、よりスムーズに講義が進むことができる。”

【評価方法】

授業内に課す小レポート（40点）＋学期末試験（もしくは学期末レポート）（60点）

【テキスト】

講義時プリント配布

【参考文献】

課題図書は授業時に適宜紹介する。

心理学 I

担当教員 永田 俊明

配当年次 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

心理学Ⅱ

担当教員 永田 俊明

配当年次 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

スポーツ心理学

担当教員 藤原 大樹

配当年次 3年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

運動・スポーツ現場で働く人間にとって、運動・スポーツ場面における人間行動の理解は必須である。この授業では、運動・スポーツ行動の心理的メカニズムについて学習する。特に、運動・スポーツへの心理面の影響、心理面への運動・スポーツの影響、身体活動促進のための心理的働きかけについての理解を深める。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション・運動・スポーツ心理学とは
2	運動・スポーツとパーソナリティ：競技者のパーソナリティ
3	スポーツと動機づけ：競技動機、達成動機、原因帰属、目標設定
4	運動・スポーツスキルの獲得：運動学習理論、技能評価・フィードバック
5	スポーツ集団における集団力学：集団課程、凝集性、チームビルディング
6	リーダーシップ：PM理論、フォロワーシップ
7	スポーツキャリア：参加・継続・離脱・バーンアウト
8	メンタルトレーニング：MTとは、基本的なスキルの紹介
9	スポーツ傷害と心理的サポート：スポーツ傷害、ストレス、リハビリテーション
10	スポーツと攻撃性：暴力行為、逸脱行為、観客の暴動
11	運動・スポーツの心理的効果：QOL、自己概念、ストレスマネジメント
12	運動実習：ストレス測定とレポート作成
13	身体活動プロモーション：運動行動の決定因、介入モデル
14	身体活動プロモーション：行動変容理論
15	授業のまとめ

【履修上の注意事項】

授業中に提示されるキーワードについて復習すること

【評価方法】

試験 70% レポート 30%

【テキスト】

なし

【参考文献】

よくわかるスポーツ心理学：中込四郎・伊藤豊彦・山本祐二（2012）ミネルヴァ書房
 スポーツ心理学事典：日本スポーツ心理学会編（2008）大修館書店

法学 I

担当教員 野崎 和義

配当年次 1年

単位区分 選択

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

今日の社会で要求される法感覚、さらに私たちが日常生活を送る上で必要な法知識を身につけることを目標とする。具体的には、以下の事項についての理解を目指す。

①社会生活における法的作用および役割、②民法の財産法および家族法の基本的な考え方、③医療・福祉サービス利用者の権利とその救済方法、④成年後見制度および日常生活自立支援事業、⑤医療・福祉職の専門性と法的責任

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	法と日常生活——講義計画の紹介、何をどこまで学ぶか、法というものの考え方
2	家庭生活と法（1）——親族の範囲・効果
3	家庭生活と法（2）——婚姻・離婚とその効果
4	家庭生活と法（3）——相続の一般原則、法定相続と遺言相続、相続をめぐる諸問題
5	消費生活と人権（1）——悪質商法の法的問題点、物権と債権の基本的異同
6	消費生活と人権（2）——クレジット取引の仕組み、契約の拘束力・相対性
7	刑事手続きと人権（1）——法的責任、犯罪と刑罰、刑務所と前科
8	刑事手続きと人権（2）——不法行為責任と刑事責任の異同、行政上の処分の独自性
9	医療・福祉サービスに関わる法（成年後見制度と日常生活自立支援事業、行政行為と行政争訟）
10	医療・福祉専門職の根拠法（医療・福祉専門職の専門性および資格、社会福祉各法の適用対象者）
11	医療・福祉専門職の連携（看護・介護事故、看護と介護の関係、職務の専門性と就業問題）
12	病院・施設の設置基準と法律問題（医療・福祉サービスの公共性、設置基準の法的拘束力）
13	障害者の雇用・就労支援（障害者雇用促進法、法定雇用率、勤労の権利と義務）
14	ふたたび人権を考える（雇用対策と差別の禁止、労働市場における公正、人権の普遍性）
15	医療・福祉職と法（高齢社会における課題と役割分担、行為準則としての法）

【履修上の注意事項】

- ・準備学習：各回のテーマに即して教科書を読んでおくこと。
- ・事後学習：講義で示された課題をもとに教科書および関連事項を整理すること。
- ・講義の進行は、理解度に応じて変更することがある。その際には、あらかじめ通知する。

【評価方法】

定期試験（100％）の成績によって評価する。

【テキスト】

野崎和義著『医療・福祉のための法学入門』2013年、ミネルヴァ書房。

野崎和義著『社会福祉六法』2018年、ミネルヴァ書房。

【参考文献】

各回の講義の際に紹介する。

法学Ⅱ（日本国憲法）

担当教員 野崎 和義

配当年次 1年

単位区分 選択

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

医療・福祉さらには教育の実践にあたって必要な憲法感覚を身につけることを目標とする。具体的には、以下の事項についての理解を目指す。

①日本国憲法の基本原理、②基本的人権の意義および機能、③基本的人権を保障するための仕組み（国および地方公共団体の組織・権能、財政）、④行政情報へのアクセス（情報公開）、⑤行政の役割と法治国家原理（行政行為、行政手続き、行政不服審査・行政訴訟）

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	取引社会と医療・福祉の権利（取引社会のルール、契約原理の修正、国家と個人）
2	日本国憲法の考え方（人権規定の私人間効力、裁判例の分析、人権という思想）
3	日本国憲法の構成（三つの基本原理、基本的人権のカatalog、人権保障の仕組み、特別条項）
4	基本的人権と公共の福祉、基本的人権の主体（内在的制約と外在的制約、外国人・法人の人権）
5	プライバシーの権利と個人情報保護、情報公開制度（行政情報へのアクセス）
6	自己決定権の尊重と医療・介護（インフォームドコンセント、身体拘束の禁止）
7	自由権（とくに人身の自由、少年の刑事手続き、資格制限と社会復帰）
8	法の下での平等と合理的差別（男女共同参画、セクハラと男女雇用機会均等法）
9	家族生活における平等（介護と扶養、介護保険制度導入の背景）
10	社会権の思想（平等権から社会権へ、生活保護法の基本原理と裁判例）
11	高齢社会における社会保障（社会保障の法体系、高齢者と住居、看護・福祉の労働）
12	その他の基本権——参政権、受益権（施設入所高齢者・障害者の参政権保障、国家賠償請求権）
13	国家の機構（三権の抑制と均衡、裁判所の仕組み）
14	財政、地方自治（財政の基本原則、自治体の行政権・立法権、行政争訟）
15	医療・福祉と日本国憲法（民主主義と少数者の人権、統治機構の役割）

【履修上の注意事項】

- ・準備学習：各回のテーマに即して教科書を読んでおくこと。
- ・事後学習：講義で示された課題をもとに教科書および関連事項を整理すること。
- ・講義の進行は、理解度に応じて変更することがある。その際には、あらかじめ通知する。

【評価方法】

定期試験（100%）の成績によって評価する。

【テキスト】

野崎和義著『医療・福祉のための法学入門』2013年、ミネルヴァ書房。

野崎和義監修『社会福祉六法』2018年、ミネルヴァ書房。

【参考文献】

各回の講義の際に適宜紹介する。

社会学 I

担当教員 安藤 学

配当年次 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

社会理論による現代社会の捉え方について、生活の理解について、人と社会の関係について、社会問題について学び、それらを分析し解決する能力を修得することができる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	社会システム(文化・規範、社会意識、産業と職業、社会階級と社会階層、社会指標)
2	社会変動について(社会変動の概念、近代化、産業化、情報化など)
3	人口について(人口の概念、人口構造、人口問題、少子高齢化など)
4	地域について(地域の概念、コミュニティの概念、都市化と地域社会など)
5	地域について(過疎化と地域社会、地域社会の集団・組織など)
6	社会集団及び組織(社会集団の概念、第一・二次集団、ゲゼルシャフト、ゲマインシャフト)
7	社会集団及び組織(アソシエーション、組織の概念、官僚制など)
8	家族について(家族の概念、家族の変容、家族の構造や形態、家族の機能など)
9	生活について(生活構造、ライフステージ、生活時間、生活様式、ライフスタイル、生活の質)
10	人と社会の関係について(社会関係と社会的孤立、社会的行為、社会的役割、社会的ジレンマなど)
11	社会問題について(社会問題の捉え方、社会病理、逸脱など)
12	具体的な社会問題について(差別、貧困、失業、自殺、犯罪、非行、社会的排除など)
13	具体的な社会問題について(ハラスメント、DV、児童虐待、いじめ、公害、環境破壊など)
14	生活支援と福祉について(生活の概念、福祉の考え方とその変遷など)
15	生活支援と福祉について(自助・相互・共助・公助など) ・まとめ

【履修上の注意事項】

ノートを毎回きちんと取る。授業前にその単元を一度読み自分なりにまとめておき、授業後は教科書とノートを照らし合わせて復習をしておくこと

【評価方法】

定期試験 80%、授業への取り組む姿勢 20%

【テキスト】

『社会学入門』秋元他 3名 有斐閣新書

【参考文献】

適宜紹介する

社会学Ⅱ

担当教員 安藤 学

配当年次 1年

開講時期 第2学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

社会学Ⅰを基礎に、社会学の具体的な理論と研究について、私たちの日常生活の中からテーマを設定して学習することができ、また社会福祉士養成や精神福祉士養成に求められる社会学的事項についても修得することができる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	現代社会とは
2	国民の生活と意識の変化について
3	科学技術の展開について
4	現代社会と科学技術について
5	情報化社会と国民生活について
6	現代社会における専門職について
7	家族の構造と形態について
8	家族の機能について
9	家族の変化について
10	家族と地域社会について
11	都市化と地域社会について
12	過疎化と地域社会について
13	現代社会における社会問題について
14	社会問題の解決にむけて
15	社会学の総まとめ

【履修上の注意事項】

履修上の注意事項 授業前にテキストを読み自分でまとめてから授業に臨む、授業後は自分のまとめと授業内容を比較して復習をする

【評価方法】

定期試験 80%、授業への取り組み 20%

【テキスト】

『社会学入門』秋元他3名 有斐閣新書

【参考文献】

適宜紹介する

スポーツ社会学

担当教員 立木 宏樹

配当年次 3年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

スポーツというものが、どのように誕生し私たち人間の生活の中で如何なる機能してきたのかを社会学の視点から学び、今日の社会におけるスポーツのもつ役割機能を理解し、今後の人々の生活にけるスポーツのあり方を検討できる能力をつけることを目的とする。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	社会学とは何か
2	スポーツ社会学とは スポーツ社会学の領域
3	スポーツとは何か スポーツの本質からその歴史的展開
4	近代スポーツから現代スポーツへ
5	現代スポーツと社会 スポーツと人間生活との関係
6	スポーツの役割機能
7	文化としてのスポーツ
8	競技としてのスポーツ
9	遊びとしてのスポーツ
10	スポーツと地域社会
11	健康づくりとスポーツ
12	スポーツにおける社会問題
13	産業とスポーツの関係
14	障がい者スポーツの現状と課題
15	ライフサイクルとスポーツ

【履修上の注意事項】

講義の展開が構造的に組み立てられているので、欠席しないように注意する。授業前に出された課題を完成させて授業に臨み、授業後は授業前の課題と授業で学んだことを比較して復習をすること。

【評価方法】

授業への取り組みと態度20% レポート提出80%

【テキスト】

使用しない

【参考文献】

適宜紹介する

教育学

担当教員 山本 孝司

配当年次 1年

開講時期 第1学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

自分が既にもっている教育に関する「常識」を踏まえつつ、それを超えて「教育」を「科学（学問）」的にとらえることができるようになる。「『教育』を根本から考える」作業を通して、自分なりの「教育観」をもち、今日の教育課題について主体的に考える態度をもつことができる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	教育とは何か
3	心身の発達
4	学校の歴史
5	子どもの歴史 ①古代・中世
6	子どもの歴史 ②教育対象としての子ども
7	子どもの歴史 ③ルソーによる「子どもの発見」
8	近代教育の思想と実践 ①ペスタロッチ
9	近代教育の思想と実践 ②ヘルバルト、フレーベル
10	近代教育の思想と実践 ③新教育運動
11	アメリカにおける進歩主義教育 ①前史：超越主義の教育思想（エマソン、ソロー）
12	アメリカにおける進歩主義教育 ②前史：超越主義の教育思想（ブロンソン・オルコット）
13	アメリカにおける進歩主義教育 ③超越主義から進歩主義へ
14	アメリカにおける進歩主義教育 ④デューイの教育哲学
15	現代の学校教育をめぐる論点

【履修上の注意事項】

授業には参加的態度で臨むこと。
 その他、授業外でも教育にかかわる情報をキャッチする鋭敏なアンテナを持ち合わせて欲しい。
 授業に際しては事前に資料を読み、事後には復習をすること。

【評価方法】

原則として学期末試験（70%）、小レポート（30%）を評価の対象とする。

【テキスト】

広岡義之編著『はじめての教職論』（ミネルヴァ書房、2017）

【参考文献】

授業内において適宜紹介する。

発達心理学

担当教員 水間 宗幸

配当年次 3年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

この授業は、人間の生涯発達を機軸に捉え、胎児期～若い成人期までの発達に関する心理的事実の理解、加えて発達上に特別な心理的支援ニーズが必要な場合の基本的考え方について理解できるようにする。また同時に、発達の原理、法則、理論に関しても概説的な解説を行うことで、学生自身や身近な人の理解、社会や文化、更に歴史的状況への視野の広がりへの関心の拡大を考える上での基本を理解することを目指す。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	生涯発達とは
2	乳児が初めて出会う世界
3	愛着理論と母子分離不安
4	幼児の世界観
5	人生を決定する児童期の人間関係
6	児童期における発達上の問題
7	思春期挫折の危機とアパシー
8	青年期の人間関係
9	働き盛りの精神衛生
10	燃え尽き症候群と自殺念慮
11	加齢現象と認知症
12	認知症高齢者の心理的特徴
13	長寿を全うするための健康
14	臨床発達心理学の視点 アイデンティティ拡散
15	臨床発達心理学の視点 発達障害

【履修上の注意事項】

人間の生涯発達について、事前・事後の学習を積み重ねること。

【評価方法】

1. 受験資格の確保 (2/3以上の出席：学則参照)
2. 期末試験受験による評価 (60点以上：学則参照)
3. 試験結果 100点満点で評価
*再試験は実施しない。

【テキスト】

『ヒューマン・ディベロップメント』青柳肇・野田満編著 ナカニシヤ出版

【参考文献】

『発達心理学ハンドブック』東・繁多・田島編集 福村出版 1996年『心理学基礎事典』上里監修 至文堂 2002年 *その他、講義過程において紹介する

哲学

担当教員 田畑 博敏

配当年次 1年

単位区分 選択

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本科目「哲学」は、古代ギリシャに始まり、中世・近代のヨーロッパを通じて発達し、現代では世界中の多くの国で研究され学ばれている科目です。日本では、自然科学と同様に、明治時代にヨーロッパから輸入され、現在、多くの大学で教えられています。哲学の特徴は、常に物事の根源にさかのぼって、探究することです。探究の対象は森羅万象、探究手段は理性と言葉による論証です。本講義では、先行の哲学者の考えを参考にして、徹底的に考え抜き、自分なりの意見を表現できる力を養うこと、を目標にします。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	哲学とは何か、何が存在するのか、存在論を概観する：教科書序文および第一講義・第1.1節
2	存在のあり方、性質と関係、物とプロセス、部分と集まり：教科書第一講義・第1.2-1.4節
3	種と普遍者、可能的対象と虚構的对象：教科書第一講義・第1.5-1.6節
4	存在論の諸区分、領域的VS形式的、応用的VS理論的：教科書第一講義・第2.1-2.2節
5	形式的存在論VS形式化された存在論、存在論の道具としての論理学：教科書第一講義・第2.3-2.4節
6	メタ存在論、道具としての論理学（続）：教科書第一講義・第2.5節および「まとめ」、プリント
7	世界についてどう語るか、思考と表現、存在への関わり：教科書第二講義・第1.1-1.2節
8	パラフレーズ、修正的VS解釈的：教科書第二講義・第1.3節
9	すぐれた理論の条件、単純性と説明力：教科書第二講義・第2.1-2.2節
10	非クワイン的メタ存在論：教科書第二講義・第2.3-3.1節
11	非クワイン的メタ存在論（続）：教科書第二講義・第3.3節および「まとめ」
12	存在者をどのように分類するか？ カテゴリーと形式的因子：教科書第三講義・第1.1-1.2節
13	4 カテゴリー存在論における形式的関係：教科書第三講義・第2.1-2.2節および「まとめ」
14	ものが性質を持つということ：教科書第四講義・第1.1-1.3節
15	実在論の擁護：教科書第四講義・第2.1-2.3節

【履修上の注意事項】

講義終了後、本講義で「コミュニケーション・カード」と名づける小ペーパーを提出してもらいます。これには、予習の結果（重要と思われた3つのキーワードを書く）、講義を受けての感想、講義で学んだこと、講義についての注文など、を書いてください。

【評価方法】

コミュニケーション・カードの提出により「意欲的な受講態度」を評価し（20%）、中間レポートで「基本的理解」の度合いを評価し（30%）、最終レポートで「総合的理解と独自の思考力」を確認する（50%）、というやり方で、総合的・全体的に評価します。

【テキスト】

倉田剛「現代存在論講義」新曜社（2017年）¥2200＋税

【参考文献】

講義の進行に応じて、適宜、指示します。

経済学

担当教員 中宮 光隆

配当年次 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

経済は私たちの生活の中の大きくて重要な部分を占めているのに、とかく「難しい」といわれる。聞き慣れない用語が多いこと、常に変化していることがその原因の一端になっている。そこでこの授業では、日本と世界の経済の動きに関心を持つようになること、また新聞やテレビ等メディアによる経済に関する報道内容がより良く分かるようになって、経済の実情や課題に関する理解を深めることがねらいである。

【授業の展開計画】

授業内容は大きく分けて4つある。①経済学とはどのような学問か、現代社会の仕組みはどうなっているのか、②現代経済の実情と、それを知る方法は何か、③現代経済の課題(格差、貧困、バブル、長期の不況、国際化等)は何か、④課題を解決するにはどうしたら良いか、である。これらを順次考察する。

- 第1週 インTRODクション(経済学とは何か、その由来や対象を知る)
- 第2週 社会と経済(社会の仕組みと資本主義経済の成立と発展を概観する)
- 第3週 戦後経済発展の軌跡(1940年代から80年代の日本と世界の経済状況を振り返る)
- 第4週 日本のバブル経済(1980年代後半のバブル経済とはどのようなものだったのかを知る)
- 第5週 日本経済の長期不況とその対策(1990年代の不良債権処理、2000年代の金融政策等)を知る。
- 第6週 現代世界経済の焦点①(1990年代以降のアメリカ経済と住宅バブル)
- 第7週 現代世界経済の焦点②(金融危機と世界同時不況、欧州信用不安と新興国の台頭)
- 第8週 現代世界経済の焦点③(格差、貧困、バブル経済)
- 第9週 経済のグローバル化と経済連携(FTA、EPA、TPP、APEC、等々)
- 第10週 経済の実情を把握する①(経済の循環と経済統計の見方)
- 第11週 経済の実情を把握する②(貿易と国際収支、アベノミクスと財政赤字・消費税)
- 第12週 経済の実情を把握する③(グローバリゼーションと保護主義)
- 第13週 地球環境問題と現代経済(温暖化防止対策と国際協力)
- 第14週 地球環境問題と現代経済(自然エネルギー開発と経済発展)
- 第15週 経済のグローバル化と食糧問題

【履修上の注意事項】

事前に配布するプリントをよく読んで、わからない言葉は辞典等で調べておくこと。

【評価方法】

期末試験100%

【テキスト】

特に使用せず、講義(事前に)の際にプリントを配布する。

【参考文献】

講義の際に紹介する。

コミュニケーション論

担当教員 佐藤 嘉倫

配当年次 2年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

コミュニケーションについての基礎的な概念やモデルについて学ぶとともに、言語・非言語などのコミュニケーション手段、様々な状況におけるコミュニケーション行動や人間関係の特徴などについて主に心理学の立場から考え理解を深める。また対人援助場面における人間関係の特徴について学び、理解できるようになる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	コミュニケーション論とは
2	対人コミュニケーションの特徴
3	コミュニケーションの障害
4	対人交流パターンの分析（自らのコミュニケーションのあり方を見つめる）
5	コミュニケーションの様々な形1（コンピュータ）
6	コミュニケーションの様々な形2（電話）
7	コミュニケーションの様々な形3（マス・コミ）
8	援助技術としてのコミュニケーション
9	援助技術としてのコミュニケーション2
10	ストレスとコミュニケーション
11	人間関係とコミュニケーション
12	コミュニケーション・スキル1（言語的コミュニケーションの活用）
13	コミュニケーション・スキル2（非言語的コミュニケーションの活用）
14	自己分析
15	まとめ

【履修上の注意事項】

- ・講義前に参考文献や配布資料をもとに事前学習を行って下さい。
- ・講義後の振り返りを各自行うようにして下さい。

【評価方法】

授業態度60%、レポート40%

【テキスト】

なし（講義中に資料を配付）

【参考文献】

『インターパーソナルコミュニケーション～対人コミュニケーションの心理学』 深田博己 北大路書房

カウンセリング論

担当教員 忽那 かずみ

配当年次 1年

開講時期 第2学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

他者援助において基本となる代表的なカウンセリング理論を理解し、それぞれのカウンセリングの実践における本質的な考え方や方法上の相違点を理解できる。また、それぞれのカウンセリング理論および密接に関係する心理検査の学修やワークを通じて自己理解を深めることができる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーションと序論
2	カウンセリングの基礎
3	カウンセリングの実際
4	精神分析療法の理論と実際
5	来談者中心療法の理論と実際
6	行動療法の理論と実際
7	論理療法の理論と実際
8	認知療法の理論と実際
9	認知行動療法の理論と実際
10	ゲシュタルト療法の理論と実際
11	交流分析療法の理論と実際
12	日本の心理療法の理論と実際
13	箱庭療法とコラージュ療法（切り抜いてもよい雑誌2～3冊、はさみ、のりを持参すること）
14	カウンセリングと心理検査
15	カウンセリングと精神疾患

【履修上の注意事項】

テキストで事前学習してください。講義時間内にカウンセリングと関連する心理検査の実施を含みます。毎回の講義後に振り返りを行い、理解を深めてください。講義では実際のケースを取り上げたり、具体例を話すことがあります。また、演習（グループワーク等）の中で個人的な話が出されることもありますので、個人情報扱いには細心の注意を払い、絶対に口外してはいけません。演習（グループワーク等）では、他の人の意見を否定・批判をしない、違う意見も尊重する、発言は最後まで聴く、そして全員が発言することをルールとします。

【評価方法】

定期試験50%、演習（ディスカッション、グループワーク、授業態度等を含む）20%、振り返りシート（レポートを含む）30%

【テキスト】

山蔦圭介著、宮城まり子監修『基礎から学ぶ カウンセリングの理論』、産業能率大学出版部

【参考文献】

必要の都度、指示します。

比較文化論

担当教員 金 蘭九、安藤 学、A. J. サザランド、高 継芬

配当年次 1年

開講時期 第1学期

単位区分 選択

授業形態 講義

準備事項

単位数 2

備考

【授業のねらい】

本講義では、欧米諸国やアジアの文化・社会・価値観・人々の考え方を、具体的な事例に基づいて日本と比較し、異文化理解を図ると共に、人間と文化の総合的な関係を理解する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション。中国あるいは東南アジアの文化について（安藤・高）
2	日韓文化の遠近（金）
3	医療と福祉・日本と韓国（金）
4	障害者福祉の基本・国際比較（金）
5	メディアを通じた異文化理解（サザランド）
6	映画と社会、文化（サザランド）
7	映画が語る欧米諸国の社会、文化及び人間1（サザランド）
8	映画が語る欧米諸国の社会、文化及び人間2（サザランド）
9	映画が語る欧米諸国の社会、文化及び人間3（サザランド）
10	中国人の人間愛について（高）
11	中国人の結婚文化について（高）
12	日本と中国の教育政策について（安藤・高）
13	中国料理の由来について（高）
14	中国茶の文化について（高）
15	日本の太平洋戦争と中国の孫子兵法（安藤・高）

【履修上の注意事項】

授業前に資料（プリント）などを読み、キーワードについて調べてくること。
授業後に復習しておくこと。

【評価方法】

レポート80%、発表20%で評価する。

【テキスト】

毎回、資料（プリント）などを用意し、配布する。

【参考文献】

授業の中で、適宜紹介する。

体育原理

担当教員 未定

配当年次 3年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

【ねらい】体育をめぐる多様な現実をまず「現代におけるスポーツ」の観点から平易に学ぶ。そして、さらに、体育原理には、体育の原理的・実践的課題解決の方法を模索する意味も含まれることを理解してもらう。

【到達目標】スポーツが人間にとって価値がある文化であることを過去の歴史に遡って考察することができる。また、これからのスポーツのあり方を展望し説明することができる。そして、体育は、スポーツを通して人間を形成し、人間と運動との関係をより豊かにしている教育の営みであることを具体例を挙げて説明できる。

【授業の展開計画】

この講義では、体育授業を想定した体育の考え方を学びながら、体育授業における「スポーツ教材」の捉え方にも「知識、思考・判断」が必要であることを理解できるようにする。体育理論の学習方法にもふれる。

週	授 業 の 内 容
1	現代社会におけるスポーツの意義
2	体育とスポーツの概念
3	現代日本のスポーツ政策とスポーツ基本法
4	生涯スポーツの時代とスポーツクラブ
5	スポーツ産業とスポーツの複合的産業構造
6	スポーツ倫理とアンチ・ドーピング運動
7	男女平等と女性のスポーツ
8	スポーツとメディアをめぐる比較体育・スポーツ文化論
9	スポーツと儀礼との関係でみる民族スポーツ
10	スポーツの時代変容と多様性
11	欧米スポーツの日本への紹介と移入
12	古代ギリシャの体育から身体教育へ
13	世界で最初の体育教師グーツムーツ
14	トゥルネンと体操競技
15	オリンピックと現代～オリンピック・ムーブメント～

【履修上の注意事項】

この授業は、教育職員免許法施行規則の定める免許教科中学校・高等学校「保健体育」の教科専門科目「体育原理」の一般的・包括的事項を含む内容を講義する。

授業前にテキストの該当部分を読み、内容の予習を行うこと。また、復習として授業内容をふまえ、学んだ成果を500字程度の文章でまとめておくこと。

【評価方法】

多様な評価を試みる。毎回のコメント記述（授業終了時及びその翌週までに、学びの成果を記述する。500字程度）（15%）、小テスト2回実施（20%）、筆記試験（65%）

【テキスト】

新井 博・榊原浩晃編『スポーツの歴史と文化』道和書院 2012年

【参考文献】

参考文献は授業時に紹介する。

体育

担当教員 山下 忍

配当年次 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

心身の健全な発達の促進、運動やスポーツに内在する楽しみや技能、健康、体力の保持・向上・増進のための運動処方などを総合的・実践的に自ら把握できるようになる。

【授業の展開計画】

1. 運動行動と身体とのかかわりを説明できる
2. 運動しないと身体へどのような影響が考えられるか説明できる
3. 身体組成から見た運動行動の大切さについて説明できる
4. 無酸素運動について説明できる
5. 有酸素運動について説明できる
6. 筋肉の種類から見た運動の適正について説明できる
7. 運動の強度と運動時間について説明できる
8. 運動とエネルギー供給の関係について説明できる
9. 運動の種類と循環器の関係について説明できる
10. メタボリック理解とその対策について説明できる
11. 運動と栄養・休養との関係について説明できる
12. 運動によって引き起こされる運動障害について説明できる
13. トレーニングの種類とその効果について説明できる
14. 運動を行うに時に注意すべき事項について説明できる
15. 健康維持のための運動について説明できる

【履修上の注意事項】

授業前に資料の該当部分を読み、内容の予習を行うこと。また、復習として授業内容をふまえ、測定結果を500字程度の文章で所定の提出用紙にまとめておくこと。

体育資料を毎時間持参すること。

演習授業は体育着で行うこと。

【評価方法】

演習レポート30%、自主的学習態度10%、課題レポート20%、体育ノート作成40%による総合評価

【テキスト】

使用しない

【参考文献】

運動生理学 講談社 岸恭一

倫理学

担当教員 未定

配当年次 2年

単位区分 選択

開講時期 第 1 学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考 平成30年度は閉講

【授業のねらい】

倫理が各分野で要求される時代に日本もようやく入りました。学問としての倫理学は、近代的な人間観に立脚しており、その基本形をまずドイツのカントとヘーゲルにおいて確定します。次に、20世紀後半に倫理の中核へと登場した「責任」という原理をめぐって、「作為と不作為」を掘り下げて考察します。他者危害の作為は古来から今日まで「万人の義務」であるとされ、現代の我々の倫理観の中に入っておりますが、他方、他者支援の作為は「万人の義務」として感受されていません。このギャップを埋める道をとともに探求できます。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	I-1 近代的な世界観の確定「人間にとって先なる世界観」優位の倫理観
2	I-1-2 カント倫理学における「道徳性Moralitaet」、個人としての人格と良心
3	I-1-3 同上2
4	I-1-4 ヘーゲルにおける「人倫Sittlichkeit」：倫理の現実化としての国家、市民社会
5	I-1-5 同上2 倫理の現実化としての家族、法、制度、家族
6	I-1-6 近代日本の国家と倫理の一体化
7	I-1-7 現代日本の倫理的状況
8	II-1 作為と不作為という考え方：罪責の二類型の発見
9	II-2 ドイツ・戦後40周年ヴァイツゼッカー大統領演説の場合
10	II-3 不作為の定義付け：作為の変種から対概念の位置へ
11	III-4 不作為の概念分析（回数としての不作為、原因としての不作為）
12	III-5 不作為の特殊形態：「生起するままに放置すること」
13	IV-1 概念枠から現実が初めて見えるということ
14	IV-2 現代日本における不作為問題の事例研究：ハンセン病問題
15	IV-3 同上、薬害問題、いじめ、水俣病問題、アスベスト問題

【履修上の注意事項】

日本の現在進行中の出来事、たとえば、水俣病関西訴訟判決以降の様相、ハンセン病問題、薬害肝炎訴訟、中国残留日本人孤児問題、医療過誤など、活字メディアによく目を通して、それらを切抜きして、各自が独自の教材をつくるという意欲が生まれます。

【評価方法】

毎回の感想文提示=30点、レポート提出=20点、定期試験=50点。

【テキスト】

山本 務、熱田一信編著『ハンセン病・薬害問題 プロジェクト 作為・不作為へ』（本の泉社）
R. ヴァイツゼッカー著、山本務訳著『過去の克服・二つの戦後』（NHKブックス705、日本放送出版協会）。

【参考文献】

講義中に適宜教示。

英語 I

担当教員 角田 俊治

配当年次 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

4年制の大卒者として最低限求められる英語力の養成を目的とする。初歩的な英語の読解、語彙力、ライティング力を包括した学習を行い、コミュニケーション能力の基礎を向上させる。保健・医療等の専門分野に関わる基本的な英語情報の受信と、発信が可となることを目指す。更に、語学が教養・全人教育の一部であることから、英語圏の国々の社会・歴史・文化への関心と知識を深める。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション. 英語学習の意義、英語の特徴等の説明.
2	Chapter 1. Why Do People Love Sweets? 内容理解、設問演習、CDによる聞き取り
3	Chapter 1 に関わる設問演習、CDによる聞き取り練習、教員作成プリント(他文献、英作文等)
4	Chapter 3. Why Is Japanese Cuisine So Popular? 内容理解、設問演習、CDによる聞き取り
5	Chapter 3 に関わる設問演習、CDによる聞き取り練習、教員作成プリント(他文献、英作文等)
6	Chapter 6. How Do You Wash Your Dishes and Vegetables? 内容理解、設問演習、聞き取り
7	Chapter 6 に関わる設問演習、CDによる聞き取り練習、教員作成プリント(他文献、英作文等)
8	Chapter 9. Do You Know the Power of Fermentation? 内容理解、設問演習、CDによる聞き取り
9	Chapter 9 に関わる設問演習、CDによる聞き取り練習、教員作成プリント(他文献、英作文等)
10	Chapter 11. Are You Dieting the Right Way? 内容理解、設問演習、CDによる聞き取り
11	Chapter 11 に関わる設問演習、CDによる聞き取り練習、教員作成プリント(他文献、英作文等)
12	Chapter 12. Is Collagen Really Effective? 内容理解、設問演習、CDによる聞き取り
13	Chapter 12 に関わる設問演習、CDによる聞き取り練習、教員作成プリント(他文献、英作文等)
14	プリント (テキストとは異なる英語原文) 演習
15	14回に続けて、英文演習. 及び、これまでの講義の補足及び総括

【履修上の注意事項】

- ・英文の読解のみにならないように、教員作成の補助教材を一定量使用します。
- ・辞書は必携です。
- ・展開計画は一部変更することがあります。

【評価方法】

試験 70%. 発表 20%. 平常点 (受講の積極性等) 10%.

【テキスト】

(株) 朝日出版社
「ヘルシーライフをめざして」

【参考文献】

随時、補充教材プリント配布

英語Ⅱ（医療英語）

担当教員 角田 俊治

配当年次 1年

開講時期 第2学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

2学期の英語IIに於いては、主として情報発信能力の向上を目指す。まず、中学生レベルの英語力でも可能な自己紹介、挨拶、手紙文等の演習を行う。その後可能な限りの基本的な英語による、福祉や医療に関わるベシクなライティングができるようにする。また、基本的な医療情報を読み取る練習を行い、併せて英語圏の国々の社会や文化への関心を深め、知識を増やして国際感覚を身につける。

【授業の展開計画】

基礎的な英語による作文力を身につけ、福祉や医療に関わる一定の情報発信ができ、また高水準の語学力を必要とせずとも、基本的な医療情報を読み取る力を持つことを目指す。

*下記の展開計画は他学科のものとはほぼ同一であるが、授業の中で取り扱う設問は同一ではない。

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション. ごく簡単な英語を利用した、自己紹介等のライティング演習
2	ライティングのために必要な基本5文型（中学校文法レベル）の説明等□
3	2を応用しての基本的なライティング演習
4	2, 3を応用しての福祉や医療に関わる初歩的なライティング演習
5	4よりも幾分か専門性の高い福祉や医療に関わる英語表現を演習
6	上記5に同じ
7	リーディング： 一流作家の書いた、“生と死”を主題とする平易な英文の短編小説を原文で読む
8	リーディング： 7に同じ. 上記小説の“生と死”のモチーフについて考える□
9	リーディング： 福祉・医療等に関わるやや程度の高い英文を原文で読む
10	リーディング： 9に同じ. 高度な英語力がなくとも、原文が読めることを知る
11	福祉、医療、科学一般に関わる最も重要で使用頻度の高い動詞（15個前後）について解説、演習
12	11に関わる基本的なライティング演習
13	11、12に関わる幾分高度なライティング演習
14	13に続き、福祉や医療に関わる幾分高度なライティング演習
15	14までの講義の補足と総括

【履修上の注意事項】

- ・上記の展開計画は進捗の状況に応じて一部変更することがあります。（その際は適宜連絡します）
- ・総て、講義は予習が行われていることを前提として行います。
- ・辞書は必携。

【評価方法】

試験 70%. 発表 20 %. その他（受講の積極性等）10%.

【テキスト】

教員自作プリント

<プリント中の設問はクラスによって異なる.>

【参考文献】

随時配布

英会話 I

担当教員 池田 裕子

配当年次 1年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

英会話Iでは、基本的なコミュニケーション能力を習得することを目標とします。特に、英語のリスニング・スピーキングを中心に学び、聞き取り・発音・暗記・会話を繰り返し、多様なタスクに積極的に取り組むことにより、日常生活の様々な場面で実際に役立つ生き生きとした英語を自然と身に着けることができます。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	自己紹介文 (vocabulary/ writing)
3	自分の専攻についての説明 (speaking / listening)
4	出身地・場所についての会話 (vocabulary / reading)
5	趣味についての会話 (speaking / listening)
6	交通手段についての説明 (vocabulary / reading)
7	週末の予定についての説明 (speaking / listening)
8	中間テスト
9	レストランでの会話 (speaking / listening)
10	買い物での会話 (speaking / listening)
11	スポーツについての会話 (vocabulary / reading)
12	キャンパスでの会話 (vocabulary / reading)
13	病状についての説明 (vocabulary/ writing)
14	観光地での会話 (vocabulary / reading)
15	将来の夢についての説明 (speaking / listening)

【履修上の注意事項】

必ず予習をして授業に臨んでください。
授業中はペアワークによる活動をしますので、コミュニケーション能力を高めるため、積極的に参加してください。

【評価方法】

予習・授業中の活動・発表 20% 中間30% 期末試験50%

【テキスト】

Robert Hickling / 臼倉美里 著 We Love L.A. ! (L.A. イングリッシュ・ライフ)
金星堂出版 2,500 (税別)

【参考文献】

特になし

英会話Ⅱ

担当教員 A. J. サザランド

配当年次 1年

開講時期 第2学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

Introduction to class, and class selection of roleplay using social drama, or community project study programme. Aims to expand vocabulary and ability to hear, comprehend and speak English.

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	Introduction, English phonetics, and pronunciation practice
2	Preparation of study course, selection of A) social drama role play; b) community project
3	A) Print 1- Sections 1 & 2 / B) Project Stage 1
4	A) Print 1- Sections 3 & 4 / B) Project Stage 2
5	A) Print 1- Sections 5 & 6 / B) Project Stage 3
6	A) Print 1- Sections 7 & 8 / B) Project Stage 4
7	A) Print 1- Sections 9 & 10 / B) Project Stage 5
8	A) Print 1 group review, preparation for speaking test / B) Group review of project work
9	A) Mid-term speaking test 1 / B) Mid-term assessment of project work
10	A) Print 2- Sections 1 & 2 / B) Project Stage 6
11	A) Print 2- Sections 3 & 4 / B) Project Stage 7
12	A) Print 2- Sections 5 & 6 / B) Project Stage 8
13	A) Print 2- Sections 7 & 8 / B) Project Stage 9
14	A) Print 2- Sections 9 & 10 / B) Project Stage 10
15	Print 1 review, preparation for speaking test / B) Review of project work

【履修上の注意事項】

Lectures based on either social drama group study, or community project group study. Class plan of study will reflect the construction and wishes of the class and students.

【評価方法】

Study plan A) Class participation 20%, and Speaking tests 80%

Study plan B) Class participation 50%, project work 50%

【テキスト】

Any English/Japanese, or English dictionary app for your smartphone, and/or electronic dictionary. (Smartphone app suggestion, Collins English Dictionary app.)

【参考文献】

中国語会話

担当教員 高 継芬

配当年次 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

”本講義のねらいは、受講者が半期の学習期間において、あいさつや自己紹介などの基本的な表現を習得し、基礎的な日常会話ができる。”

【授業の展開計画】

本講義のねらいは、受講者が半期の学習期間において、あいさつや自己紹介などの基本的な表現を習得し、会話能力の基礎を身につけることにある。

週	授 業 の 内 容
1	中国について学ぼう 中国語の発音 声調・単母音の学習
2	複合母音・子音の学習
3	人称代名詞、否定、疑問など 浦東空港にて
4	名詞、副詞の用法 タクシーに乗って
5	所在を表す動詞「在」 ホテルでお茶を
6	「的」の省力 場所を表わす代名詞、存在を表わす「有」について学ぶ 私の家族
7	「喜歡」+同市の使い方について学ぶ 趣味は映画です
8	願望を表す助動詞“想” 大学の図書館へ
9	数詞、量詞について学ぶ 放課後
10	前置詞、完了の「了」について学ぶ 上海の交通
11	連動文 地下鉄付近にて
12	助動詞、経験を表わす表現について学ぶ
13	主文述語文、比較の表現 変化を表す表現など ちょっとおなかが空いた
14	結果補語、方向補語について学ぶ 突然の雨
15	これまでの学習内容を確認

【履修上の注意事項】

予習と復習を必ずすること。
受講の際は、辞典を必ず持参すること。

【評価方法】

小テスト 20%
レポート 20%
試験 60%

【テキスト】

教科書：『LOVE 上海一初級中国語一』朝日出版社
辞典：相原茂『はじめての中国語学習辞典』朝日出版社 最新版

【参考文献】

適宜紹介

韓国語会話

担当教員 李 玄玉

配当年次 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

「ハングル」という文字についての理解と日本語と韓国語との比較をしながら、韓国語の基礎文法を理解する。また、韓国への観光・旅行や文化体験などの場合、簡単な会話に応用できる。

【授業の展開計画】

1. オリエンテーション
2. 「ハングル」文字に関する歴史的背景、文字の構成、文字の書き方について
3. 韓国語の特性についての日本語との比較説明及び子音・母音について
4. 「パッチム」とパッチムの連音化
5. 基本的な挨拶に関連する会話
6. 自己紹介などの簡単な会話
7. 小グループに分け、挨拶・自己紹介などを韓国語で行う（復習と練習）
8. 韓国の文化に関する理解（ビデオ鑑賞）
9. 韓国での観光・旅行を想定した場面での会話 1
10. 韓国での観光・旅行を想定した場面での会話 2
11. 韓国での観光・旅行を想定した場面での会話 3
12. 日本と韓国の文化の相違点について
13. 日常生活での基本的な会話 1
14. 日常生活での基本的な会話 2
15. 日常生活での基本的な会話 3

【履修上の注意事項】

授業後には繰り返し復習する。

【評価方法】

- ①授業参加への態度及び発表 50点
- ②授業中のミニテスト 50点

【テキスト】

韓国語をはじめよう（初級） 李 チャンギョ 朝日出版社

【参考文献】

ドイツ語

担当教員 竹中 健

配当年次 1年

単位区分 選択

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

1989年11月ベルリンの壁崩壊、翌年10月ドイツ統一とともに、ヨーロッパは新たな統合の枠組みを目指してきましたが、これは、明治時代以後、初めて私たち日本にも「ヨーロッパの出現」という現象となって注目の対象となりました。国境を軽く超える、人的・物的交流は、観光の高まりとともに、この20年間で一変してきました。そのヨーロッパの中心、ドイツの現在を、ドイツ語学習を通じて知ります。併せて、日本語それ自体をも対象としながら、言葉によって考えるということも学習できます。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	
1	オリエンテーション	
2	1 あいさつする	2 お礼・謝罪をする
3	3 気持ちを伝える	4 味の感想をいう
4	5 トラブル	6 自己紹介をする
5	7 趣味・専攻を言う	8 希望・願望を伝える
6	9 可能・不可能を訴える	10 体の不調を訴える
7	11 義務を伝える	12 未来について言う
8	13 賛成・反対をする	14 会話を始める
9	15 趣味を聞く	16 許可を求める
10	17 命令する	18 禁止する
11	19 会話を広げる質問をする	20 依頼をする
12	21 相手を気遣う	22 誘う
13	23 褒める	24 天気について話す
14	25 買い物をする	26 会計をする
15	まとめ	

【履修上の注意事項】

独和辞典を引きまくるという態勢を築いて欲しい。また、テレビ衛星放送でドイツのニュース番組「ZDF」を見るという習慣を形成できます。

【評価方法】

講義内で合計10回のミニテスト（各回10点満点）を実施し、それらを合計して最終評価とする。

【テキスト】

清水紀子著『すてきなドイツ語』白水社
岡本和子著『30日で話せるドイツ語会話』ナツメ社

【参考文献】

『過去の克服・二つの戦後』ヴァイツゼッカー著、山本 務訳著、NHKブックス

障害者言語 I (点字)

担当教員 吉住 寛之

配当年次 1年

開講時期 第1学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考 必ず、指定のテキストと点字器、ワークショップで使用するアイマスクを準備すること。

【授業のねらい】

●一般目標

言語・コミュニケーション文化の一つである点字の技法の学習を通じて、視覚に障害がある人への理解を深め、その支援の在り方を共に考える。情報・コミュニケーション支援や移動・コミュニケーション支援、福祉制度の学習を通じて、視覚に障害のある人への支援のための実践的な知識と・コミュニケーション能力を養う。点字については、その簡単な読み書きが出来るように基礎的な実技の習得を目標とする。

【授業の展開計画】

●行動目標：

視覚障害の特性に応じた基本的な情報コミュニケーション支援と移動コミュニケーション支援ができる。
点字については、点字で手紙のやり取りができる。

- 01 ガイダンス：①オリエンテーション ②視覚障害のある人の状況 ③まちや家の中にある点字について
- 02 情報コミュニケーション支援
①情報保障と合理的配慮 ②情報アクセシビリティと支援技術 ③分かり易い視覚情報の提供の仕方
- 03 移動コミュニケーション支援
①移動保障と合理的配慮 ②視覚に障害のある人の移動の実際
③視覚に障害のある人への接し方と移動支援技法
- 04 点字の基礎1： 点字の歴史と概要 点字の清音
- 05 点字の基礎2： 点字の器具と書き方 点字の濁音・拗音
- 06 点字の基礎3： 点字の読み方 点字の半濁音・拗濁音・特殊音
- 07 語の書き表し方： ①仮名遣い
- 08 語の書き表し方： ②数字
- 09 語の書き表し方： ③アルファベット
- 10 分かち書き： ①文節分かち書き
- 11 分かち書き： ②複合語
- 12 分かち書き： ③固有名詞
- 13 記号類と点字の手紙の書き方
- 14 福祉制度
- 15 まとめ

【履修上の注意事項】

点字の実技についてはテキスト・配布資料等を参考にし、自宅においても予習、復習すること。視覚に障害がある人の現状を具体的に把握するために、毎回関連の最新トピックスを情報提供し、それをテーマにグループディスカッションなども行う。思考的理解のみならず、身体的理解を深めるためにアイマスクなどを使った体験型ワークショップも実施する。理解と実技を定着させるために、毎回宿題を課する。

【評価方法】

授業での取り組みや態度：15% 宿題提出：15% 課題レポート：30% 試験：40%

【テキスト】

『初めての点訳』第2版 NPO法人全国視覚障害者情報提供施設協会

【参考文献】

『臨床に必要な障害者福祉—障害者福祉論』（福祉臨床シリーズ9）編集委員会編著 指田忠司共著 弘文堂
『世界の盲偉人』指田忠司著 桜雲会、『視覚障害教育入門』青柳まゆみ 鳥山由子著 ジアース教育新社

障害者言語Ⅱ（手話）

担当教員 福田 九

配当年次 1年

開講時期 第2学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

手話はろう者の言葉、もしくはろうあ運動から昇華してきた歴史がある。最近では、ろう者による当事者組織である（一財）全日本ろうあ連盟が中心となって進めている手話言語法制定運動の全国的な取り組み、展開から地域では手話言語条例を制定しているところが増え、手話文化が定着している。手話でコミュニケーションを図るためには、スピーキング能力が不可欠であり、本講義では自分のことを手話で話し、身近なテーマについて手話で意見を述べるができるような力を育成する。

【授業の展開計画】

手話でのスピーキング能力を育成するために、様々な状況やテーマで一般的に使われる表現を学ぶ。基本的な文例表現を通して手話単語の語彙を増やすようにし、ただ手話単語を覚えるだけでなくろう者の暮らしや経験を通してまとまった考えを伝えることができるようにする。併せて実践練習を通して、ことばだけでなくジェスチャーも使いながら自然に手話で話せる能力を身につける。また各講義毎に前回の復習として、手話の読み取りテストを行う。

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション（『手話単語を覚えることより手話を経験しよう』）
2	手話の仕組み
3	同音異義語と手話表現
4	指文字を覚えよう
5	あいさつ・名前・家族の紹介
6	出身地・地名
7	一日の生活・通勤・通学
8	趣味・スポーツ
9	旅行・観光地
10	仕事
11	病院・病気
12	基本単語を確実に身につけよう（1）
13	基本単語を確実に身につけよう（2）
14	クイズ 手話の反対語を探そう！
15	まとめ

【履修上の注意事項】

- 1) 事前・事後学習については、講義毎に指示する（講義に出る前には、わからない言葉、用語の意味をある程度、辞典等で調べ整理して出席することが好ましい）。
- 2) 授業では、パワーポイントと手話で話す（手話がわからない学生はパワーポイントや教科書等の文字情報を通して理解を深めてほしい）。

【評価方法】

試験（筆記・実技）100%

【テキスト】

全日本ろうあ連盟著（2007年）『新手話ハンドブック』,三省堂

【参考文献】

『手話教育今こそ！障害者権利条約から読み解く』高田英一（日本手話研究所長）著他

中国事情 I

担当教員 高 継芬、孫 冬梅

配当年次 1年

開講時期 第1学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

中国語の文書を読むことによって中国の古代の文化や現代の中国事情について理解することができる。
現代の中国事情については中国の人口地理民族などについて理解することができる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	全体オリエンテーション(孫・高)
2	中国の三字経①(張)
3	中国の三字経②(張)
4	中国の三字経③(張)
5	中国の三字経④(張)
6	中国の千字文①(張)
7	中国の千字文②(張)
8	中間復習まとめ(張)
9	中国概況(高)
10	中国の飲食習慣(高)
11	中国の節日(高)
12	中国の交際礼儀(高)
13	中国の現代の大学生(高)
14	現代中国の抱える問題(高)
15	総括まとめ(張・高)

【履修上の注意事項】

事前に授業の内容を予習することと毎回授業が終わった後復習すること。

【評価方法】

レポート 40%
小テスト 20%
試験 40%

【テキスト】

講義時プリント配布

【参考文献】

適宜紹介する。

中国事情Ⅱ

担当教員 高 継芬、孫 冬梅

配当年次 1年

開講時期 第2学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

アジア文化

担当教員 高 継芬、安藤 学、金 蘭九、李 玄玉、孫 冬梅

配当年次 1年

開講時期 第1学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

アジアの国々と地域の文化形成過程(文化史)を学修し、それぞれの文化における共通性と異質性を認識することによって異文化への理解を深めることをねらいとする。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	文化とは(安藤)
2	タイの文化(その歴史と現在)(安藤)
3	日韓文化の遠近(金)
4	日中の歴史について(未定)
5	日中旅遊観光の文化について(未定)
6	日中教育の文化について(未定)
7	台湾の文化について(高)
8	韓国から日本へ伝えられた様々な文化について(李)
9	「飛鳥」という地名の意味、由来…(李)
10	日本語の「鳥・とり」と韓国語の「Dori」について(李)
11	日中文化における共通性と異質性 漢字の比較(高)
12	日中文化における共通性と異質性 論語について(高)
13	日中文化における共通性と異質性 衣食住の比較(高)
14	日本の文化を知る(高)
15	文化についてのディスカッション(担当者全員)

【履修上の注意事項】

アジア文化の関連する本を事前に読んでいただくとスムーズに受講できます。

【評価方法】

レポート 20%
小テスト 40%
試験 40%

【テキスト】

講義時プリント配布

【参考文献】

適宜に紹介する。

基礎生物科学

担当教員 水崎 幸一、未定

配当年次 1年

開講時期 第1学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

公衆衛生学

担当教員 嶋 政弘

配当年次 2年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

- 1 現代における健康課題を理解するために、その基礎となる知識と技能を習得する。
- 2 私たちを取り巻く自然・社会環境や人々の活動を理解し、心身ともに健康で豊かなQOLの向上を目指すことができる。

【授業の展開計画】

授業の概要

現代の生活様式や環境に起因する様々な健康課題に関心を持ち、それに対し、私たちはどのようにかかわっていくかというテーマで構成する。

そのために、ペアを中心としたディスカッションを随所に仕組み、根拠を示しながら自分なりの考えを述べることを目指す。

授業計画

- 第1回：健康の定義と位置づけ
- 第2回：健康の要因と公衆衛生の特徴
- 第3回：公衆衛生の歴史（公衆衛生の発展に寄与した人物を基に）
- 第4回：予防医学とヘルスプロモーション
- 第5回：健康な社会を目指して① 健康の測定と健康指標
- 第6回：健康な社会を目指して② 人口に関する現状と課題を中心に
- 第7回：健康な社会を目指して③ 新生児～学童期の生命（母子保健を含む）
- 第8回：集団の傾向の把握① 疫学的考えに基づく解析
- 第9回：集団の傾向の把握② 実態把握の方法とバイアス
- 第10回：集団の傾向の把握③ データの種類と解釈
- 第11回：感染症とその予防① 感染症成立の条件と発症までの経緯
- 第12回：感染症とその予防② 感染症に関する現状と傾向（予防と根絶を含む）
- 第13回：食品保健と栄養① 食品の安全（食中毒）と現状
- 第14回：食品保健と栄養② 食品の機能と安全性
- 第15回：生活習慣病 主な生活習慣病の原因と健康影響（予防と対策を含む）

【履修上の注意事項】

- 1 ペアによるディスカッションをするため、ペアを作って着席する。
- 2 すべてのペアに発言の機会があるので、常に自分の考えを持って参加する。

【評価方法】

ディスカッションへの参加40%，課題提出20%，期末試験40%で評価する。
追試験は実施しない。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献】

毎回、資料（学習プリント）を配布する。参考資料については、授業の中で随時提示する。

環境衛生学

担当教員 星野 輝彦

配当年次 2年

開講時期 第2学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

環境因子と人との相互関係を理解し、生活環境の安全の確保と健康の維持・増進の重要性を認識できる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	環境衛生学概論：環境衛生の歴史
2	環境因子と人体：環境物質の体内動態と毒性、安全の基準
3	環境化学：生態系と物質動態
4	地球環境の化学：オゾン層破壊、地球温暖化、酸性雨
5	環境因子と健康：化学的因子（重金属、農薬、工業薬品など）の健康への影響
6	環境因子と健康：化学的因子（環境ホルモンなど）の健康への影響
7	環境因子と健康：生物学的因子（病原微生物など）の健康への影響
8	環境因子と健康：物理的因子（放射線など）の健康への影響
9	環境因子と健康：物理的因子（温熱、圧力、騒音など）の健康への影響
10	大気環境と健康：大気汚染の状況と対策
11	水環境と健康：水に由来する健康被害、水質汚濁状況と対策
12	食品環境と健康：食品汚染と食中毒
13	生活環境と健康：室内の汚染物質
14	生活環境と健康：廃棄物の分類と処理方法
15	環境影響評価と対策：環境アセスメント

【履修上の注意事項】

講義予定の項目を予習すること。受講後、復習しておくこと。
出欠は出席カードを用います。出席カードの裏に講義の感想を書くこと。

【評価方法】

試験90%、レポート10%

【テキスト】

各講義の際に資料を配布する。

【参考文献】

「環境衛生の科学」篠田純男、那須正夫、黒木広明、三好伸一（三共出版）
「環境衛生科学」大沢基保、内海英雄（南江堂）

生命倫理

担当教員 柴田 恵子、松本 鈴子、川本 起久子、二宮 球美、小林 幸人、村田 宮彦

配当年次 1年

開講時期 第1学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

生命に関する倫理的諸問題について、人はどのように対処すべきだと考えられるかについて理解する。先端医療をはじめとするバイオテクノロジーの発展がもたらす恩恵とそれにともない問われることになった生命の意味について、基本的概念とその問題点の学びから生命倫理学に関心をもち、保健・医療・福祉の従事者としての考えを深められるようになる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション、現代社会と生命倫理：生命の質（柴田）
2	インフォームド・コンセント（柴田）
3	周産期医療と生命倫理（松本）
4	小児期の保健・医療と生命倫理（二宮）
5	尊厳死（川本）
6	安楽死（川本）
7	終末期ケア（川本）
8	パターナリズムと患者の権利（小林）
9	自律とwell-being（小林）
10	専門職の役割・責務（小林）
11	医療資源の配分（柴田）
12	パーソン論（柴田）
13	ケアと生命倫理（柴田）
14	倫理の源を考える：規範倫理学の時代（村田）
15	倫理の源を考える：応用倫理学の発展（村田）

【履修上の注意事項】

レポート発表、グループワークを行うので積極的に授業に参加をすること。課題に対して自分の意見を準備しておくこと。第1回目のオリエンテーション時に授業予定、授業前・後の学習について説明をするので、具体的な学習方法を考え実践すること。課題レポートは授業前の学習であり、講義期間中の小テストはそれまでの学習の復習を兼ねた事後学習である。

【評価方法】

定期試験：60%、学習態度・状況（レポート提出、グループ活動の参加と発表）：40%

【テキスト】

随時、紹介する。

【参考文献】

『生命倫理学を学ぶ人のために』（加藤尚武・加茂直樹編）世界思想社

人間工学

担当教員 西島 衛治

配当年次 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

トレーニング科学

担当教員 未定

配当年次 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

本授業の目的は、学修者がスポーツトレーニングに要求されるスポーツ競技力の向上や健康体力づくりを効果的に実践ならびに指導するために、運動に対する身体の構造・機能の適応メカニズムを理解し、性別や発育なども念頭に置きながら、筋力、パワー及び全身持久力の基本的なトレーニングについて学び自ら実践、説明できるようになる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	トレーニング科学とは
2	トレーニングの条件
3	体力とトレーニングの関係
4	有酸素性機能ー全身持久力
5	有酸素性機能ー筋持久力
6	無酸素性機能ー筋力
7	無酸素性機能ーパワー
8	神経機能ー巧緻性
9	神経機能ー敏捷性・スピード
10	神経機能ーバランス・柔軟性
11	身体組成・体型
12	ウォーミングアップとクーリングダウン
13	オーバーエクササイズ：身体的側面の問題点
14	オーバーエクササイズ：精神的側面の問題点
15	まとめ

【履修上の注意事項】

授業後に復習をしておくこと

【評価方法】

授業内課題(10%)、クイズ(15%)、自主的学修態度(5%)、試験等(70%)を総合的に判断し評価する。

【テキスト】

授業時にプリントを配布する。

【参考文献】

トレーニング科学：北川薫
 スポーツトレーニングの基礎理論：横浜市スポーツ医科学センター

情報リテラシー I

担当教員 森 信之

配当年次 1年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 演習

単位数 2

【授業のねらい】

高校における「情報」の履修を踏まえ、大学生として、また社会にでてからも必要となっていく「情報活用力（情報リテラシー能力）」を高めていくことがねらいである。これにより、これからの高度情報化社会に対応した、身の回りの情報環境を、自ら、積極的に、利活用できるようになることを目指す。

【授業の展開計画】

1. はじめに：情報教育システムの利用方法の解説，初期パスワードの変更，教務システムの説明
2. キーボード・日本語入力練習 他
3. E-mail の利活用① ネットワークと電子メールの仕組み，アカウント設定，送信受信チェック
4. E-mail の利活用② アドレス帳の設定，署名作成，返信・転送の演習 他
5. 情報リテラシーと情報モラル，情報セキュリティについて
6. Word の基本操作①：段落・ページ設定，段組，段落番号 他
7. Word の基本操作②：インデント，ヘッダー・フッター 他
8. 総合演習（1）Word のページレイアウトの演習（レポート提出課題）
9. Word の基本操作③：罫線，クリップアート，図の挿入とレイアウト 他
10. 総合演習（2）Word の罫線とクリップアートの演習（レポート提出課題）
11. Paint による作図・描画，Word の図形描画機能
12. 総合演習（3）Word の図形描画機能の演習（レポート提出課題）
13. WWW による情報検索・収集と Word によるレポート作成
14. WWW と ICT 関連法規，ネチケット，情報セキュリティ他
15. まとめと総括

【履修上の注意事項】

この科目は、「パソコンを使って楽しく遊ぶ」だけの時間ではない。学生として様々なことを学ぶために有効な、さらに、卒業した後も情報社会の一員として戸惑うことなく生きていくことができるようにするために必要な情報活用力を身に付ける大切な場である。したがって、学科の専門科目と同じ態度で授業に臨むことが求められる。教員が説明する際は、板書講義科目と同様、ノートをとるなどして傾聴すること。

【評価方法】

課題レポートと、筆記・実技試験の結果を総合的に判断する。配点は、レポート40%、試験60%。再試験は行なう。レポートについては、次の講義の時間にフィードバックする。

【テキスト】

テキストを開発・作成し、適宜、資料として配布する。

【参考文献】

講義形式の授業の理解については、高校で使用した情報のテキストが役立つ。演習形式の授業の理解については、適宜紹介する。

情報リテラシーⅡ

担当教員 森 信之

配当年次 1年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 第2学期

授業形態 演習

単位数 2

【授業のねらい】

高校における「情報」の履修を踏まえ、大学生として、また社会にでてからも必要となっていく「情報活用力（情報リテラシー能力）」を高めていくことがねらいである。これにより、これからの高度情報化社会に対応した、身の回りのパソコンやネットワークなどの情報環境を、自ら積極的に、利活用できるようになることを目指す。

【授業の展開計画】

1. Excelの応用① 複合グラフ，散布図，近似直線（回帰直線）
2. Excelの応用② オートフィル，絶対参照と相対参照
3. Excelの応用③ 日付・時間の表示形式 他
4. Excelの応用④ 様々な関数の利用・関数の検索
5. Excelの応用⑤ IF関数とIFの組合せ，COUNTIF，SUMIF，AVERAGEIF
6. Excelの応用⑥ ピボットテーブル
7. Excelの応用⑦ 並べ替え
8. Excelの応用⑧ フィルター
9. Excelの応用⑨ 検索，置換
10. Excelの応用⑩ 条件付き書式
11. ExcelとWordのデータ連携
12. Web上のデータのExcel，Wordでの利活用
13. PowerPointの基本① スライド作成，デザイン・配色，スライドショー
14. PowerPointの基本② スライドの切り替え効果，図・表・グラフの挿入
15. PowerPointの基本③ オブジェクトのアニメーション，ハイパーリンク

【履修上の注意事項】

基本操作が充分理解できていない場合は，事前に予習をしておくこと。また，講義中はノートをしている時間はないので，復習する中で自分の理解を確かめながら，手順や注意事項をメモするように。

【評価方法】

課題レポートと，筆記・実技試験の結果を総合的に判断する。配点は，レポート40%，試験60%。再試験は行なう。レポートについては，次の講義の時間にフィードバックする。

【テキスト】

テキストは使用しない。適宜，資料を配布する。

【参考文献】

講義中に，適宜紹介する。

物理学

担当教員 森 信之

配当年次 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

物理学は、自然界のあらゆる出来事に対し、科学的思考によってその本質を明らかにしようという学問です。本講義は、医療・福祉分野において必要となるであろう項目を取上げますが、その学修により、観察事実に基づく科学的思考、分析的思考を身に付けることも目指します。

【授業の展開計画】

1. 力とベクトル、力の合成・分解、作用反作用、力のつり合い
2. 力のモーメント、槌子(てこ)の原理、モーメントのつり合い
3. 体の構造と槌子、重心と安定性
4. 圧力、サイフォン、ドレナージ(吸引)
5. 速度、加速度、ニュートンの運動の法則
6. 重力と重力加速度、一様重力による運動
7. 等速円運動、単振動、波
8. 運動量と運動量保存則、はね返り係数
9. 仕事と力学的エネルギー
10. 種々のエネルギーとエネルギー保存則
11. 電場、静電気力; 磁場、磁力
12. 電流、電位差、オームの法則
13. 電磁波、光
14. 直流回路、交流回路
15. 原子核と放射線、半減期

【履修上の注意事項】

黒板に書かれたことをただ写すだけでなく、講義を聞いて、なぜそうなのかを考えながら、要点をまとめてノートするようにしてください。自分の頭で考えることなしに、物理学や科学的思考を理解することはできないからです。

【評価方法】

筆記試験を行ない、その結果のみで評価します。

【テキスト】

使用しません。適宜、プリントを配布します。

【参考文献】

必要に応じ、講義中に示します。

数学

担当教員 森 信之

配当年次 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

この講義では、数学の基礎を理解し、問題演習を通して「論理的思考」や「数学的思考」ができるようになることを目指す。

【授業の展開計画】

1. イントロダクション/数と演算
2. 度数と分布
3. 平均値のいろいろ
4. 比と比率と割合
5. 比率（静的・動的）
6. リスク比，オッズ比
7. 累乗関数とその性質
8. 指数関数とその性質
9. 対数関数とその性質
10. グラフの描き方・読み方
11. 経験的確率と理論的確率
12. 根元事象と場合の数，順列・組合せ
13. 2項分布とポアソン分布
14. 条件付き確率，期待値
15. ベイズの定理

【履修上の注意事項】

テキストを使用しないので、講義中のノートをしっかり取るだけでなく、事前学習が必要になる。また毎回、前の週の確認テストを行なうので、復習をし、特に授業中の演習問題は、もう一度解いてみて、その考え方のプロセスを学ぶこと。

「数理的な思考」を身に着けるには、自分の頭で考えてみるのが大切です。

【評価方法】

毎回の小テストと定期試験を、1：4で評価する。小テストの結果は、その講義中にフィードバックします。

【テキスト】

テキストは使わず、必要に応じてプリントを配布する。

【参考文献】

講義中に、適宜、指示する。

化学

担当教員 水崎 幸一

配当年次 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

環境科学

担当教員 安藤 学

配当年次 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

環境問題というものをどのようにとらえるか、またその環境問題をどのようにして解決していくかを自然と人間との関係から考え、その解決方法を修得できる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	環境とは
2	環境科学とは
3	自然環境と人間
4	都市・工業国と農村・農業国
5	人間の活動と地球バランス
6	地球・生物圏・生態系
7	食糧か環境保全か
8	農耕地生態系
9	農業の工業化・機械化
10	持続可能な社会を構築する条件
11	経済効率と入会地の悲劇
12	入会地としての税金
13	汚染者負担の原則
14	今後の環境問題
15	環境問題についての対策

【履修上の注意事項】

努めて出席すること。ノートをきちんと毎回とること。授業前に出された課題を完成させて授業に臨むこと。授業後は授業前の課題について、自分で完成させた内容と授業で学んだことを比較して復讐すること。

【評価方法】

レポート提出（80%）、授業への取り組む態度（20%）

【テキスト】

【参考文献】

適宜紹介する

2 專門基礎分野

解剖学 I

担当教員 浅井 福太郎

配当年次 1年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

人体の正常な構造を学び、イメージできるようになることを目的とする。本講座では人体の構成単位である細胞・組織の微細構造を理解でき、さらに鍼灸の臨床にとって最も大事な体表解剖の指標となる運動器（骨格・筋肉）の構造と機能について理解できるようになる。併せて、循環器についても構造を理解する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	人体の構成 細胞と組織
2	人体の構成 体表構造と人体の区分
3	運動器系 総論
4	運動器系 全身の骨格 1
5	運動器系 全身の骨格 2
6	運動器系 全身の骨格 3
7	運動器系 体幹
8	運動器系 上肢 1
9	運動器系 上肢 2
10	運動器系 下肢 1
11	運動器系 下肢 2
12	運動器系 頭頸部
13	循環器系 血管、心臓
14	循環器系 動脈、静脈
15	循環器系 胎児循環、リンパ系

【履修上の注意事項】

予習として予告した内容を教科書を読み十分に把握しておくこと。
復習として授業内容中の指示された図をスケッチすること。

【評価方法】

期末試験（80%）、および小テスト（20%）による総合評価

【テキスト】

解剖学 第2版 河野邦雄、伊藤隆造著（医歯薬出版）、解剖学マスター 影山 照雄（医道の日本社）
カラー人体解剖学（西村書店）

【参考文献】

解剖学Ⅱ

担当教員 本田 泰弘

配当年次 1年

開講時期 第2学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

解剖学Ⅱでは呼吸器系、消化器系、泌尿器系、生殖器系、感覚器系、内分泌系、脳神経系の構造と機能について理解説明できる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	呼吸器系：(1) 鼻腔、副鼻腔、咽頭
2	呼吸器系：(2) 喉頭、気管、気管支、肺
3	消化器系：(1) 口腔、食道、胃
4	消化器系：(2) 小腸、大腸
5	消化器系：(3) 肝臓、胆嚢、膵臓
6	泌尿器系：腎臓、尿路
7	生殖器系：(1) 男性生殖器系
8	生殖器系：(2) 女性生殖器系
9	感覚器系：(1) 視覚器
10	感覚器系：(2) 平衡感覚器、味覚器、嗅覚器
11	内分泌系
12	脳神経系：(1)
13	脳神経系：(2)
14	脳神経系：(3)
15	脳神経系：(4)

【履修上の注意事項】

予習として教科書で予告した内容を十分に把握しておくこと。
復習として授業中に配布した資料を用いて、教科書の内容を説明できるようにすること。

【評価方法】

レポート提出を20点に換算し、筆記試験80点、合計100点とし、60点以上を合格とする。
なお、再試験は筆記試験のみで評価する。

【テキスト】

解剖学 第2版 河野邦夫 伊藤隆造著 医歯薬出版株式会社、解剖学マスター 影山照雄著 医道の日本社
カラー人体解剖学 構造と機能 ミクロからマクロまで 西村書店

【参考文献】

組織学

担当教員 齋田 和孝

配当年次 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

組織学とは、解剖学をさらに微細構造学的な視点から理解を深める学問である。とくに生理学や病理学の修得にも必須の基礎的内容となる。本講義では、①基本的な組織の分類とその微細構造の特徴を説明できる、②人体を構成する各臓器系の正常組織構造の特徴を生理機能と関連付けながら説明できる、の2点を目的とし、病理学や各種疾患における病態生理や症状を説明できるようになるための基礎を身につける。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	組織学総論（染色法、観察法）、組織の分類
2	細胞の構造
3	上皮組織と結合組織
4	軟膏・骨組織、脂肪組織
5	血液、骨髄、免疫系
6	筋組織
7	神経組織
8	皮膚、眼、耳
9	心血管系とリンパ系
10	呼吸器系
11	消化器系 ①消化管
12	消化器系 ②肝・胆嚢・膵
13	泌尿器系
14	内分泌系
15	男性及び女性生殖器系

【履修上の注意事項】

必ず解剖学と生理学を復習しておくこと。受講前に教科書の該当項目を必ず読んでおくこと。授業後は自分でノートを整理して復習すること。

【評価方法】

筆記試験100%とし、筆記試験60点以上を合格とする。欠席5回を超えたら単位を認定しない。

【テキスト】

「入門組織学（改訂第2版）」著：牛木辰男、南江堂

【参考文献】

「カラーアトラス機能組織学」監訳：藤本豊士、牛木辰男、南江堂
「Ross組織学（原書第5版）」監訳：内山安男、相磯貞和、南江堂

解剖学Ⅲ（講義・演習）

担当教員 本田 泰弘

配当年次 2年

単位区分 必修

開講時期 第1学期

授業形態 講義・演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

解剖学Ⅲでは呼吸器系・消化器系・感覚器系・泌尿器系・生殖器系・内分泌系の構造と機能について理解、説明できる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	呼吸器系：(1) 鼻腔、副鼻腔、咽頭
2	呼吸器系：(2) 喉頭、気管、気管支、肺
3	呼吸器系：(3) 呼吸器系のまとめ
4	消化器系：(1) 口腔、食道、胃
5	消化器系：(2) 小腸、大腸
6	消化器系：(3) 肝臓、胆嚢、膵臓
7	消化器系：(4) 消化器系のまとめ
8	泌尿器系：腎臓、尿路
9	生殖器系：(1) 男性生殖器系
10	生殖器系：(2) 女性生殖器系
11	生殖器系：(3) 生殖器系のまとめ
12	感覚器系：(1) 視覚器
13	感覚器系：(2) 平衡聴覚器、味覚器、嗅覚器
14	内分泌系
15	その他

【履修上の注意事項】

予習として教科書で予告した内容を十分に把握しておくこと。
復習として授業中に配布した資料を用いて、教科書の内容を説明できるようにすること。

【評価方法】

レポート提出を20点に換算し、筆記試験80点、合計100点とし、60点以上を合格とする。
なお、再試験は筆記試験のみで評価する。

【テキスト】

解剖学 第2版 河野邦雄 伊藤隆造著 医歯薬出版

【参考文献】

講義時に適宜紹介する。

生理学 I

担当教員 齋田 和孝

配当年次 1年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

疾患の理解や治療の実践においては、正常な人体の機能（生理学）の正しい理解が必要不可欠である。生理学 I では、まず生理学の基礎として細胞機能および活動電位の仕組みを説明できるようになること、続いて、血液、呼吸および心機能と血液循環に関する基礎理論を理解し、これらの正常状態を正しく説明できるようになることを目的とする。サブテキストを用いた小テストを通して、さらに理解を深める。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	細胞機能の基礎
2	血液：赤血球、ヘモグロビン、鉄代謝、血液型
3	血液：白血球、免疫
4	血液：血小板、血液凝固
5	呼吸：呼吸器系の構造、換気機能、呼吸力学 (小テスト)
6	呼吸：ガス交換、呼吸ガスの運搬
7	呼吸：呼吸運動の調節
8	酸塩基平衡
9	心臓：膜電流 (小テスト)
10	心臓：自律神経による調節
11	心臓：心電図、心臓の収縮
12	循環：血管の構造と機能、血行力学
13	循環：大循環、微小循環
14	循環：循環調節
15	循環：特殊部位の循環、リンパ循環 (小テスト)

【履修上の注意事項】

高校の生物および化学を復習しておくこと。受講前に教科書の該当項目を必ず読んでおくこと。授業後は自分でノートを整理して復習しておくこと。

【評価方法】

小テスト3回分を15点に換算、筆記試験85点、合計100点とし、60点以上を合格とする。欠席5回を超えたら単位を認定しない。再試験は筆記試験のみで評価する。

【テキスト】

1. 「生理学テキスト（第8版）」著：大地睦夫. 文光堂
2. 「生理学マスター」著：影山照雄. 医道の日本社

【参考文献】

1. 「標準生理学（第8版）」監修：小澤澗司、福田康一郎. 医学書院
2. 「ガイトン生理学 原著第11版」総監訳：御手洗玄洋. エルゼビア・ジャパン

生理学Ⅱ

担当教員 齋田 和孝

配当年次 1年

開講時期 第2学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

疾患の理解や治療の実践においては、正常な人体の機能（生理学）の正しい理解が必要不可欠である。生理学Ⅱでは、消化・吸収と代謝機能、腎機能と体液の調節、および筋と神経に関する生理機能の基本的な仕組みを説明できるようになることを目的とする。サブテキストを用いた小テストを通して、さらに理解を深める。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	消化と吸収：消化管の構造と神経支配
2	消化と吸収：消化管運動
3	消化と吸収：消化液の分泌
4	消化と吸収：栄養素の分解と吸収
5	栄養素の代謝、エネルギー代謝
6	腎機能：機能的構造、糸球体濾過 (小テスト)
7	腎機能：尿細管機能、尿の濃縮
8	腎機能：体液の調節、浸透圧、排尿機能
9	活動電位、イオンチャネル
10	骨格筋の収縮
11	シナプス伝達（神経筋接合部、中枢神経系のシナプス伝達） (小テスト)
12	運動系：脊髄、脳幹
13	運動系：小脳、大脳基底核
14	脳の統合機能：大脳皮質、大脳辺縁系
15	脳の統合機能：脳波、睡眠、学習、記憶 (小テスト)

【履修上の注意事項】

高校の生物および化学を復習しておくこと。受講前に教科書の該当項目を必ず読んでおくこと。授業後は自分でノートを整理して復習しておくこと。

【評価方法】

小テスト3回分を15点に換算、筆記試験85点、合計100点とし、60点以上を合格とする。欠席5回を超えたら単位を認定しない。再試験は筆記試験のみで評価する。

【テキスト】

1. 「生理学テキスト（第8版）」著：大地睦夫、文光堂
2. 「生理学マスター」著：影山照雄、医道の日本社

【参考文献】

1. 「標準生理学（第8版）」監修：小澤澗司、福田康一郎、医学書院
2. 「ガイトン生理学 原著第11版」総監訳：御手洗玄洋、エルゼビア・ジャパン

生理学Ⅲ（講義・演習）

担当教員 齋田 和孝、田口 太郎、浅井 福太郎

配当年次 2年

開講時期 第2学期

単位区分 必修

授業形態 講義・演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

疾患の理解や治療の実践においては、正常な人体の機能（生理学）の正しい理解が必要不可欠である。生理学Ⅰ・Ⅱで一通り学んだ内容を基礎として、ホメオスタシスおよび感覚機能に関する機能の正常状態の仕組みを説明できるようになることを目的とする。後半では、実際のデータを見ながら生理学的現象を説明できるようになることを目的とした演習をおこなう。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	
1	内分泌：ホルモン、視床下部・下垂体	齋田
2	内分泌：副腎皮質、副腎髄質	齋田
3	内分泌：甲状腺、膵臓	齋田
4	内分泌：カルシウム代謝の調節、性ホルモン	齋田
5	生殖	齋田
6	自律神経系 (小テスト)	齋田
7	体性感覚・内臓感覚	齋田
8	聴覚・前庭感覚	齋田
9	視覚	齋田
10	体温調節 (小テスト)	齋田
11	演習（1）心電図の測定	齋田・田口・平崎・井手・花田
12	演習（2）負荷心電図①トレッドミル	齋田・田口・平崎・井手・花田
13	演習（3）負荷心電図②エルゴメーター	齋田・田口・平崎・井手・花田
14	演習（4）誘発筋電図の測定：H波、M波	齋田・田口・平崎・井手・花田
15	演習（5）聴覚・平衡覚の測定：聴覚脳幹反射・重心動揺	齋田・田口・平崎・井手・花田

【履修上の注意事項】

高校の生物および化学を復習しておくこと。受講前に教科書の該当項目を必ず読んでおくこと。授業後は自分でノートを整理して復習しておくこと。演習には必ず出席すること。演習に欠席した場合、その項目のレポートは0点となる。

【評価方法】

小テスト2回分を10点に換算、筆記試験90点、合計100点とする。これに、演習のレポート各10点（計50点）を加えて合計150点とし、100点満点に換算して60点以上を合格とする。欠席が5回を超えたら単位を認定しない。再試験は筆記試験のみで評価する。

【テキスト】

1. 「生理学テキスト（第8版）」著：大地睦夫. 文光堂
2. 「生理学マスター」著：影山照雄. 医道の日本社

【参考文献】

1. 「標準生理学（第8版）」監修：小澤澗司、福田康一郎. 医学書院
2. 「ガイトン生理学 原著第11版」総監訳：御手洗玄洋. エルゼビア・ジャパン

生活栄養学（スポーツ栄養学Ⅰ）

担当教員 田中 眞知子

配当年次 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

本講義では、学習者が健康増進やスポーツ活動を支えるえいようについて基本的な知識を得ること、体重管理法の実際、および運動時の水分摂取の意義と実際について理解を深めること、最新のスポーツ栄養ガイドラインを正しく理解できる能力を身につける。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	健康増進と食生活、アスリートのための適切な栄養補給の必要性と基本的な考え方を理解する
2	栄養素の機能と代謝、5大栄養素を理解する
3	消化吸収機能の概要を理解する
4	推定エネルギー必要性の考え方、エネルギー消費量の定量法を学ぶ
5	食事アセスメントについて一主なアセスメント指標を理解する一
6	栄養指導の基本（1）食生活指針と策定の背景、食事バランスガイドの活用法を理解する
7	栄養指導の基本（2）事例から学ぶ食事の問題点と介入法
8	栄養摂取と運動（1）エネルギー、たんぱく質と運動の関係を理解する
9	栄養摂取と運動（2）肥満改善のための運動法、ダイエット法
10	スポーツ選手の栄養（1）栄養状態の評価法、筋肉づくりについて理解する
11	スポーツ選手の栄養（2）グリコーゲンローディングについて学ぶ
12	スポーツ選手の栄養（3）スポーツ選手の貧血、運動と活性酸素の関係を学ぶ
13	スポーツ選手の栄養（4）水分摂取の意義と方法、熱中症について理解を深める
14	スポーツ選手の栄養（5）サプリメントの種類と使用に当たっての注意点を学ぶ
15	アクティブガイドについて理解を深める

【履修上の注意事項】

授業の際、DVDを視聴することがあり、関連項目のミニテストを行うことがある。
授業前にはテキストを熟読し、授業終了後は復習を行うこと

【評価方法】

講義終了後（16回目）に筆記試験を実施する（70%）
授業時のミニテスト（10%）
レポート作成（20%）で総合的に評価する。

【テキスト】

スポーツと健康の栄養学 下村吉治 有限会社ナップ（NAP）

【参考文献】

講義の中で、適宜指示する。

医用工学

担当教員 樋口 マキエ、千場 梅子、羽手村 昌宏、肥合 康弘、富吉 勝美、荒木 不次男

配当年次 1年

開講時期 第2学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

スポーツ医学概論

担当教員 井手 裕子

配当年次 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

学修者が、人の一生において体を動かすことの意味を考えながら、運動にかかわる構造と機能を理解でき、これを基盤に、人々のQOLの向上と健康寿命の延長に寄与するスポーツの意義を認識できる。さらにアスリートの自己管理および心身の健康に配慮した指導や支援を可能にするために、問題発生の予防と解決に関して、その基盤となる医学的知識を習得できる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	運動器のしくみとはたらき
2	呼吸循環器系の働きとしくみ
3	身体活動とエネルギー供給
4	アスリートの健康管理
5	アスリートの内科的障害と対策
6	特殊環境下での対応
7	アンチドーピング：ドーピングコントロールを含む
8	スポーツバイオメカニクスの基礎：運動の力学的なとらえ方
9	スポーツバイオメカニクスの基礎：走る、跳ぶ、投げる、泳ぐ、蹴るなど
10	スポーツと健康
11	スポーツ活動中に多いケガや病気
12	アスリートの外傷・障害対策
13	アスレティックリハビリテーションとトレーニング計画
14	コンディショニングの手法
15	スポーツによる精神障害と対策

【履修上の注意事項】

本講義は、日本体育協会公認スポーツ指導者資格適応科目となっているため、そのカリキュラム目標に沿って講義が展開される。アスレティックトレーナー資格取得を目指す学生は必ず受講のこと

授業後に復習をしておくこと

【評価方法】

課題レポート(20%)、自主的学修態度(10%)、試験等(70%)を総合的に判断し評価する。

【テキスト】

公認スポーツ指導者養成テキスト共通科目Ⅰ

公認スポーツ指導者養成テキスト共通科目Ⅲ 日本体育協会

【参考文献】

授業中に、適宜紹介する

運動学

担当教員 山下 忍

配当年次 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

運動学は人の運動行動を知るための学問であり、運動の科学的な解析、研究を種々の医学的分野と理工学的分野の知識、手技、手段を利用して理解し、人間の運動機能を十分に理解できるようになる。さらに臨床的側面から体力増進、運動機能の低下、それに伴う機能低下の予防、治療のための運動療法について把握できるようになる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	運動学の概要、及び運動の階層性について説明できる
2	運動の解析に必要な身体計測の方法について説明できる
3	筋力検査法の表示法、判定基準、及び要点について説明できる
4	運動力学から見た身体機能について説明できる
5	筋の構造と機能について説明できる
6	筋収縮の分類と特徴について説明できる
7	画像診断装置を用いて筋収縮の仕組みを説明できる
8	運動と循環器の機能について説明できる
9	関節トルク、反射行動について説明できる
10	トレーニングの種類とその効果について説明できる
11	デイトレーニングにおける身体機能の特徴を説明できる
12	運動の制御と出現について説明できる
13	姿勢について説明できる
14	歩行について説明できる
15	運動学習の効果について説明できる

【履修上の注意事項】

予習として教科書で予告した内容を十分に把握しておくこと。
 復習として授業内容中の指示された図をスケッチすること。
 授業後オリジナル出席カードの備考欄に授業の内容および感想を必ず書くこと。

【評価方法】

レポート30%、自主的学習態度20%、小テスト50%による総合評価

【テキスト】

『基礎運動学 第六版』中村隆一、斉藤宏著（医歯薬出版）

【参考文献】

『臨床運動学 第3版』中村隆一、斉藤宏著（医歯薬出版）

バイオメカニクス

担当教員 加藤 浩

配当年次 3年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

バイオメカニクスは、身体運動のメカニズムを力学的側面から究明する学問である。実際に臨床現場あるいはスポーツ現場では、対象者やスポーツ選手の姿勢・動作分析を行う際、バイオメカニクス等の知識を用いて障害構造の評価、運動能力の評価、そして治療プログラムを立案を進めている場合が多い。人が「歩く」、「走る」、「跳躍する」等ということはバイオメカニクスの視点から見れば、どのような意味があるのか？身体運動・動作のメカニズムを生体力学の観点から科学的に説明出来ることを目標とする。

【授業の展開計画】

- 1□オリエンテーション
- 2□力とは何か？「ベクトル」
- 3□身体に働く力「万有引力から重力を捉える」
- 4□身体に働く力「重力加速度」
- 5□身体に働く力「重力実技（動作分析の基礎）」
- 6□身体に働く力「重力実技（起き上がりの動作分析）」
- 7□身体に働く力「運動の3法則」
- 8□身体に働く力「床反力」
- 9□身体に働く力「床反力と摩擦力」
- 10□身体に働く力「筋力」
- 11□身体に働く力「筋パワー」
- 12□身体に働く力「外部関節モーメント」
- 13□身体に働く力「内部関節モーメント」
- 14□身体に働く力「関節パワー」
- 15□身体に働く力「床反力実技」

【履修上の注意事項】

講義では時間の制約上、広く浅く講義することとなる。バイオメカニクスは動作分析・姿勢分析を実践する上で必要不可欠な重要な科目の1つであることから、学生の十分な予習、復習が必要である。

【評価方法】

定期試験を100%として評価する。

【テキスト】

【参考文献】

Kirsten Gotz-Neumann：観察による歩行分析．医学書院，東京，2005，2．江原義弘・山本澄子：ボディダイナミクス入門 歩き始めと歩行分析．医歯薬出版．2002

運動生理学

担当教員 坂本 将基

配当年次 1年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

1. 学修者が体の構造と機能に関する基礎を理解し、説明できるようになる。
2. 学修者が運動に対する体の応答や運動トレーニングによる体の適応を理解し、説明できるようになる。
3. 学修者が特殊環境下での運動時のからだの働きを理解し、説明できるようになる。”

【授業の展開計画】

1. 運動と呼吸
2. 運動と循環（心臓）
3. 運動と循環（血液）
4. 神経系による運動の調節（末梢神経）
5. 神経系による運動の調節（中枢神経）
6. 骨格筋と運動（筋収縮のエネルギー供給）
7. 骨格筋と運動（筋線維の種類とその特徴）
8. 運動と内分泌
9. 運動中の基質・エネルギー代謝（疲労を含む）
10. 運動と免疫能
11. 運動と環境（高温・寒冷環境）
12. 運動と環境（水中環境）
13. 運動と体温調節
14. 運動と発育・発達・老化
15. 運動時の水分・栄養摂取”

【履修上の注意事項】

授業前には資料や参考文献に目を通し、授業で取り扱う内容を大まかに把握しておくこと。また、毎回の授業終了後、授業内容の理解を深めるよう各自努めること。”

【評価方法】

期末筆記試験による(100%)

【テキスト】

受講にテキストは必須ではないが、自学のために以下の参考文献を推薦する。

【参考文献】

受講にテキストは必須ではないが、自学のために以下の参考文献を推薦する。

機能解剖学 I

担当教員 平崎 和雄

配当年次 1年

開講時期 第2学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

“ 学修者は、アスレティックトレーナーが行う、選手の動作の運動学的観察、スポーツ障害の評価、原因の同定、アスレティックリハビリテーションなどのトレーナー活動に必要な人体の構造と機能について理解する。そのために、運動器の骨、筋、靭帯、関節、神経支配と身体運動を関連付けて学習し、理解することができる。”

【授業の展開計画】

以下の項目について、講義・実習形式で学習を進める。

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション
2	運動器総論
3	運動学総論
4	身体運動と骨の構造・機能
5	身体運動と筋の構造・機能
6	身体運動と関節の構造・機能
7	身体運動と腱・靭帯の構造・機能
8	身体運動と骨格筋の構造・機能（体幹）
9	身体運動と骨格筋の構造・機能（上肢）
10	身体運動と骨格筋の構造・機能（下肢）
11	身体運動と神経系総論
12	身体運動と中枢神経
13	身体運動と末梢神経（体幹）
14	身体運動と末梢神経（上肢）
15	身体運動と末梢神経（下肢）

【履修上の注意事項】

“すでに「解剖学 I」「生理学 I」を履修しておくこと
アスレティックトレーナーを目指す者は、必ず履修すること。
授業前は、今回扱う部位の起始停止作用を予習し、授業後は、扱った起始停止作用を復習すること”

【評価方法】

受講態度、提出物、定期試験等を総合的に判断し評価する

【テキスト】

“公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 第2巻 「運動器の解剖と機能」財団法人 日本体育協会”

【参考文献】

「解剖学」「生理学」のテキスト

医学概論

担当教員 齋田 和孝

配当年次 1年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

現代の医療体制は歴史の流れの中で変遷した結果であり、これからも変化していく。本講義を通して、医療の全体像を歴史と文化の視点から俯瞰することができるようになる。さらに、レポート課題やグループワークを通して、現在の医療制度とその課題や本来あるべき医療の姿について自ら考え、考察できるようになることを目的とする。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	医学概論で学ぶこと（レポート課題の説明）、医療とは何か①
2	医学と医療の歴史（1）古代
3	医学と医療の歴史（2）中世、ルネサンス
4	医学と医療の歴史（3）近代①（17世紀）
5	医学と医療の歴史（4）近代②（18世紀）
6	医学と医療の歴史（5）19世紀以降
7	医学と医療の歴史（6）日本の医療
8	現代の医療（1）健康の定義、疾病構造、ヘルスプロモーション
9	現代の医療（2）生活習慣病と健診（含：がんの疫学・予防ほか）
10	現代の医療（3）医療従事者と施設
11	現代の医療（4）医療経済と医療保険・制度
12	医療の倫理（医療者と患者、社会の倫理）
13	バイオエシックス、医療とは何か②
14	グループワークの発表（1）
15	グループワークの発表（2）

【履修上の注意事項】

問題意識をもって自ら考え学ぶ姿勢を重視するため、レポート課題とグループワークを重視する。レポート課題は新聞記事に題材を求めるので、普段から新聞をチェックしておくこと。なお、レポート未提出者はグループワークに加われない。

【評価方法】

レポート提出とグループワーク（GW）参加を必須条件とし、レポート未提出者の筆記試験は評価しない。レポート課題20点、GW発表時の課題10点、筆記試験70点の合計100点とし、総合して60点以上を合格とする。なお、再試験は筆記試験のみで60%以上を合格とする。また、欠席5回を超えたら単位を認定しない。

【テキスト】

「医療概論」編：社団法人東洋療法学校協会、監修：中川米造、医歯薬出版株式会社

【参考文献】

とくになし

病理学

担当教員 齋田 和孝

配当年次 2年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

病理学とは疾患や病的状態の本質や成り立ちを理論的に解明して理解する学問である。本講義では、①疾病の成り立ちに関わる基本的な機序を説明できる、②その結果引き起こされる組織や臓器の変化について説明できる、の2点を目的とし、各種疾患における病態生理や臨床症状を説明できるようになるための基礎を身につける。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	細胞の異常—病気の本態
2	先天異常
3	循環障害（1）局所性の循環障害
4	循環障害（2）全身性の循環障害
5	代謝異常（1）糖代謝、脂質代謝
6	代謝異常（2）タンパク代謝、カルシウム代謝
7	老化
8	感染と感染症（1）感染の成立と経過
9	感染と感染症（2）感染防御機能と日和見感染
10	免疫と免疫異常（1）免疫機構
11	免疫と免疫異常（2）アレルギー、免疫不全
12	炎症
13	腫瘍（1）腫瘍の特徴と分類
14	腫瘍（2）発がんと進展
15	腫瘍（3）腫瘍マーカーと診断治療

【履修上の注意事項】

人体の正常な仕組みを理解していることが前提となるので、必ず解剖学と生理学を復習しておくこと。受講前に教科書の該当項目を必ず読んでおくこと。授業後は自分でノートを整理して復習しておくこと。

【評価方法】

筆記試験100%、筆記試験60点以上を合格とする。欠席5回を超えたら単位を認定しない。

【テキスト】

「なるほどなっとく！病理学 病態形成の基本的なしくみ」著：小林正伸、南山堂

【参考文献】

1. 「カラーアトラス病態病理学（改訂2版）」共著：長澤治夫、鈴木博義、丸善出版
2. 「カラー ルービン病理学—臨床医学への基盤—」監訳：鈴木利光ほか、西村書店

臨床医学総論 I

担当教員 齋田 和孝

配当年次 3年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

医療の実践は患者の状態を科学的に観察し正しく把握することから始まる。この基本的原則は東洋医学、西洋医学にかかわらず、すべての医療職者の実践における基礎となる。本講義「臨床医学総論 I」では、まず診察の概要と基本的な方法を学んだ上で、全身および局所の診察法を系統的に理解し、それぞれの所見の意味を説明でき、かつ鑑別診断を上げることができるようになることを目的とする。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	臨床医学入門、診察の概要
2	診察の方法① 病歴聴取
3	診察の方法② 視診、触診、打診、聴診、他
4	バイタルサイン
5	全身の診察① 顔貌、精神状態、言語
6	全身の診察② 身体計測、体格、栄養状態
7	全身の診察③ 姿勢、体位、歩行
8	全身の診察④ 皮膚、爪、リンパ節
9	局所の診察① 頭部、顔面
10	局所の診察② 眼、鼻、耳、口腔、頸部
11	局所の診察③ 胸部、乳房
12	局所の診察④ 肺・胸膜
13	局所の診察⑤ 心臓
14	局所の診察⑥ 腹部
15	局所の診察⑦ 背部、四肢

【履修上の注意事項】

多くの専門用語が出てくるので、必ず教科書を予習してくること。授業後は自分でノートを整理して復習しておくこと。

【評価方法】

筆記試験100%、筆記試験60点以上を合格とする。欠席5回を超えたら単位を認定しない。

【テキスト】

「臨床医学総論 第2版」編：社団法人東洋療法学校協会、著：奈良信雄、医歯薬出版株式会社

【参考文献】

1. 「診察と手技が見えるVol.1」編集：古谷伸之、MEDIC MEDIA
2. 「内科診断学（改訂第17版）」著：武内重五郎、南江堂

臨床医学総論Ⅱ

担当教員 齋田 和孝

配当年次 3年

開講時期 第2学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

医療の実践は患者の状態を科学的に観察し正しく把握することから始まる。「臨床医学総論Ⅱ」では、まず神経系の診察法と運動機能検査について理解し、鑑別診断を挙げることができるようになることを目的とする。次いで、臨床検査の概要と検査値の意味を説明できる、さらに、日常的によく遭遇する概念や病態生理を理解し、代表的な原因疾患の特徴を説明できるようになることを目的とする。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	神経系の診察① 感覚、反射
2	神経系の診察② 脳神経、その他
3	運動機能検査① 運動麻痺、不随意運動、日常生活動作
4	運動機能検査② 整形外科的検査法
5	臨床検査法 一般検査、血液生化学検査、その他の検査
6	主な症状① 頭痛、めまい、難聴
7	主な症状② 咳・痰、息切れ
8	主な症状③ 動悸、胸痛
9	主な症状④ 腹痛、悪心・嘔吐、食欲不振
10	主な症状⑤ 便秘、下痢、吐血・下血
11	主な症状⑥ 排尿障害、乏尿・無尿、多尿
12	主な症状⑦ 頸肩腕痛、腰痛、関節痛
13	運動と医療① メディカルチェックの重要性
14	運動と医療② オーバートレーニング、貧血
15	治療学 概要、薬物療法、理学療法、その他の治療

【履修上の注意事項】

多くの専門用語が出てくるので、必ず教科書を予習しておくこと。授業後は自分でノートを整理して復習しておくこと。

【評価方法】

筆記試験100%、筆記試験60点以上を合格とする。欠席5回を超えたら単位を認定しない。

【テキスト】

「臨床医学総論 第2版」編：社団法人東洋療法学校協会、著：奈良信雄、医歯薬出版株式会社

【参考文献】

「診察と手技が見えるVo1.1」編集：古谷伸之、MEDIC MEDIA
「内科診断学 第3版」編集：福井次矢、奈良信雄、医学書院

臨床医学各論 I (呼吸器・循環器系)

担当教員 齋田 和孝

配当年次 2年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義では呼吸器系および循環器系の各疾患の症候・病態・診断・治療に関する特徴を学び、疾患が成り立つ機序としての病理学的変化が臨床的症候と密接な関係にあることを理解する。特に代表的な重要疾患について、その臨床的特徴を説明できるようになることを目的とする。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	呼吸器：呼吸機能検査
2	呼吸器：呼吸器感染症（肺炎、肺結核）（含：かぜ症候群、気管支炎）
3	呼吸器：COPD、気管支喘息（運動誘発性喘息を含む）
4	呼吸器：過敏性肺炎、間質性肺疾患
5	呼吸器：原発性肺癌、転移性肺腫瘍
6	呼吸器：呼吸不全とCO2ナルコーシス
7	呼吸器：気胸、過換気症候群
8	循環器：心不全
9	循環器：不整脈
10	循環器：虚血性心疾患（狭心症、心筋梗塞）、負荷心電図
11	循環器：心筋症、心筋炎、心内膜炎
12	循環器：弁膜疾患
13	循環器：先天性心疾患
14	循環器：血圧異常（高血圧症、低血圧症）
15	循環器：動静脈疾患（動脈硬化症、大動脈瘤、静脈瘤）

【履修上の注意事項】

呼吸器系と循環器系の解剖学および生理学を復習しておくこと。受講前に教科書の該当項目を必ず読んでおくこと。授業後は自分でノートを整理して復習しておくこと。なお、教科書は「臨床医学各論 I、II、V、VI」の4科目を通して使用する。

【評価方法】

筆記試験100%、筆記試験60点以上を合格とする。欠席5回を超えたら単位を認定しない。

【テキスト】

「看護のための臨床病態学（第3版）」編集：浅野嘉延、吉山直樹。南山堂

【参考文献】

「臨床医学各論（第2版）」編：（社）東洋療法学校協会。医歯薬出版（株）

臨床医学各論Ⅱ（消化器系・泌尿器系）

担当教員 齋田 和孝

配当年次 2年

開講時期 第2学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義では消化管、肝胆膵および腎・尿路系の各疾患の症候・病態・診断・治療に関する特徴を学び、疾患が成り立つ機序としての病理学的変化が臨床的症候と密接な関係にあることを理解する。特に代表的な重要疾患について、その臨床的特徴を説明できるようになることを目的とする。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	消化管：食道疾患（食道炎、GERD、食道癌）
2	消化管：胃疾患（胃炎、消化性潰瘍、胃癌、胃切除後症候群）
3	消化管：腸疾患（虫垂炎、潰瘍性大腸炎、クローン病）
4	消化管：腸疾患（イレウス、過敏性腸症候群、大腸癌）
5	肝胆膵：肝機能検査、門脈圧亢進、肝性脳症
6	肝胆膵：肝疾患（急性肝炎、劇症肝炎）
7	肝胆膵：肝疾患（慢性肝炎、肝硬変）
8	肝胆膵：肝疾患（肝細胞癌、転移性肝癌）
9	肝胆膵：肝疾患（アルコール性肝障害、脂肪肝、NASH）
10	肝胆膵：胆道疾患（胆石症、胆嚢炎、胆管炎）
11	肝胆膵：膵疾患（急性膵炎、慢性膵炎、膵癌）
12	腎・尿路：慢性腎臓病、腎不全（急性腎不全、慢性腎不全）
13	腎・尿路：原発性糸球体疾患（糸球体腎炎、ネフローゼ症候群）
14	腎・尿路：全身性疾患に伴う腎障害（糖尿病性腎症、腎硬化症、痛風腎）
15	腎・尿路：尿路結石症、尿路感染症、前立腺肥大症

【履修上の注意事項】

消化管、肝胆膵および腎・尿路系の解剖学および生理学を復習しておくこと。受講前に教科書の該当項目を必ず読んでおくこと。授業後は自分でノートを整理して復習しておくこと。なお、教科書は「臨床医学各論Ⅰ、Ⅱ、Ⅴ、Ⅵ」の4科目を通して使用する。

【評価方法】

筆記試験100%、筆記試験60点以上を合格とする。欠席5回を超えたら単位を認定しない。

【テキスト】

「看護のための臨床病態学（第3版）」編集：浅野嘉延、吉山直樹、南山堂

【参考文献】

「臨床医学各論（第2版）」編：（社）東洋療法学校協会、医歯薬出版（株）

臨床医学各論Ⅲ（整形外科）

担当教員 本田 泰弘

配当年次 2年

開講時期 第2学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

整形外科の診断と治療の概要と、各領域の臨床の実際について理解し説明できる。
また、整形外科疾患の病態・治療のメカニズムを理解するために不可欠な解剖学の知識を学習する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	整形外科における診断と治療の概要
2	関節疾患 (1) 関節炎、関節の可動域の異常
3	関節疾患 (2) 五十肩、変形性関節症①（肘関節、手指関節）
4	関節疾患 (3) 変形性関節症②（股関節、膝関節、足関節）
5	骨代謝性疾患、骨腫瘍
6	筋・腱疾患
7	形態異常（先天性股関節脱臼、斜頸、側彎症、外反母趾、内反足）
8	脊椎疾患 (1) 椎間板ヘルニア等
9	脊椎疾患 (2) 脊柱管狭窄症等
10	脊椎疾患 (3) 腰痛症等
11	脊髄損傷
12	外傷 (1) 骨折、脱臼、捻挫
13	外傷 (2) スポーツ外傷・障害
14	その他の整形外科疾患 (1) 胸郭出口症候群、頸腕症候群・頸肩腕症候群等
15	その他の整形外科疾患 (2) ガングリオン、手根管症候群等

【履修上の注意事項】

骨格の成り立ち、脊柱の特徴、骨・関節・筋・神経の働きについて、解剖学の知識をよく復習しておくこと。

【評価方法】

レポート提出を20点に換算し、筆記試験80点、合計100点とし、60点以上を合格とする。
再試験は筆記試験のみで評価する。

【テキスト】

臨床医学各論 第2版 東洋療法学校協会編 奈良信雄 他著（医歯薬出版株式会社）
解剖学 第2版 東洋療法学校協会編 河野邦雄・伊藤隆造 他著（医歯薬出版株式会社）

【参考文献】

各講義の中で随時紹介する。

臨床医学各論Ⅳ（スポーツ障害）

担当教員 本田 泰弘

配当年次 3年

単位区分 必修

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

スポーツ医学の臨床では、スポーツ外傷とスポーツ障害に関する基礎知識、各部位の病態メカニズムを理解することは不可欠である。臨床医学各論Ⅳではスポーツ外傷とスポーツ障害に関する基本的な知識を理解し説明できるようになることを目的とする。

【授業の展開計画】

1. スポーツ外傷とスポーツ障害の概念
2. スポーツ外傷・障害に対する処置：RICE処置、止血等
3. スポーツ外傷・障害：腰部（腰部椎間板ヘルニア、腰椎分離症等）
4. スポーツ外傷・障害：大腿・膝（半月板損傷、前十字靭帯断裂等）
5. スポーツ外傷・障害：膝（半月板損傷、ジャンパー膝等）
6. スポーツ外傷・障害：下腿・足（シンスプリント、コンパートメント症候群等）
7. スポーツ外傷・障害：頸部（バーナー症候群等）
8. スポーツ外傷・障害：肩関節・上腕（腱板損傷、インピンジメント症候群等）
9. スポーツ外傷・障害：肘・前腕・手（テニス肘・ゴルフ肘等）
10. スポーツ外傷・障害：胸部（心臓震盪等）
11. スポーツ外傷・障害：腹部（内臓損傷等）
12. スポーツ外傷・障害：頭部（脳震盪等）
13. スポーツ外傷・障害：顔面（眼の打撲等）
14. スポーツ外傷・障害：その他（1）
15. スポーツ外傷・障害：その他（2）

【履修上の注意事項】

予習としては各部位の解剖学的な基礎知識を十分把握しておくこと。
復習としては授業の内容をレポートにまとめ、説明できるようにしておくこと。

【評価方法】

レポート提出20点、筆記試験80点、合計100点とし、60点以上を合格とする。
再試験は筆記試験のみで評価する。

【テキスト】

リハビリテーション医学 第4版 東洋療法学校協会編 医歯薬出版株式会社

【参考文献】

解剖学 第2版 河野邦夫 伊藤隆造著 医歯薬出版

臨床医学各論Ⅴ（皮膚・免疫系）

担当教員 齋田 和孝

配当年次 3年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義では免疫・アレルギー、感染症および代謝・内分泌系の各疾患の症候・病態・診断・治療に関する特徴を学び、疾患が成り立つ機序としての病理学的変化が臨床的症候と密接な関係にあることを理解する。特に代表的な重要疾患について、その臨床的特徴を説明できるようになることを目的とする。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	免疫・アレルギー：膠原病（関節リウマチ、SLE、SSc）
2	免疫・アレルギー：膠原病（血管炎症候群）
3	免疫・アレルギー：シェーグレン症候群、ベーチェット病
4	免疫・アレルギー：アレルギー疾患（アナフィラキシーショック含む）
5	感染症：敗血症（SIRSを含む）、予防と診断・治療、AIDS
6	感染症：ウイルス感染（インフルエンザ、麻疹、風疹ほか）
7	感染症：食中毒（含：0-157、ノロウイルス）、性感染症
8	代謝・栄養：糖質代謝、脂質代謝
9	代謝・栄養：肥満症、メタボリックシンドローム
10	代謝・栄養：糖尿病
11	代謝・栄養：脂質異常症、痛風、骨粗鬆症
12	内分泌：下垂体疾患
13	内分泌：甲状腺疾患
14	内分泌：副甲状腺疾患
15	内分泌：副腎皮質疾患、副腎髄質疾患

【履修上の注意事項】

免疫・アレルギー、感染症および代謝・内分泌系に関する解剖学、生理学および病理学を復習しておくこと。受講前に教科書の該当項目を必ず読んでおくこと。授業後は自分でノートを整理して復習しておくこと。なお、教科書は「臨床医学各論Ⅰ、Ⅱ、Ⅴ、Ⅵ」の4科目を通して使用する。

【評価方法】

筆記試験100%、筆記試験60点以上を合格とする。欠席5回を超えたら単位を認定しない。

【テキスト】

「看護のための臨床病態学（第3版）」編集：浅野嘉延、吉山直樹、南山堂

【参考文献】

「臨床医学各論（第2版）」編：（社）東洋療法学校協会、医歯薬出版（株）

臨床医学各論VI（脳神経疾患・婦人科系疾患）

担当教員 齋田 和孝

配当年次 3年

開講時期 第2学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義では脳神経系および血液系その他の各疾患の症候・病態・診断・治療に関する特徴を学び、疾患が成り立つ機序としての病理学的変化が臨床的症候と密接な関係にあることを理解する。特に代表的な重要疾患について、その臨床的特徴を説明できるようになることを目的とする。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	脳神経：総論
2	脳神経：脳血管疾患（脳出血、くも膜下出血、脳梗塞）
3	脳神経：変性疾患（パーキンソン病、脊髄小脳変性症）
4	脳神経：筋萎縮性側索硬化症
5	脳神経：認知症（アルツハイマー病ほか）
6	脳神経：末梢神経疾患（ギランバレー症候群、ニューロパチー、神経痛）
7	脳神経：筋疾患（筋ジストロフィー、重症筋無力症）
8	脳神経：感染性疾患（髄膜炎、脳炎）、脳腫瘍
9	血液：貧血
10	血液：急性白血病、慢性白血病
11	血液：悪性リンパ腫、骨髄腫
12	血液：紫斑病、血友病、DIC
13	皮膚疾患：接触性皮膚炎、アトピー性皮膚炎
14	眼科疾患：結膜炎、白内障、緑内障
15	耳鼻科疾患：メニエール病、中耳炎、難聴

【履修上の注意事項】

脳神経系、血液系および皮膚・感覚系に関する解剖学および生理学を復習しておくこと。受講前に教科書の該当項目を必ず読んでおくこと。授業後は自分でノートを整理して復習しておくこと。なお、教科書は「臨床医学各論Ⅰ、Ⅱ、Ⅴ、Ⅵ」の4科目を通して使用する。

【評価方法】

筆記試験100%、筆記試験60点以上を合格とする。欠席5回を超えたら単位を認定しない。

【テキスト】

「看護のための臨床病態学（第3版）」編集：浅野嘉延、吉山直樹、南山堂

【参考文献】

「臨床医学各論（第2版）」編：（社）東洋療法学校協会、医歯薬出版（株）

リハビリテーション概論

担当教員 川俣 幹雄

配当年次 2年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

リハビリテーションの理念、歴史、障害理論および関連する制度等について学ぶ。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	リハビリテーションとは（定義、理念、思想）
2	リハビリテーションの歴史
3	リハビリテーションと障害医学
4	障害の理論的モデル：ICIDH
5	障害の理論的モデル：ICF
6	リハビリテーションと関連職種
7	医学的リハビリテーション
8	社会的、職業的リハビリテーション
9	リハビリテーションの対象
10	リハビリテーションと社会制度
11	地域リハビリテーション
12	リハビリテーションと環境整備
13	介護予防とリハビリテーション
14	予防医学とリハビリテーション
15	リハビリテーションを取り巻く環境と今後の課題

【履修上の注意事項】

事前にテキストの該当箇所を学習し、授業に臨むこと。復習をしっかりと行うこと。出席登録を除き、授業中の携帯電話の使用は禁止する。

【評価方法】

期末試験100%で評価する。但し、日常的学習状況に関し最大20%減じることがある。

【テキスト】

『医学生・コメディカルのための手引書 リハビリテーション概論改訂最新版』 上好秋孝、編著（永井書店）

【参考文献】

『入門リハビリテーション概論』中村隆一編（医歯薬出版）、『入門リハビリテーション医学』中村隆一監修（医歯薬出版）、『社会福祉小六法』（ミネルバ書房）、『リハビリテーション』砂原茂一著（岩波新書-139）など

リハビリテーション医学

担当教員 浅井 福太郎

配当年次 2年

開講時期 第2学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

リハビリテーション医学の概要と、各領域のリハビリテーションの臨床の実際について理解し説明できる。また、障害やその治療メカニズムを理解するために不可欠な運動学の基礎を学習する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	第1章 リハビリテーション総説 リハビリテーションと障害
2	第1章 リハビリテーション総説 リハビリテーション医学と医療
3	第1章 リハビリテーション総説 障害の評価
4	第1章 リハビリテーション総説 医学的リハビリテーション
5	第2章 各疾患のリハビリテーション 脳卒中
6	第2章 各疾患のリハビリテーション 脊髄損傷
7	第2章 各疾患のリハビリテーション 切断 小児
8	第2章 各疾患のリハビリテーション 骨関節疾患
9	第2章 各疾患のリハビリテーション 関節リウマチ 末梢神経障害
10	第2章 各疾患のリハビリテーション パーキンソン病 呼吸器疾患 心疾患
11	第3章 運動のしくみ 運動学の基礎 1
12	第3章 運動のしくみ 運動学の基礎 2
13	第3章 運動のしくみ 身体各部の機能 1
14	第3章 運動のしくみ 身体各部の機能 2
15	第3章 運動のしくみ 身体各部の機能 3

【履修上の注意事項】

解剖学の知識が欠かせない。また、各論においては該当領域の疾患の理解が必須である。いずれもよく復習をしてから講義に臨むこと。

【評価方法】

筆記試験100点とし、60点以上を合格とする。
再試験は筆記試験のみで評価する。

【テキスト】

『リハビリテーション医学 第4版』東洋療法学校協会編 土肥信之・出江紳一 他著（医歯薬出版株式会社）
講義時配布資料

【参考文献】

講義時に適宜紹介する。

薬理学

担当教員 樋口 マキエ

配当年次 2年

開講時期 第2学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

薬物とは、生体の恒常性（ホメオスタシス）の破綻による生体機能の異常（病態）を正常範囲に戻そうとする目的で使用される化学物質である。疾病の予防、診断および治療に用いられる。日進月歩の薬物療法が、医療・看護の現場で適正に行われているか判断できるよう、各種の薬物を系統的に把握し理解する。基本的な薬理学の知識と論理的思考を学習し、副作用の発現防止に寄与する。

【授業の展開計画】

【授業内容】

原因療法薬（化学療法薬：抗病原微生物薬と抗がん薬）については、感染症学と病態生理学Ⅰで教授した。ここでは、対症療法薬について教授する。正常な人体の構造と機能および病態を復習しながら、人体に対する薬物の有益な作用と副作用およびその機序を、系統的に教授する。さらに、薬物の生体内運命を理解させ、対症療法薬の臨床応用および適用方法を把握させる。

【授業日程】

薬理学総論

平成28-29年16:30-18:00(月)

1. 薬とは、治験、薬と法令
生体の情報伝達系（生体の信号と応答、情報伝達物質、受容体）、作用薬と拮抗薬 9/26 (月)
2. 生体に対する薬物の働きかけ：薬理作用、用量-反応関係 10/03 (月)
3. 薬物に対する生体の働きかけ：生体内の薬の動きと反応に影響を与える因子 10/11 (火)
4. エイジングと薬 10/17 (月)

生体の機能異常（病態）と薬

5. 末梢神経系作用薬：自律神経作用薬（アドレナリン作働薬・遮断薬） 10/31 (月)
6. 末梢神経系作用薬：自律神経作用薬（コリン作働薬・遮断薬） 11/02 (水)
7. 末梢神経系作用薬：運動神経作用薬（筋弛緩薬）、感覚神経作用薬（局所麻酔薬） 11/07 (月)
8. 代謝・内分泌系作用薬：糖尿病治療薬、消化系作用薬：潰瘍治療薬 11/14 (月)
9. 免疫系作用薬：抗アレルギー薬、解熱鎮痛薬（NSAIDs）、ステロイド性抗炎症薬 11/21 (月)
10. 循環系作用薬：抗高血圧薬、利尿薬 11/28 (月)
11. 循環系作用薬：虚血性心疾患治療薬、抗血栓薬、抗不整脈薬 12/05 (月)
12. 循環系作用薬：心不全治療 12/12 (月)
13. 中枢神経系作用薬：全身麻酔薬、麻薬性鎮痛薬 12/19 (月)
14. 中枢神経系作用薬：睡眠薬、抗不安薬、抗うつ薬、 1/16 (月)
15. 中枢神経系作用薬：抗精神病薬、抗パーキンソン病薬、抗てんかん薬 1/23 (月)

16. 単位修得試験

1/30 (月)

【履修上の注意事項】

- 1) ノートを各自用意し講義内容の要点を記す。その日の内に教科書を読み込み内容を整理・復習する。
- 2) 講義プリントはファイルし、薬理学授業時に、教科書、ノートと一緒に必ず持ってくる。
- 3) 専門用語は正確に覚え、その概念を正しく理解する。理解できないときは、質問する。
- 4) 授業参加は最低要件であり十分要件ではない。

【評価方法】

- 1) 学期末の本試験（100%：筆記試験）で評価する。前提条件は2/3以上の出席。
- 2) 「薬物療法の基礎知識を用い、論理的思考を展開できる」を評価基準とする。

【テキスト】

- 1) コメディカルのための薬理学 第2版（渡邊、樋口/編 朝倉書店 3,900円）
- 2) 教員作成プリント

【参考文献】

- 1) 看護の基礎固め ひとり勝ち薬理学（自律神経系） 片野/編 メディカルレビュー社 1,600円
- 2) 薬理学 第13版 吉岡, 泉, 伊関著, 医学書院 2,300円 3) 『今日の治療薬2016』 浦部, 島田, 川合編, 南江堂

医事法規

担当教員 野崎 和義

配当年次 2年

単位区分 必修

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

- 1 医療行為を中核とする現行医事法制のなかで鍼灸師の法的位置づけを理解する。
- 2 医療専門職に課せられた社会的責務と業務上の責任を理解する。
- 3 各種医療専門職との協力、福祉従事者との連携のために必要とされる法を理解する。
- 4 今日の医療制度の仕組みとその問題点を理解する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	市民の法と専門職の法——市民法の基礎、鍼灸師の法的位置づけ
2	医療職と法——守秘義務と個人情報保護、三層の法構造
3	医業の独占——医療行為、「業」による規制、医療行為の拡散
4	治療行為と同意（1）——医療行為と治療行為、同意能力、乳幼児と医療ネグレクト
5	治療行為と同意（2）——家族による同意、成年後見制度と治療同意権
6	診療の補助と医師の指示——具体的指示と包括的指示、メディカルコントロール
7	医療職と刑事責任（1）——終末期医療と家族
8	医療職と刑事責任（2）——チーム医療と信頼の原則、実習生による事故とその対応
9	チーム医療と民事責任（1）——民事責任の構造、医療従事者の注意義務
10	チーム医療と民事責任（2）——鍼灸師の過失
11	医療過誤と訴訟——訴訟の目的とその限界、医療ADRの取り組み
12	鍼灸師と労働法——労働契約の特殊性、院内暴力・セクハラ
13	医療制度と法——医療制度改革、医療法の改正
14	鍼灸師の資格と業務（1）——鍼灸師の資格要件
15	鍼灸師の資格と業務（2）——業務の物的側面・人的側面

【履修上の注意事項】

- ・準備学習：各回のテーマに即して教科書を読んでおくこと。
- ・事後学習：講義で示された課題をもとに教科書および関連事項を整理すること。
- ・講義の進行は、理解度に応じて変更することがある。その際には、あらかじめ通知する。

【評価方法】

定期試験（100%）の成績によって評価する。

【テキスト】

野崎和義著『医事法学概論』2011年、ミネルヴァ書房。
野崎和義監修『社会福祉六法』2018年、ミネルヴァ書房（過年度版でも可）。

【参考文献】

各回の講義の際に紹介する。

社会保障論

担当教員 未定

配当年次 3年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

社会保険は、公的扶助とならんで社会保障制度の重要な柱として発展してきた。はじめに、社会保障の概念や対象及び理念を学び、欧米や日本の社会保障の発展過程を概観する。そして、社会保障の体系と財政、費用を学んだ後、各論（特に、年金保険制度と医療保険制度）の具体的な内容について理解する。社会保障論では、少子高齢化を迎えて、社会保障をどのように再構築したらよいかを考えることができる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション、社会保障の概念
2	現代社会における社会保障制度の課題
3	欧米における社会保障の歴史（発展過程）
4	日本における社会保障の歴史（発展過程）
5	社会保障制度の体系と概要（社会保険と社会扶助）
6	社会保障の財源と費用
7	社会保障の行財政
8	年金保険制度の沿革と概要
9	年金保険制度の具体的な仕組みと財政、給付の内容
10	年金保険制度をめぐる動向と今後の課題
11	医療保険制度の沿革と概要
12	医療保険制度の具体的な仕組みと財政、給付の内容
13	医療保険制度をめぐる動向と今後の課題
14	年金保険制度と医療保険制度の将来像
15	社会保障制度の再構築

【履修上の注意事項】

- (1) 必ず、テキストを持参して受講すること。
- (2) 予習をして授業に臨み、授業後は、復習をすること。

【評価方法】

試験80% レポート20%

【テキスト】

社会福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉士養成講座12 社会保障【第5版】』（中央法規出版、2016年）

【参考文献】

掠野美智子・田中耕太郎編『はじめての社会保障【第13版】』（有斐閣、2016年）
今井伸編『わかる・みえる社会保障論-事例でつかむ社会保障入門-』（みらい、2016年）

地域保健論

担当教員 嶋 政弘

配当年次 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

- 1 地域保健の位置づけやその構造を理解し、具体的な活動や医療制度について理解する。
- 2 地域保健が目指す新しい健康の概念や地域集団としての健康づくりへの取り組みの例に着目し、今後の地域医療の在り方について考えることができる。

【授業の展開計画】

地域保健における現状や課題について、説明とペアを中心としたディスカッションにより学習を構成する。前半は、地域保健の対象や内容など、概要についての理解を中心に展開し、後半は、集団検診や感染症対策などの具体的な内容と事例を中心に展開する。

週	授 業 の 内 容
1	地域保健とその構造
2	保健・医療・福祉の組織と活動
3	地域保健① 保健所の組織と業務
4	地域保健② 市町村保健センターの組織と業務
5	救急医療① 救急医療体制
6	救急医療② 救急救命士
7	災害医療① 医療における災害の定義と解釈と災害拠点病院
8	災害医療② 災害時保健医療活動
9	災害医療③ トリアージ
10	へき地医療 へき地保健医療対策と遠隔医療
11	在宅医療① 在宅ケア
12	在宅医療② 訪問診療・往診と訪問看護制度
13	在宅医療③ 訪問及び通所リハビリテーション
14	チーム医療
15	保健・医療・福祉の連携

【履修上の注意事項】

- 1 ペアによるディスカッションをするため、ペアを作って着席する。
- 2 すべてのペアに発言の機会があるので、常に自分の考えを持って参加する。

【評価方法】

ディスカッションへの参加40%，課題提出20%，期末試験40%で評価する。
追試験は実施しない。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献】

毎回、資料を配布する。参考資料については、授業の中で随時提示する。

学校保健

担当教員 古賀 由紀子

配当年次 3年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

児童生徒の発育・発達、健康、そして学校教育法につながる指導要領等の教育の基礎を把握するとともに、児童生徒の実態から保健教育、保健管理、組織活動の諸活動等を考える。これら学校保健活動の計画と組織を教育計画と学校組織との関連でとらえ、教育の中の学校保健の全貌を述べるができる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	学校保健概論・学校保健と関連法、学校保健の目的、学校保健の構造
2	学校保健概論・学校保健の歴史、社会情勢との関連
3	学校保健計画・学校教育目標との関連、保健室経営との関連
4	学校保健組織活動・学校保健関係者と各々の職務、学校保健組織と運営、関連組織
5	学校保健の対象・児童生徒の発育発達の現状と課題
6	学校保健の対象・健康の基礎理論、実態
7	学校保健の対象・心の健康問題、精神保健
8	学校保健活動・健康管理：領域側面、意義、方法
9	学校保健活動・健康管理：健康観察、健康相談
10	学校保健活動・健康管理：健康診断、保健調査
11	学校保健活動・健康管理：学校環境衛生
12	学校保健活動・健康管理：感染症予防
13	学校保健活動・安全管理：学校安全と危機管理、救急処置
14	保健教育：学校における保健教育の考え方、保健学習と保健指導
15	保健教育：性教育、薬物乱用防止教育、食育

【履修上の注意事項】

授業の最後に次の授業内容を予告するので毎時間の講義課題を明確にして、出席すること。授業の最後に振り返りのための課題を提示するので、それを踏まえて振り返りまとめておく。次の授業の最初に前回のまとめを提出する。

【評価方法】

レポート10%、筆記試験90%により評価する

【テキスト】

学校保健ハンドブック 第5次改定 教員養成系大学保健協議会編 ぎょうせい

【参考文献】

新訂版 学校保健実務必携 第一法規

精神保健 I

担当教員 茶屋道 拓哉

配当年次 3年

開講時期 第1学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

- ・精神の健康についての基本的考え方と精神保健学の役割について説明できるようになる。
- ・精神保健を維持・増進するために機能している専門機関や関係職種の役割と連携について基礎的知識を備える。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	精神保健の概要と課題
2	精神保健の歴史と現代における意義・課題
3	社会構造の変化と新しい健康観
4	ライフサイクルと精神の健康（出生前～思春期）
5	ライフサイクルと精神の健康（青年期～老年期）
6	ストレスと精神の健康
7	生活習慣と精神の健康
8	精神の健康、精神疾患、身体疾患に由来する障害
9	アルコール関連問題と精神保健
10	うつ病と自殺防止対策
11	現代社会を取り巻く諸相と精神保健（長寿・認知症・少子化を巡って）
12	精神の健康に関する心的態度
13	精神保健に関する予防の概念と対象
14	精神保健に関する国、都道府県、市町村、団体などの役割と連携
15	精神保健に関する専門職種

【履修上の注意事項】

- 1 必ず講義ノートを作成すること。また、配布するプリントをファイル化し毎回持参することが必要である（配布資料は何回か使用する可能性がある）。
- 2 授業前にテキストの該当部分を一読しておくこと。
- 3 授業後に配布された資料や講義ノート・テキスト等を用い振り返りを行いながら理解を深めること。

【評価方法】

- 1 試験による評価（70%）
- 2 授業中のレスポンスやミニレポート（30%）

【テキスト】

新・精神保健福祉士養成講座『精神保健の課題と支援（第3版）』中央法規，2018年

【参考文献】

各講義ごとに主要文献を紹介する

健康相談論

担当教員 古賀 由紀子

配当年次 2年

開講時期 第2学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

主として学校保健の対象である児童生徒の発達発育の実態を理解し、健康問題の現状を捉える。そして対象者の活動の場の違いによる健康相談の方法を知り述べることができる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	子どもの健康問題の実態 1. 発育発達の問題
2	子どもの健康問題の実態 2. 社会的視点からの健康問題
3	健康相談に関連する諸理論、健康相談のプロセス、診断過程の違い
4	健康相談の学校での実施者一養護教諭、担任、学校医の専門性や役割に応じた健康
5	学校外における子どもの活動の場を考える
6	活動の場の違いによる健康問題の違い
7	活動の場の違いによる担当者の違いと役割、健康相談を考える
8	アセスメントの方法 1. フィジカルアセスメント、生活習慣的アセスメント
9	アセスメントの方法 2. 心理的アセスメント、社会的メンタアセスメント
10	アセスメントのための問診票について
11	諸問題の捉え方と具体的な対応について（事例研究の目的）
12	事例研究：疾病を中心とした事例
13	事例研究：心的背景をもつ不調の事例
14	事例研究：学校外のスポーツ活動での事例
15	健康相談における記録、力量形成・研究・研修

【履修上の注意事項】

授業の最後に次の授業内容を予告するので、その内容について調べておくこと。
授業の最後に振り返りのための課題を提示するので、それを踏まえて振り返りまとめる。

【評価方法】

レポート30%、まとめのテスト70%として評価する

【テキスト】

随時資料を準備する

【参考文献】

養護教諭の行う健康相談 東山書房

救急処置法

担当教員 平崎 和雄、井手 裕子、齋田 和孝

配当年次 1年

開講時期 第1学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義では、生命に関わる緊急を要する救命処置、頭、頸部外傷のような重大事故の救急処置、またスポーツ現場での事故を予測し、事故が発生した際の正しい知識・技術を身につけ、あらかじめ事故発生時における救急処置の対応計画を備える重要性や実施者の心得、緊急性を判断するための的確な障害評価の方法、熱中症、過換気症候群など内科疾患における救急処置の基本的な留意点と適切な手順を自ら実践出来るようになる。また、スポーツ現場で備えておくべき救急処置用機材に関する知識と利用法についても実践・説明できるようになる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション (平崎)
2	救急処置の基本的知識 (平崎)
3	スポーツ現場における救急処置 (平崎)
4	外傷時の救急処置 (R I C E処置、止血、テーピング) (井手)
5	外傷時の救急処置 (特殊な処置ー理論) (齋田)
6	外傷時の救急処置 (特殊な処置ー実技) (井手)
7	外傷時の救急処置 (患部固定法、運搬法) (井手)
8	緊急時の救命処置 (C P R理論) (平崎)
9	緊急時の救命処置 (C P R実技・基礎) (齋田)
10	緊急時の救命処置 (C P R実技2・応用) (井手)
11	緊急時の救命処置 (A E D理論) (平崎)
12	緊急時の救命処置 (A E D実技) (齋田)
13	内科的疾患の救急処置 (急性) (齋田)
14	内科的疾患の救急処置 (慢性) (平崎)
15	現場における救急体制 (平崎)

【履修上の注意事項】

実習に際しては適した服装で受講するようにすること。

【評価方法】

受講態度30%、定期試験70%で判断し評価する

【テキスト】

公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 第8巻 財団法人日本体育協会

【参考文献】

東洋医学概論 I

担当教員 内田 匠治

配当年次 1年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

東洋医学的な手法を用いて鍼灸治療を行う場合は、東洋医学的な診察、診断、治療方針、配穴・手技という一連の行程に則って処置が施される。この治療のプロセスを理解するためには、西洋の自然科学思想とは異なる東洋思想を理解し、東洋医学的な思考方法を習得する必要がある。東洋医学概論 I では、東洋医学の基礎となる東洋思想、陰陽五行説を中心に気の理論、その臨床的応用である五行色体表や気血精、神、津液などの理論を解説しながら、東洋医学と現代医学の違いを踏まえて、東洋医学的世界観を論理的に理解できるようになる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	東洋医学の起源と東洋医学の合理性について
2	陰陽説と五行説 陰陽と五行のコアイメージについて
3	五行色体表 (1) 方位、時間、季節など基本的な分類について
4	五行色体表 (2) 五臓、六腑、五感、感情、外見、臭い、音声など臨床的応用について
5	五行色体表 (3) 食べ物など、漢方薬、医食同源への応用について
6	気の種類 衛気と営気、宗気と元気について
7	血と津液について
8	五臓の生理 (1) 肝の生理
9	五臓の生理 (2) 心の生理 (含む心包の生理) 五神について
10	五臓の生理 (3) 脾の生理 消化吸収について
11	五臓の生理 (4) 肺の生理 肺と呼吸と心臓について
12	五臓の生理 (5) 腎の生理 (含む脳について) 腎と老化について
13	六腑の生理 奇恒の腑の生理
14	臓腑の関係性について (『素問』靈蘭秘典論 (08) より)
15	まとめ

【履修上の注意事項】

事前に配布する講義プリントを中心に授業が展開されます。
教科書「東洋医学概論」については授業の進度に合わせて予習 (一読) をしておくこと。

【評価方法】

期末試験：90% 課題提出物：10%

【テキスト】

「新版 東洋医学概論」(医道の日本社) 「中医基本用語辞典」(東洋学術出版社)

【参考文献】

「中医学の基礎」(東洋学術出版社) 「漢方用語大辞典」(創医学会学術部主編：療原書店)

東洋医学概論Ⅱ

担当教員 内田 匠治

配当年次 1年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

東洋医学的な手法を用いて鍼灸治療を行う場合は、東洋医学的な診察、診断、治療方針、配穴・手技という一連の行程に則って処置が施される。この治療のプロセスを理解するためには、西洋の自然科学思想とは異なる東洋思想を理解し、東洋医学的な思考方法を習得する必要がある。『東洋医学概論Ⅱ』では、東洋医学概論Ⅰで学んだ東洋医学の人体観および生理を確認しながら、その状態（＝正常）から離れた状態としての疾病観、発症要因と発症機序、代表的な病証、診断学を学習し、学修者が疾病の状態を自ら説明・鑑別できるようになる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	東洋医学における病因病機の基本概念および、三因論について。
2	外因・六淫の基本概念および特徴について。六淫の「風」の概念および発病や病症の特徴について。
3	内因・七情内傷の基本概念および発病や病症の特徴について。
4	不内外因・飲食労倦、痰飲、お血の基本概念および発病や病症の特徴について。
5	東洋医学的な発病機序の特徴および、八綱弁証、正邪盛衰、虚实の概念について。
6	陰陽失調の基本概念および、陰陽偏盛の特徴と病機・病症について。
7	気血失調、水液代謝失調、内生五邪の特徴と病機・病症について。
8	臓腑病機の基本概念と、五臓の各病証とその病機について（1）肝。
9	五臓の各病証（2）心、脾、肺
10	五臓の各病証（3）腎。六腑の各病証について。
11	経脈（十二正経）における各病証と経脈（奇経八脈、経別）および経筋病証とその病機について
12	六経弁証とその病機について。東洋医学的病態用語について。
13	四診法（1）望診、聞診について
14	四診法（2）問診、切診について
15	東洋医学的治療の流れとまとめ

【履修上の注意事項】

事前に配布する講義プリントを中心に授業が展開されます。
また「東洋医学概論Ⅰ」の内容の理解が不完全なままでは本科目の授業の理解は不可能です。本科目の受講前には必ず「東洋医学概論Ⅰ」の復習を十分に行っておくこと。教科書の2章3章については授業の進度に合わせて予習をしておくこと。

【評価方法】

評価方法 期末試験：90% 課題提出物：10%

【テキスト】

テキスト 講義プリントを配布する。その他「東洋医学概論」（医道の日本社）「中医基本用語辞典」（東洋学術出版社）

【参考文献】

参考文献 「中医学の基礎」（東洋学術出版社）「漢方用語大辞典」（創医学会学術部主編：療原書店）

東洋医学概論Ⅲ

担当教員 篠原 昭二

配当年次 2年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

東洋医学的病態把握を行うために、四診から病因や病証を考える。病証では①臓腑病、②経脈病、③経筋病、④外感病の存在があるかどうか、四診を通して明らかにする能力をマスターすることが主である。あわせて、鍼灸医学における身体観や生命観などの理解を深めるとともに、医療人としての基本的な態度を養うことも目的とする。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス：現代医学的、東洋医学的な鍼灸診療方式の特徴について学び、理解する。
2	臓腑経絡学説について：臓腑経絡学説に基づく鍼灸診察・治療法の概要を説明できる。
3	東洋医学の診察法（舌診、問診、背・腹診、切穴）が理解できる。
4	臓腑病の特徴、主な臓腑の病証とその特徴を説明できる。
5	経脈病の主な病証とその特徴を説明できる。（経脈の切経、切穴ができる）
6	経筋病の主な病証とその特徴を説明できる。（栄穴、兪穴の取穴ができる）
7	肩こりを診断して、治療を行う。肩こりにも種々のパターンがあることを理解する。
8	頸部痛を診断して、治療を行う。頸部痛にも種々のパターンがあることを理解する。
9	肩関節痛を診断して、治療を行う。肩関節痛にも種々のパターンがあることを理解する。
10	肘から手の痛みを診断して、治療を行う。肘から手の痛みのパターンがあることを理解する。
11	腰痛を診断して、治療を行う。腰痛にも種々のパターンがあることを理解する。
12	臀部痛を診断して、治療を行う。臀部痛にも種々のパターンがあることを理解する。
13	膝痛を診断して、治療を行う。膝痛にも種々のパターンがあることを理解する。
14	足関節痛を診断して、治療を行う。足関節痛にも種々のパターンがあることを理解する。
15	臓腑経絡学説に基づく鍼灸の診断・治療方式を理解する。

【履修上の注意事項】

「東洋医学概論Ⅰ」ならびに「東洋医学概論Ⅱ」の内容が理解できていないと本講義の理解は非常に困難です。先の2科目の復習を十分に行った上で受講すること。特に、①五臓六腑の生理と病理、②五行色体表、③四診情報については、十分予習して講義に参加してください。また、復習がとても重要です。各單元ごとの講義が終了した段階で、重要ポイントに関する復習を十分励行してください。

【評価方法】

期末試験：90% 課題提出物：10%

【テキスト】

篠原昭二：すぐ使える若葉マークのための鍼灸臨床指針、ヒューマンワールド

【参考文献】

1) 針灸学〔基礎編〕 東洋学術出版社, 2) 中医針灸治療のプロセス：朱江ほか編、篠原昭二監訳、東洋学術出版社

経絡経穴学概論 I

担当教員 野口 恭庸

配当年次 1年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 第 1 学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

経絡・経穴は、東洋医学において鍼灸医学を特徴づける基本的な概念である。また臨床において経穴は、患者の身体において直接鍼や灸を施術する重要な場所でもある。400個近くもある経穴からどれを選び、どんな刺激を加えるかが治療の成否を左右することになるが、初学者にとっては、まず「何という経穴が」、「どこにあるのか」を全て把握しておく必要がある。臨床で運用する前段階の知識として、十四経の流注ならびに、WHOが制定した361個の経穴の名称・取穴法をすべて記憶し、正しい漢字表記で記述できることを本科目の目的とする。

【授業の展開計画】

- 1 講義の進め方と諸注意。経絡・経穴の概要、骨度法と同身寸について。
- 2 督脈の流注と所属経穴(28穴)
- 3 任脈の流注と所属経穴(24穴)
- 4 手の太陰肺経(11穴)・陽明大腸経(20穴)の流注と所属経穴
- 5 足の陽明胃経(承泣～滑肉門まで23穴)の流注と所属経穴
- 6 足の陽明胃経(外陵～厲兌22穴)の流注と所属経穴
- 7 足の太陰脾経(21穴)・手の少陰心経(9穴)の流注と所属経穴
- 8 手の太陽小腸経(19穴)の流注と所属経穴
- 9 足の太陽膀胱経(1)の流注と所属経穴(睛明～委中まで40穴)
- 10 足の太陽膀胱経(2)の流注と所属経穴(附分～至陰まで27穴)
- 11 足の少陰腎経の流注と所属経穴(27穴)
- 12 手の厥陰心包経(9穴)・少陽三焦経の流注と所属経穴(23穴)
- 13 足の少陽胆経(1)の流注と所属経穴(瞳子髎～肩井まで21穴)
- 14 足の少陽胆経(2)の流注と所属経穴(淵腋～足竅陰まで23穴)
- 15 足の厥陰肝経の流注と所属経穴(14穴)

【履修上の注意事項】

本科目は、「十四経の流注と361穴の経穴名・取穴を全て覚える」という到達目標が明確に設定されている。講義に出席する前の十分な準備と、既に終わった講義内容の記憶を維持する復習作業の継続が必須となる。1年生全員で協力し合って、この目標を完遂してもらいたい。これらの作業をサポートする目的で、毎回、前回までの講義内容の確認テストと、その日の講義内容の確認作業を実施する。一回でも欠席してしまうと、遅れた分のリカバリーが非常に困難になるので、遅刻・欠席をしないよう、普段からの自己管理を徹底すること。

【評価方法】

提出物、確認テスト50%、期末試験50%により評価。

【テキスト】

『新版 経絡経穴概論』(第2版) 公益社団法人東洋療法学校協会 編 医道の日本社

『古典から学ぶ経絡の流れ』 浅川 要 編著 東洋学術出版社

【参考文献】

『[改訂版] ボディ・ナビゲーション』 Andrew Biel 著、阪本桂造 監訳 医道の日本社

経絡経穴学概論Ⅱ

担当教員 篠原 昭二

配当年次 2年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

学習者が経穴の部位・作用・臨床的応用法について理解・記憶する事を目的とする。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス（授業の進め方）要穴について理解できる
2	督脈経の部位、穴性、臨床的用法について理解できる
3	任脈経の部位、穴性、臨床的用法について理解できる
4	肺経・大腸経の部位、穴性、臨床的用法について理解できる
5	胃経の部位、穴性、臨床的用法について理解できる
6	脾経の部位、穴性、臨床的用法について理解できる
7	心経・小腸経の部位、穴性、臨床的用法について理解できる
8	膀胱経の部位、穴性、臨床的用法について理解できる（1）
9	膀胱経の部位、穴性、臨床的用法について理解できる（2）
10	腎経の部位、穴性、臨床的用法について理解できる
11	心包経・三焦経の部位、穴性、臨床的用法について理解できる
12	胆経の部位、穴性、臨床的用法について理解できる
13	肝経の部位、穴性、臨床的用法について理解できる
14	五行穴・五俞穴の部位、穴性、臨床的用法について理解できる
15	まとめ

【履修上の注意事項】

授業に積極的に参加すること。マナーが悪い学生には退室をしてもらうことがあります。また、授業終了時に次の講義内容を予告しますから、その内容について経穴名や取穴法をしっかりと予習して講義に臨んでください。また、講義開始時には、出欠確認を兼ねて、経穴名の書き取りテストを実施します。成績評価は30%を占めます。経穴名や取穴法については、しっかりと復習しておいてください。

【評価方法】

出席確認試験50%(毎回、経穴名を順番にかけるようになること)、期末試験50%とする。

【テキスト】

臨床経穴ポケットガイド361穴（医歯薬出版）

【参考文献】

WHO/HPRO標準経穴部位（日本公式版）WHO西太平洋地域事務局、医道の日本社
ボディ・ナビゲーション～触ってわかる身体解剖～ Andrew Biel 医道の日本社

経絡経穴学概論Ⅱ

担当教員 野口 恭庸

配当年次 1年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

「経穴」を臨床で運用する際は、治療目的に応じて適切なものを選び、手技等を加え使用する必要がある。その選穴処方根拠となる一つが、「経穴の主治（病症）」といわれる概念である。それらを記した歴代の鍼灸書には様々なものがあるが、その主治の多くは「経絡の通じる所は、主治の及ぶ所」といわれるように、所属経絡の循行部位に惹起する病症となっている。本科目では臨床運用の橋渡しとなるように、経筋や非経穴部位も含めた経絡の循行部位の正確な把握と、臨床で使用頻度の高い要穴について理解することを目標とする。

【授業の展開計画】

- 1 講義の進め方と諸注意。要穴の概要。五要穴について
- 2 五俞穴と五行穴、四総穴、八会穴、下合穴について
- 3 経絡系統について
- 4 八脈交会穴と奇経八脈について
- 5 手の太陰肺経・陽明大腸経の正経・経別・絡脈と対応する経筋
- 6 足の陽明胃経・足の太陰脾経の正経・経別・絡脈と対応する経筋
- 7 手の少陰心経・手の太陽小腸経の正経・経別・絡脈と対応する経筋
- 8 足の太陽膀胱経・足の少陰腎経の正経・経別・絡脈と対応する経筋
- 9 手の厥陰心包経・少陽三焦経の正経・経別・絡脈と対応する経筋
- 10 足の少陽胆経・足の厥陰肝経の正経・経別・絡脈と対応する経筋
- 11 身体部位から見た経絡の走行分布・頭部顔面の経絡群
- 12 身体部位から見た経絡の走行分布・頸部、脊柱、膈、陰器の経絡群
- 13 グループワークの説明と大学における学習技法について
- 14 前半グループの調査発表
- 15 後半グループの調査発表

【履修上の注意事項】

本科目は、1学期の『経絡経穴学概論Ⅰ』が修得できている前提で講義を行う。1学期の内容に不安が残る学生は、講義に出席する前の準備を確実にすること。本科目でも毎回、前回までの講義内容の確認テストと、その日の講義内容の確認作業を実施する。一回でも欠席してしまうと、遅れた分のリカバリーが非常に困難になるので、遅刻・欠席をしないよう、普段からの自己管理を徹底すること。

【評価方法】

提出物、確認テスト、グループワークの内容50%、期末試験50%により評価。

【テキスト】

『新版 経絡経穴概論』（第2版） 公益社団法人東洋療法学校協会 編 医道の日本社
『古典から学ぶ経絡の流れ』 浅川 要 編著 東洋学術出版社

【参考文献】

適宜プリントを配布する。

東洋医学臨床論 I

担当教員 内田 匠治

配当年次 2年

単位区分 必修

開講時期 第 1 学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

一般目標：鍼灸臨床で遭遇する可能性のある主な疾患について、鑑別診断するための診察法および治療法を身につける。到達目標：1) 鍼灸臨床で遭遇する可能性のある主な症候・疾患の定義、原因と病態を説明できる。2) 患者の愁訴について鑑別診断するための情報を聴取できる。3) 患者に対する診察法を実施できる。4) 鍼灸所見を記述して分類概説できる。5) 患者の愁訴について治療の適否を判断できる。6) 患者に対する治療計画(治療方針・処方例)を説明できる。7) 患者に対する治療方法を実施できる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	治療総論：現代医学的および東洋医学的な治療原則・治療計画の特徴を理解する。(本田)
2	2) 顔面痛に対する基本的な鍼灸治療の方法を理解する(内田)
3	5) 眼精疲労に対する基本的な鍼灸治療の方法を理解する(内田)
4	9) 耳鳴と難聴に対する基本的な鍼灸治療の方法を理解する(本田)
5	26) 高血圧症 27) 低血圧症に対する基本的な鍼灸治療の方法を理解する(本田)
6	7) 脱毛症に対する基本的な鍼灸治療の方法を理解する(内田)
7	14) 悪心と嘔吐に対する基本的な鍼灸治療の方法を理解する(内田)
8	28) 食欲不振に対する基本的な鍼灸治療の方法を理解する(本田)
9	6) 鼻閉・鼻汁に対する基本的な鍼灸治療の方法を理解する(内田)
10	17) 排尿異常、18) インポテンツに対する基本的な鍼灸治療の方法を理解する(内田)
11	11) 喘息に対する基本的な鍼灸治療の方法を理解する(内田)
12	29) 肥満に対する基本的な鍼灸治療の方法を理解する(内田)
13	33) 疲労と倦怠に対する基本的な鍼灸治療の方法を理解する(本田)
14	12) 胸痛に対する基本的な鍼灸治療の方法を理解する(内田)
15	31) のぼせと冷えに対する基本的な鍼灸治療の方法を理解する(内田)

【履修上の注意事項】

1) 毎回の講義ノートを作り授業中配布される資料と共に保管すること。教科書にメモ書きするような勉強の仕方は改めてください。2) 毎回レポートや小テストを課すので期日までに提出してください。3) 本講義は、はり師・きゅう師国家試験に出題される教科の1つですので講義ノートを中心に予習・復習をおこない積極的に授業にのぞんでください。4) 授業態度が著しく悪く周囲の学生に悪影響を与えると判断した場合には退室を命じることがあります。5) 授業中に理解できないことがあれば、教員に質問してください。

【評価方法】

期末試験80%、 課題レポート10%、その他(ノートの提出) 10%

【テキスト】

『東洋医学臨床論(はりきゅう編)』教科書執筆小委員会：著、医道の日本社
『始原東洋医学』有川貞清：著、高城書房 2008年

【参考文献】

症例の資料を、テーマに併せて適宜紹介・配布する。

東洋医学臨床論Ⅱ

担当教員 篠原 昭二

配当年次 2年

開講時期 第2学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

一般目標：鍼灸臨床で遭遇する可能性のある主な症候・疾患について、鑑別診断するための診察法および治療方法を身につける。到達目標：1) 鍼灸臨床で遭遇する可能性のある主な症候・疾患の定義、原因と病態を説明できる。2) 患者の愁訴について鑑別診断するための情報を聴取できる。3) 四診法による鍼灸所見を記述して分類・概説できる。4) 患者の愁訴について治療の適否や治療計画（治療方針・処方例）を説明できる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	治療総論～現代医学的ならびに東洋医学的な治療原則・治療効果の根拠を理解する
2	外観病：感冒・流感・おたふく風邪症候に対する診断と治療（風熱・風寒・傷寒）が理解できる
3	頸肩腕痛に対する診断と治療法が理解できる
4	腱鞘炎・弾発指に対する診断と治療法が理解できる
5	骨折・脱臼・打撲・捻挫に対する診断と治療法が理解できる
6	腰下肢痛に対する診断と治療法が理解できる
7	膝痛に対する診断と治療法が理解できる
8	運動麻痺に対する診断と治療法が理解できる
9	リウマチ・アトピー性皮膚炎の診断と治療法が理解できる
10	うつ病・更年期の躁鬱・ノイローゼ等に対する診断と治療法が理解できる
11	頭痛・眩暈・顔面麻痺・歯痛に対する診断と治療法が理解できる
12	下痢と泄瀉・便秘に対する診断と治療法が理解できる
13	婦人科系愁訴に対する鍼灸治療の診断と治療法が理解できる
14	老年病・小児の症状に対する鍼灸治療の診断と治療法が理解できる
15	健康・予防（治未病）と鍼灸治療（東洋医学的な概念と治療方法）について理解できる

【履修上の注意事項】

1) 毎回の講義ノートを作り授業中配布される資料と共に保管すること。2) 本講義は、はり師・きゅう師国家試験に出題される教科の1つですので、講義ノートを中心に予習・復習をおこない積極的に授業に臨んでください。3) 授業態度が著しく悪く周囲の学生に悪影響を与えると判断した場合には退室を命じることがあります。また、講義ごとに確認テストを実施することがありますから、しっかり授業に集中してください。

【評価方法】

配点は期末試験100%。

【テキスト】

配布資料

【参考文献】

- 1) 篠原昭二：『補完・代替医療 鍼灸』、金芳堂、2014。
- 2) 『東洋医学臨床論（はりきゅう編）』東洋療法学校協会教科書執筆小委員会：著、医道の日本社

鍼灸安全管理学

担当教員 塚本 紀之

配当年次 3年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

感染予防や医療事故の防止に関する基本的知識を学修し、安全で安心な鍼灸医療を実践できる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	概論：鍼灸医療の安全
2	鍼灸医療におけるリスクマネジメント
3	鍼灸医療事故への対応（1）事故直後の対応
4	鍼灸医療事故への対応（2）事故後の長期対応
5	鍼灸医療事故防止対策
6	鍼灸医療事故の法的解決・賠償責任保険
7	感染防止対策（1）病原微生物と感染
8	感染防止対策（2）感染症の予防
9	感染防止対策（3）施術上注意したい感染症
10	感染防止対策（4）手指消毒と施術野の消毒、消毒薬の効果、免疫学的測定法（体験学習）
11	感染防止対策（5）器具の消毒と滅菌、保管、消毒薬の効果判定（体験学習）
12	鍼灸医療環境の構築と保持、廃棄物の処理（感染性廃棄物を含む）
13	鍼灸治療の禁忌と傷害事故の防止
14	鍼灸医療機器の安全管理
15	鍼灸医療事故の具体例と対策（発表会）まとめ

【履修上の注意事項】

講義前の予習：第1回目の講義時に配布する教科書対応表に記載されている各講義回の教科書該当ページを参照して概要をつかんでおくこと

講義後の復習：各回の講義を聴講後、もう一度教科書該当ページを読み、復習しておくこと。

【評価方法】

学期末試験（80%）、体験学習課題レポート（10%）、課題発表（10%）

【テキスト】

①鍼灸医療安全対策マニュアル（医歯薬出版）②わかる！身につく！病原体・感染・免疫 改訂2版（藤本秀士 編著 南山堂）③鍼灸師・柔道整復師のための局所解剖カラーアトラス（北村清一郎 南江堂）

【参考文献】

鍼灸医療安全ガイドライン（尾崎昭弘・坂本 歩/鍼灸安全性委員会 編 医歯薬出版）

はりきゅう理論 I

担当教員 田口 太郎

配当年次 2年

開講時期 第2学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

- 1) 鍼灸施術の意義と特徴、様々な用具と施術法、鍼灸施術の適応および禁忌、リスク管理について学び、実習に活用することができる。
- 2) 鍼灸治療の治効理論（はりきゅう理論Ⅱ）を学ぶ上で必要となる解剖学及び生理学の基礎知識について説明できる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	概論：鍼灸施術の意義と特徴・治効理論の特殊性
2	鍼・灸の材料と製法・用具・一般的な術式及び特殊な術式の種類
3	鍼灸施術の臨床応用と禁忌
4	鍼灸施術における有害事象とリスクマネジメント
5	鍼灸治効理論の解剖生理：感覚の種類について
6	鍼灸治効理論の解剖生理：神経線維の種類について
7	鍼灸治効理論の解剖生理：情報伝達の機序とルートについて
8	鍼灸治効理論の解剖生理：反射の種類と機序について
9	鍼灸治効理論の解剖生理：自律神経の構成と役割について
10	鍼灸治効理論の解剖生理：交感神経・副交感神経による制御と応答について
11	鍼灸治効理論の解剖生理：末梢循環の調節について
12	鍼灸治効理論の解剖生理：内分泌系の作用について
13	鍼灸治効理論の解剖生理：細胞性免疫・液性免疫とその連関について
14	鍼灸治効理論の解剖生理：炎症反応と痛みについて
15	鍼灸治効理論の解剖生理：アレルギーについて

【履修上の注意事項】

1. 出席に関しては学則に定めるものに加えて、「鍼灸スポーツ学科 講義・実習科目の出席に関する注意」（オリエンテーション時に配付されたもの）を熟読の上、授業に参加すること（単位修得に直接関係する事柄なので厳守すること）。
2. 各回の内容に関連する解剖学・生理学の予習をして授業に臨むこと。
3. レポート作成は毎回の講義中におこなう。前回の内容が中心となるので必ず復習しておくこと。

【評価方法】

レポート・小テスト合計 50%、筆記試験 50%

【テキスト】

はりきゅう理論（東洋療法学校協会編 医道の日本社）
 生理学テキスト第7版（大地陸男 文光堂） 解剖学第2版（河野邦雄ほか 医歯薬出版）

【参考文献】

標準生理学（本郷利憲他 監修 医学書院）・ネッター解剖学アトラス（Frank H. Netter著 相磯貞和訳 南江堂）・新しい鍼灸診療（北出利勝 編集 医歯薬出版）

はりきゅう理論Ⅱ

担当教員 塚本 紀之

配当年次 3年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

鍼灸の様々な科学的研究より明らかになりつつある治効作用機序について、自分の言葉で簡潔に説明できる。

【授業の展開計画】

1. 鍼灸治効理論 (1) 体表の感覚受容器
2. 鍼灸治効理論 (2) 痛覚
3. 鍼灸治効理論 (3) 鍼鎮痛のメカニズム
4. 鍼灸治効理論 (4) 筋緊張の調節
5. 鍼灸治効理論 (5) 反射
6. 鍼灸治効理論 (6) 鍼灸刺激と自律神経
7. 鍼灸治効理論 (7) 鍼灸刺激と代謝
8. 鍼灸治効理論 (8) 生体防御系の成り立ち
9. 鍼灸治効理論 (9) 自然免疫
10. 鍼灸治効理論 (10) 獲得免疫
11. 鍼灸治効理論 (11) エフェクター細胞
12. 鍼灸治効理論 (12) 鍼灸刺激と免疫反応の調節 (神経系、内分泌系と免疫系)
13. 鍼灸治効理論 (13) 異物の見分け方 (HLAと移植)
14. 鍼灸治効理論 (14) 免疫系の破綻 (アレルギー、自己免疫、免疫不全)
15. 鍼灸治効理論 (15) まとめ

【履修上の注意事項】

はり・きゅう理論Ⅱは、はり師きゅう師を目指す学生にとって、必要不可欠な科目の1つである。

学生の十分な予習・復習が必要である。

講義前の予習：第1回目の講義時に配布する教科書対応表に記載されている各講義回の教科書該当ページを参照して概要をつかんでおくこと

講義後の復習：各回の講義を聴講後、もう一度教科書該当ページを読み、復習しておくこと。

【評価方法】

学期末試験 (100%)

【テキスト】

①はりきゅう理論 (東洋療法学校協会 編 医道の日本社) ②生理学 (第3版 東洋療法学校協会 編 医歯薬出版)

【参考文献】

①標準生理学 (小沢澗司、福田康一郎 総編集 医学書院) ②わかる! 身につく! 病原体・感染・免疫 改訂2版 (藤本秀士 編著 南山堂)

鍼灸医学総合演習

担当教員 本田 泰弘、浅井 福太郎、内田 匠治 本田 泰弘

配当年次 4年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

一般目標：症例の検討を通して、鍼灸医学の基礎的な知識としての現代医学、東洋医学を理解し、教科を超えて知識を統合することができる。

個別目標：これまでの学習の理解度をはかる小テストや、個々の学生の進路を総合的に勘案して、面談を通して教員学生が相互に話し合い決定する。決定した目標について、（具体的には解剖学、生理学、臨床総論、臨床各論など）鍼灸医学の基礎的な内容を理解できるようになる。

【授業の展開計画】

症例検討に必要な基礎的な知識について、教員は個々の学生の学習の進捗状況に合わせグループ分けを行い、グループごとの到達目標を設定しそれぞれのグループに担当する教員を配置する形でグループ学習を指導する。授業はアクティブラーニングの方式で行い、班ごとに症例について話し合う。授業の結果を、班ごとでレポートとして提出する。

【履修上の注意事項】

小テストとして課される課題は、担当する教員がグループごとに学習の習熟度、進捗状況に応じて決定する。自宅においての予習・復習が不可欠であり、授業時間外の指導や模擬試験などにも積極的に参加すること。わからないことや小テストの再受験を希望する者は授業時間外にも担当教員らのもとに来ること。

【評価方法】

期末試験80%，小テスト・レポート20%

補講や授業時間外の予習・復習への取り組みなどを総合的に評価して（予習・復習による自主的学修態度）とし、上記評価点に加味することがある。

【テキスト】

解剖学マスター、生理学マスター、新版経絡経穴概論（医道の日本社）『解剖学』『生理学第2版』『臨床医学各論』『臨床医学総論』東洋療法学校協会編（医歯薬出版）

【参考文献】

学生の個々の状況に合わせ、適宜紹介する。

社会鍼灸学

担当教員 内田 匠治、塚本 紀之

配当年次 3年

開講時期 第2学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

現代における鍼灸および鍼灸師の社会的ニーズを理解することを学習の目標とする。各種疾患や社会制度を切り口として、現代における東洋医学の意義や、可能性について理解し、医療人としてのアイデンティティを形成していくことができるようにする。様々な社会的問題を鍼灸・東洋医学の立場から分析し、医療人としての広い視野を持つことができる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	総論…社会的ニーズと はり師 きゅう師（鍼灸師）の特異な役割を理解する（塚本）
2	鍼灸師を取り巻く環境；現代社会における医療制度の現状医療保険制度および介護保険制度（内田）
3	鍼灸師を取り巻く環境；社会保障制度下における鍼灸治療、医療機関における鍼灸師の役割（内田）
4	地域で期待される鍼灸師の業務…施術所における はり治療 きゅう治療（塚本）
5	現代社会における鍼灸師の役割…高齢社会における鍼灸師の役割（塚本）
6	少子化社会における鍼灸師の役割（内田）
7	女性の健康管理における鍼灸師の役割①（内田）
8	女性の健康管理における鍼灸師の役割②（塚本）
9	ストレス社会における鍼灸師の役割①（塚本）
10	ストレス社会における鍼灸師の役割②（内田）
11	スポーツ傷害（外傷と障害）における鍼灸師の役割（内田）
12	QOL（生活の質）の向上と鍼灸師の役割①（塚本）
13	QOL（生活の質）の向上と鍼灸師の役割②（内田）
14	施術所の経営展開…施術所開設に必要な法律知識、経営各論（内田）
15	社会的ニーズと はり師 きゅう師（鍼灸師）の特異な役割（塚本）

【履修上の注意事項】

1) 教科書は必ず持参してください。毎回の講義ノートを作り、授業中配布される資料とともに保管すること。教科書にメモ書きするような勉強の仕方は改めてください。2) 授業の内容に基づいた内容が期末試験で問われますので、授業の内容を理解し、それをもとに自分の考えをまとめるようにしてください。に提出してください。

【評価方法】

期末試験、課題レポートによる評価を各担当教員ごとに行い、その合計点を最終評価とする。期末試験と課題レポートの点数比率は試験開始前に各担当教員から告知を行う。

【テキスト】

『社会あはき学』教科書執筆小委員会、医道の日本社

『医療原論（いのち・自然治癒力）』渡邊勝之：編著、医歯薬出版社 2011年

【参考文献】

『始原東洋医学』有川貞清：著、高城書房 2008年

社会鍼灸学演習（施設見学を含む）

担当教員 篠原 昭二、本田 泰弘、塚本 紀之、野口 恭庸、田口 太郎、内田 匠治、浅井 福太郎、久保 春子

配当年次 3年

開講時期 第2学期

単位区分 選択

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

鍼灸師の社会的ニーズと役割について討論を中心に演習を行う。①鍼灸師を取り巻く我が国の医療、保健、社会福祉環境の現状を理解した上で、地域保健や産業保健、老人保健、災害医療などに鍼灸師が将来どのように貢献できるか考える。②諸外国の医療制度の中の鍼灸の位置づけについても学習し、国際的な見識も深める。③高齢者介護の体験型授業や鍼灸、漢方を診療に取り入れている病院等の施設見学を行う。そして総合的な視野から今後の鍼灸医療の方向性を自ら考えられるようになる。

【授業の展開計画】

週	授業の内容	週	授業の内容
1	履修の説明	16	車いす介助(体験学習)
2	はり師きゅう師の業務	17	施設見学演習①
3	マッサージ師・視覚障がい有資格者の業務	18	施設見学演習②
4	柔道整復師の業務	19	施設見学演習③
5	代替・相補医療①(物理療法など)	20	施設見学演習④
6	代替・相補医療②(手技療法など)	21	施設見学演習⑤
7	鍼灸院経営における問題点と課題(討論)	22	施設見学演習⑥
8	鍼灸師の養成機関と鍼灸医学の研究機関	23	施設見学演習⑦
9	災害時の鍼灸治療(東日本大震災時活動紹介)	24	施設見学演習⑧
10	災害時の鍼灸治療(討論)	25	施設見学演習⑨
11	世界の鍼灸事情(中国・韓国)	26	施設見学演習⑩
12	世界の鍼灸事情(欧州・北米・南米など)	27	施設見学演習⑪
13	高齢者介護における鍼灸師の役割(体験学習)	28	施設見学演習⑫
14	障害者介護における鍼灸師の役割(体験学習)	29	まとめ①(施設見学の発表)
15	車いす操作(体験学習)	30	まとめ②(総合討論)

【履修上の注意事項】

1. 討論を行うテーマについて、予習すること。施設見学前には、見学時の質問事項などをあらかじめ準備しておくこと。
2. 自分の意見を積極的に発言すること。
3. 施設見学後は、レポートを作成し提出すること。

【評価方法】

課題発表60%、レポート40%
期末試験は行わない。

【テキスト】

社会鍼灸学演習施設見学の手引き(九州看護福祉大学看護福祉学部鍼灸スポーツ学科編)編・配布資料

【参考文献】

「社会あはき学」(東洋療法学校協会 編 医道の日本社)

臨床コミュニケーション

担当教員 田口 太郎、久保 春子、花田 雄二

配当年次 3年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 実習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

- 1) 鍼灸診療の場面を想定したロールプレイおよびカンファレンスを通して、患者と鍼灸師の良好な関係の構築にもとづいた診察・治療の過程が理解・実践できる。
- 2) 鍼灸診療録の特殊性を理解した上で、オリジナル診療録を作成し活用することができる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス	16	四診と医療面接(1):望診について
2	ロールプレイの目的とルール	17	四診と医療面接(2):問診について
3	コミュニケーションの「能力」とは何か	18	四診と医療面接(3):問診について
4	医療人?それはどのような人か	19	四診と医療面接(4):切診と触診の違い
5	医療人としての態度とは	20	四診と医療面接(5):切診① 脈診・切経
6	医療面接と問診の違い	21	四診と医療面接(6):切診② 腹診
7	言語的/非言語的コミュニケーション	22	患者の目的と医療者の目的
8	質問と投げかけの違い	23	何故ラ・ポールの構築が必要なのか
9	開かれた/閉じられた質問	24	医療過誤の原因
10	傾聴:聞くことと聴くの違い	25	鍼灸治療におけるジェンダー
11	共感的態度?誰が決めるのか	26	コミュニケーションの階層について
12	鍼灸治療の特殊性	27	附属鍼灸臨床センター診療見学(前)
13	カルテ記載の目的	28	附属鍼灸臨床センター診療見学(後)
14	カルテの構成	29	第3者SPに対するロールプレイ(前)
15	四診(望・聞・問・切診)と医療面接の関係	30	第3者SPに対するロールプレイ(後)

【履修上の注意事項】

1. 出席に関しては学則に定めるものに加えて、「鍼灸スポーツ学科 講義・実習科目の出席に関する注意」(オリエンテーション時に配付されたもの)を熟読の上、授業に参加すること(単位修得に直接関係する事柄なので厳守すること)。
2. 本実習では毎回ロールプレイについて、お互いに評価を行い、次回にそのカンファレンスを行うので、必ず復習をして参加すること。また、症例の事前告知をおこなうので、病態等の予習をして臨むこと。

【評価方法】

ロールプレイへの取組み(40%)、カンファレンスへの取組み(30%)、評価表(30%)

【テキスト】

「鍼灸臨床における 医療面接」(丹澤章八著:医道の日本社)

【参考文献】

適宜紹介する。

はり基礎実習 I

担当教員 本田 泰弘、浅井 福太郎

配当年次 1年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 実習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

はり基礎実習 I では、基本的な刺鍼技術を身につけることを目的とする。また、鍼や刺鍼に関する基礎知識、安全な鍼施術を行う上で必要とされる衛生概念や感染防止対策、さらに医療事故・有害事象に対する防止対策を理解し、学修者による安全かつ衛生的な鍼施術を遂行できることを目的とする。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス (1)	16	自己刺鍼に関するガイダンス
2	ガイダンス (2)	17	ディスポーザブル鍼使用に関するガイダンス
3	両手・片手挿管法 (1)	18	自己刺鍼 (1)
4	両手・片手挿管法 (2)	19	自己刺鍼 (2)
5	両手・片手挿管法 (3)	20	自己刺鍼 (3)
6	切皮	21	自己刺鍼 (4)
7	旋撚刺法 (1)	22	自己刺鍼 (5)
8	旋撚刺法 (2)	23	自己刺鍼 (6)
9	旋撚刺法 (3)	24	自己刺鍼 (7)
10	旋撚刺法 (4)	25	自己刺鍼 (8)
11	送りこみ刺法 (1)	26	相手への刺鍼 (1)
12	送りこみ刺法 (2)	27	相手への刺鍼 (2)
13	送りこみ刺法 (3)	28	相手への刺鍼 (3)
14	送りこみ刺法 (4)	29	相手への刺鍼 (4)
15	まとめ 中間試験	30	相手への刺鍼 (5)

【履修上の注意事項】

本実習は、毎回新たな内容の技術指導が行われる。授業時間以外に各自で自習時間を確保し、毎日の復習練習を必ず行うこと。また一度でも欠席すると、学習について行くことが非常に困難になるので原則として欠席をしないこと。本学科の「実習内規」を熟読し、内容を確実に理解すること。内規のとおり、授業回数分の5分の1を超えて欠席した場合は、評価の資格を喪失するので十分注意すること。

【評価方法】

試験は口頭試験及び実技試験

評価 = { 中間試験 (A%) + 期末試験 (B%) } × 取組姿勢 (100% - 授業不参加回数 × 4%)

刺鍼操作技術評価は A = 20、B = 80

【テキスト】

はりきゅう実技 (基礎編) 第2版 東洋療法学校協会編 医道の日本社

鍼灸医療安全ガイドライン 尾崎昭弘、坂本歩、鍼灸安全性委員会編 医歯薬出版株式会社

【参考文献】

はり基礎実習Ⅱ

担当教員 浅井 福太郎、本田 泰弘

配当年次 1年

開講時期 第2学期

単位区分 必修

授業形態 実習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

はり基礎実習Ⅱでは、刺鍼部位の解剖学的形態の知識および、正確な取穴技術を習得する。また、鍼灸臨床の基礎となる手技を身につけ、安全かつ衛生的に全身の筋肉、経穴に刺鍼が行えることを目標とする。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス	16	頭顔部：ランドマーク・筋の触察と刺鍼1
2	上肢：ランドマーク・筋の触察と刺鍼1	17	頭顔部：ランドマーク・筋の触察と刺鍼2
3	上肢：ランドマーク・筋の触察と刺鍼2	18	頭顔部：ランドマーク・筋の触察と刺鍼3
4	上肢：ランドマーク・筋の触察と刺鍼3	19	頭顔部：主要な経穴の取穴と刺鍼
5	上肢：主要な経穴の取穴と刺鍼	20	頸背部：ランドマーク・筋の触察と刺鍼1
6	下肢：ランドマーク・筋の触察と刺鍼1	21	頸背部：ランドマーク・筋の触察と刺鍼2
7	下肢：ランドマーク・筋の触察と刺鍼2	22	頸背部：ランドマーク・筋の触察と刺鍼3
8	下肢：ランドマーク・筋の触察と刺鍼3	23	頸背部：主要な経穴の取穴と刺鍼
9	下肢：主要な経穴の取穴と刺鍼	24	肩部：ランドマーク・筋の触察と刺鍼1
10	腰臀部：ランドマーク・筋の触察と刺鍼1	25	肩部：ランドマーク・筋の触察と刺鍼2
11	腰臀部：ランドマーク・筋の触察と刺鍼2	26	肩：主要な経穴の取穴と刺鍼
12	腰臀部：ランドマーク・筋の触察と刺鍼3	27	腹胸部：ランドマーク・筋の触察と刺鍼1
13	腰臀部：主要な経穴の取穴と刺鍼	28	腹胸部：ランドマーク・筋の触察と刺鍼2
14	刺鍼練習	29	腹胸部：主要な経穴の取穴と刺鍼
15	中間試験	30	刺鍼練習

【履修上の注意事項】

本実習は、毎回新たな内容の技術指導が行われます。授業実習時間以外でも各自で自習時間を確保し、復習・練習を行うこと。また欠席すると授業について行くことが困難なため、欠席した場合は必ず欠席分の補習を受けること。内規のとおり、授業回数5分の1を超えて欠席した場合は、評価の資格を喪失するので注意すること。授業終了後の実習簿の提出がない場合は欠席扱いとする。

【評価方法】

実技試験及び口頭試問

評価＝（中間試験＋期末試験）×取組姿勢（100%－授業不参加回数－4%）

【テキスト】

カラー人体解剖学（西村書店）

運動・からだ図解 筋と骨格の触診術の基本（マイナビ出版）

【参考文献】

きゅう基礎実習 I

担当教員 田口 太郎、久保 春子

配当年次 1年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 実習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

きゅう基礎実習Ⅱ

担当教員 久保 春子、田口 太郎

配当年次 1年

開講時期 第2学期

単位区分 必修

授業形態 実習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

- 1) 臨床において灸施術を効果的に行うための技術を身に付ける。
- 2) 経穴の様々な特性に応じた取穴ができる技術を身に付ける。
- 3) 基礎的な東洋医学的所見をとることができる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	基礎実習Ⅰのふりかえり・手技の確認	16	糸状灸の手技（手足の井穴）・取穴
2	米粒大の交互施灸（施灸練習台）・取穴	17	隔物灸の手技（塩・にんにく・生姜）・取穴
3	交互施灸（自身の足部）・取穴	18	五要穴への施灸：原穴
4	交互施灸（足部）・取穴	19	五要穴への施灸：ゲキ穴
5	交互施灸（腰背部）・取穴	20	五要穴への施灸：絡穴
6	交互施灸（肩背部）・取穴	21	五要穴への施灸：愈穴
7	交互施灸（仙骨部八リョウ穴）・取穴	22	五要穴への施灸：募穴
8	特殊部位：頭部への施灸・取穴	23	要穴への施灸：四総穴・八総穴
9	特殊部位：項頸部への施灸・取穴	24	要穴への施灸：下合穴
10	特殊部位：下腹部への施灸・取穴	25	五愈穴への施灸：榮穴
11	東洋医学的所見の基礎：脈診・取穴	26	五愈穴への施灸：愈穴
12	東洋医学的所見の基礎：腹診・取穴	27	五愈穴への施灸：経穴
13	東洋医学的所見の基礎：舌診・取穴	28	五愈穴への施灸：合穴
14	鍼灸治療所見学	29	奇穴への施灸：四華・患門・六華・小児斜差
15	交互施灸手技及び取穴技能の確認	30	六つ灸への連続交互施灸及び取穴技能の確認

【履修上の注意事項】

1. 出席に関しては学則に定めるものに加えて、「鍼灸スポーツ学科 講義・実習科目の出席に関する注意」（オリエンテーション時に配付されたもの）を熟読の上、授業に参加すること（単位修得に直接関係する事柄なので厳守すること）。
2. 基礎技術は知識だけでは身に付かない。日々復習に励むこと。
3. 解剖学（骨・筋・神経・脈管）および経絡経穴学、東洋医学概論の予習をおこなって実習に臨むこと。

【評価方法】

灸術および取穴技術の実技試験 50%、実習簿 40%、課題 10%

【テキスト】

1. 図解鍼灸臨床手技マニュアル（尾崎昭弘著 医歯薬出版社）
2. 新版 経絡経穴概論（東洋療法学校協会編 医道の日本社）
3. 鍼灸安全ガイドライン（尾崎昭弘・坂本歩・鍼灸安全性委員会編 医歯薬出版社）

【参考文献】

実習テーマに併せて適宜紹介する。

鍼灸臨床実習 I (内科系)

担当教員 篠原 昭二、本田 泰弘、塚本 紀之、野口 恭庸、内田 匠治

配当年次 2年

開講時期 第2学期

単位区分 必修

授業形態 実習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

鍼灸臨床において遭遇する代表的な症候のうち、主に内科系疾患領域について、現代医学的・東洋医学的双方からの症候分析、適・不適の判断、治療方針や処方例を学ぶと共に、実際の鍼灸治療に必要な技術を身につける。

【授業の展開計画】

1週3コマを15週に渡って行う（全45コマ）。履修者数に応じて前半クラスと後半クラスに分けて実施する。各週で取り扱う主な症候と担当教員、日程の詳細についてはガイダンス時に連絡する。

【実習テーマ】

のぼせ・冷え／発熱／小児の症状／めまい／耳鳴・難聴／発疹／脱毛症／腹痛／食欲不振／肥満／高血圧症／低血圧症／歯痛／眼精疲労／喘息／胸痛／排尿異常／ED／鼻閉・鼻汁／咳嗽／不眠／疲労・倦怠／頭痛／肩こり／顔面痛／顔面麻痺／悪心・嘔吐／便秘・下痢／月経異常

【履修上の注意事項】

本学科の「実習内規」を熟読し、確実に理解すること。オリエンテーション、または実習の初回に説明する「鍼灸スポーツ学科 授業ならびに試験の出欠席に関する注意」を遵守すること。

【評価方法】

評価方法および評価比率

- (a) 授業時間中の実習内容に関するレポート／小テスト … 50%
- (b) 期末試験期間中に実施する筆記試験 … 25%
- (c) 期末試験期間中に実施する実技試験 … 25%

【テキスト】

各週の実習内容に応じて、必要な際は担当責任者が指定する。

【参考文献】

各週の実習内容に応じて、適宜紹介する。

鍼灸臨床実習Ⅱ（外科系）

担当教員 野口 恭庸、本田 泰弘、篠原 昭二、塚本 紀之、田口 太郎、内田 匠治、浅井 福太郎、久保 春子、花田 雄二

配当年次 3年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 実習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

鍼灸臨床において遭遇する代表的な症候のうち、主に運動器系疾患領域について、学修者による現代医学的・東洋医学的な症候分析、適応・不適応の鑑別、各種診察技法が実施できること、並びに病態に応じた治療方針や処方の組立てができることを目的とする。

【授業の展開計画】

週3コマを15週実施（全45コマ）。身体部位ごとに4つのカテゴリーに分けて解説指導します。各カテゴリーで取り扱う内容は以下のとおり。

日程・担当者の詳細については初回の授業で連絡します。

第1～4週 頸部～上肢の基礎解剖／理学検査／代表的な病症の理解と鍼灸治療の技術習得を目指す

第5～7週 肩関節の基礎解剖／理学検査／代表的な病症の理解と鍼灸治療の技術習得を目指す

第8～11週 膝関節・腰背部の基礎解剖／理学検査／代表的な病症の理解と鍼灸治療の技術習得を目指す

第12～15週 その他の運動器系疾患（脳血管障害の後遺症、線維筋痛症、末梢神経障害、パーキンソン病、関節リウマチ、他）に対する病症の理解と鍼灸治療の技術習得を目指す

【履修上の注意事項】

事前に配布される実習資料について十分に予習した上で参加すること。また実習で一度行っただけでは実践的な診療技術は習得できないため、実習で指導された内容を、後日各自で繰り返し練習すること。本学科の「実習内規」を熟読し、確実に理解すること。オリエンテーション、または実習の初回に説明する「鍼灸スポーツ学科・授業ならびに試験の出欠席に関する注意」を遵守すること。

【評価方法】

- (a) 授業時間中の実習内容に関するレポート／小テスト … 30%
- (b) 授業時間中の実技試験 … 30%
- (c) 期末試験期間中に実施する筆記試験 … 20%
- (d) 期末試験期間中に実施する実技試験 … 20%

※ (b) においては、授業を欠席し、実技試験のみの受験は認められないので注意すること。

【テキスト】

各カテゴリーにおいて、各担当教員が指定する。

【参考文献】

各担当教員より適宜紹介する。

鍼灸臨床実習Ⅲ（スポーツ鍼灸）

担当教員 田口 太郎、篠原 昭二、本田 泰弘、塚本 紀之、野口 恭庸、内田 匠治、浅井 福太郎、久保 春子、花田 雄二

配当年次 3年

開講時期 第2学期

単位区分 必修

授業形態 実習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本科目では、スポーツ傷害・障害の原因となる動作、症状、病態把握に必要な診察方法を部位別に学び、それらに対する鍼灸治療の実際を身に付けることを目的とする。日常的によく見られる傷害・障害を部位別に取り上げ、禁忌・適応不適応を含め鍼灸治療についてシミュレーション実習を行い、診察・治療のポイントを修得する。

【授業の展開計画】

1週3コマ×15週（全45コマ）で実施する。
クラス分け・日程・担当教員についてはオリエンテーション時に告知する。

第1週～5週

- 【頸部】頸椎捻挫・バーナー症候群（腕神経叢損傷・神経根症）・頸部椎間板ヘルニア等
- 【肩部】腱板損傷・腱板炎・肩峰下滑液包炎・烏口突起炎・インピンジメント症候群等
- 【肘部】上腕骨外側/内側上顆炎・離断性骨軟骨炎・肘部管症候群等

第6週～第9週

- 【腰部】筋筋膜性腰痛・椎間関節性腰痛・腰部椎間板ヘルニア・根性坐骨神経痛等
- 【骨盤・股関節・大腿部】単径部痛症候群・梨状筋症候群・肉離れ（ハムストリングス）等

第10週～第13週

- 【膝部】靭帯損傷・半月板損傷・ジャンパー膝・オスグッド病・変形性膝関節症等
- 【下腿】シンスプリント・アキレス腱周囲炎・肉離れ・コンパートメント症候群等

第14週～第15週

- 【手関節・手部】捻挫・腱鞘炎（ドケルバン）・弾発指・手根管症候群・ギヨン管症候群等
- 【足関節・足部】足関節捻挫・足底筋膜炎・各筋腱炎・モートン神経腫・足根管症候群等

【履修上の注意事項】

1. オリエンテーション、または実習の初回に説明した「鍼灸スポーツ学科 授業ならびに試験の出欠席に関する注意」を遵守すること。
2. 実習内容によって、準備する物（教科書を含む）や服装等について指定される場合があるので、掲示に注意すること。掲示内容を満たしていない場合は実習の参加を認めない。
3. 毎回のテーマに関連する疾患の病態や検査法について、予習および復習を必ずおこなうこと。

【評価方法】

授業時間中の実技試験（40点）・授業時間中の課題レポート・小テスト等（30点）・期末試験期間中の筆記試験（30点）とし、その合計を最終評価とする。

【テキスト】

各担当教員が指定する。

【参考文献】

『図解 スポーツ鍼灸臨床マニュアル』 松本 勲著（医歯薬出版） / 『スポーツ鍼灸の実際 -最新の理論と実践-』 福林 徹/宮本俊和編集（医道の日本） 等。各担当教員より適宜紹介する。

鍼灸治療所実習 I

担当教員 内田 匠治、篠原 昭二、本田 泰弘、塚本 紀之、野口 恭庸、田口 太郎、浅井 福太郎、久保 春子、花田 雄二

配当年次 4年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 実習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

医療従事者として患者に対する責任を自覚し、来院した患者への対応・治療室への誘導・施術における問診・理学検査・東洋医学的な診察などを行うことができるようになる。また、施術所の運営（予約システム・受付・会計・スタッフとのコミュニケーションなど）についても研修し、将来開業することをも念頭に学習する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	センター（施術所）の運営及び治療の研修・補助およびカンファレンス
2	センター（施術所）の運営及び治療の研修・補助およびカンファレンス
3	センター（施術所）の運営及び治療の研修・補助およびカンファレンス
4	センター（施術所）の運営及び治療の研修・補助およびカンファレンス
5	センター（施術所）の運営及び治療の研修・補助およびカンファレンス
6	センター（施術所）の運営及び治療の研修・補助およびカンファレンス
7	センター（施術所）の運営及び治療の研修・補助およびカンファレンス
8	センター（施術所）の運営及び治療の研修・補助およびカンファレンス
9	センター（施術所）の運営及び治療の研修・補助およびカンファレンス
10	センター（施術所）の運営及び治療の研修・補助およびカンファレンス
11	センター（施術所）の運営及び治療の研修・補助およびカンファレンス
12	センター（施術所）の運営及び治療の研修・補助およびカンファレンス
13	センター（施術所）の運営及び治療の研修・補助およびカンファレンス
14	センター（施術所）の運営及び治療の研修・補助およびカンファレンス
15	センター（施術所）の運営及び治療の研修・補助およびカンファレンス

【履修上の注意事項】

原則として遅刻・欠席は認めません。実習の1/5以上を欠席した場合は単位認定しない。オリエンテーション時に伝えられる注意事項を遵守すること。実習前には必ず、担当教員の事前指導を受け、その中で与えられた課題について予習を行うこと。実習後は自己点検により反省点などを整理し、実習簿に記入して提出すること。また、カンファレンスを通して、実習内容を復習し、次回の実習に反映すること。

【評価方法】

実習の事前・事後指導への出席および理解度、実習簿、レポート等の提出物、各指導教員による評価を総合して最終評価とする。

【テキスト】

【参考文献】

鍼灸治療所実習 II

担当教員 本田 泰弘、篠原 昭二、塚本 紀之、野口 恭庸、田口 太郎、内田 匠治、浅井 福太郎、久保 春子、花田 雄二

配当年次 4年

開講時期 第2学期

単位区分 必修

授業形態 実習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

医療従事者として患者に対する責任を自覚し、来院した患者への対応・治療室への誘導・施術における問診・理学検査・東洋医学的診察などの技術を修得する。さらに、はり師・きゅう師として責任をもって治療方針の組み立て、鍼灸の施術ができる能力を養う。また、その内容に対して客観的に説明ができるようにする。施術所の運営についても研修を行う。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	指導教員のもとでの鍼灸施術の介助
2	指導教員のもとでの鍼灸施術の介助
3	指導教員のもとでの鍼灸施術の介助
4	指導教員のもとでの鍼灸施術の介助
5	指導教員のもとでの鍼灸施術の介助
6	指導教員のもとでの鍼灸施術の介助
7	指導教員のもとでの鍼灸施術の介助
8	指導教員のもとでの鍼灸施術の介助
9	指導教員のもとでの鍼灸施術の介助
10	指導教員のもとでの鍼灸施術の介助
11	指導教員のもとでの鍼灸施術の介助
12	指導教員のもとでの鍼灸施術の介助
13	指導教員のもとでの鍼灸施術の介助
14	指導教員のもとでの鍼灸施術の介助
15	指導教員のもとでの鍼灸施術の介助

【履修上の注意事項】

原則として遅刻・欠席は認めません。実習の1/5以上を欠席した場合は単位認定しない。オリエンテーション時に伝えられる注意事項を遵守すること。

【評価方法】

実習の事前・事後指導への出席および理解度、鍼灸治療所実習 I・II 実習簿、診療録（カルテ）、症例検討会等の提出物、各指導教員による評価を総合して最終評価とする。

【テキスト】

【参考文献】

武道（柔道）

担当教員 小澤 雄二、岡田 依子

配当年次 1年

開講時期 第2学期

単位区分 選択

授業形態 実技

単位数 1

準備事項

備考

【授業のねらい】

我が国固有の文化である柔道の実技を通して、その特色である攻撃、防御の理合いを知り、巧みで素早い動きを身につけるとともに、相手を尊重し健康や安全に気を配りながら、課題に応じた運動への取り組み方が工夫できるような指導を行う。あわせて、柔道の各種技能を習得し、柔道の楽しさ、必要性を学ぶとともに、生涯にわたる運動習慣を身につける。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	柔道の歴史、練習法、授業の説明、諸注意を説明できる
2	柔道の基本動作について説明できる
3	柔道の基本となる技について説明できる
4	柔道のかかり練習について説明できる
5	柔道の約束練習について説明できる
6	柔道の形の意義と練習について説明できる
7	柔道の形の練習と演武について説明できる
8	柔道の固め技について説明できる
9	柔道の固め技の連絡について説明できる
10	柔道の固め技の実践練習について説明できる
11	柔道の立技から固め技への移行について説明できる
12	柔道の練習について説明できる
13	柔道のルールと審判について説明できる
14	柔道の試合について説明できる
15	総合練習及び試合を行う

【履修上の注意事項】

特になし

【評価方法】

実技試験60% レポート40%

【テキスト】

講義中に資料を配布する。

【参考文献】

特になし

武道（剣道）

担当教員 山下 忍

配当年次 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 実技

単位数 1

【授業のねらい】

日本の伝統文化としての剣道を理解させる。剣道の基礎的技能の実践を通じ、心身の鍛練と技能の向上を図る。さらに剣道の特性をとらえ知識の向上、生涯体育としての位置づけを行う。初心者にも分かり易く、基礎から導入し、簡易な試合や審判ができるようにする。

【授業の展開計画】

- 1 剣道の歴史、礼法や作法を説明できる
- 2 稽古着、袴の着装。竹刀と刀の構造。立礼、座礼を説明できる
- 3 竹刀の握り方と中段の構え、さらには足さばきについて説明できる
- 4 足さばきと素振り、基本打突について説明できる
- 5 防具の説明と防具のつけ方としまい方を説明できる
- 6 木刀を用い4に関する動き、対人技能を説明できる
- 7 打ち込み練習、切り返しを説明できる
- 8 木刀を用い日本剣道形の1本目と2本目を説明できる
- 9 木刀を用い日本剣道形の3本目と4本目を説明できる
- 10 木刀を用い日本剣道型5本目を説明できる
- 11 日本剣道型1本目から5本目までの説明ができる
- 12 応用技能について説明できる
- 13 約束練習について説明できる
- 14 自由稽古について説明できる
- 15 試合の審判法について説明できる

【履修上の注意事項】

予習として剣道のルール、剣道形の解説について十分把握しておくこと
復習として剣道競技ルール、審判のしかた、剣道形について配布プリントを読み、剣道形の練習をすること。
竹刀の点検を十分に行うこと

【評価方法】

レポート20%、自主的学習態度10%、実技テスト70%による総合評価

【テキスト】

使用しない

【参考文献】

特に指定しない

ダンス (エアロビクスを含む)

担当教員 藤崎 道子

配当年次 2年

開講時期 第2学期

単位区分 選択

授業形態 実技

単位数 1

準備事項

備考

【授業のねらい】

ダンスは身体運動による表現であり、身体を通して自己の内なる感情を表現したりイメージや創造性を深めることで心豊かな人間形成につなげていくねらいがある。そこで本講座では、音楽に合わせて思いっきり全身を動かすことができる。ダイナミックに動くことでの爽快感や楽しさを味わい心身を解放していくことができる。さまざまなダンスの基本動作を習得することができる。ダンスウォーミングアップを指導することができる。ダンスを創作し発表することができる。を目標に行っていきます。

【授業の展開計画】

本授業の到達目標は①伸び伸びと身体を動かすことができ、踊ることの喜びや楽しさを味わうことができる②自由にイメージを浮かべコンセプトを持って動きを工夫し創り出すことができる③仲間とともに踊り、創り、見せ合い、交流することで相互理解・絆を深めることができる とする。

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション (授業の進め方、成績評価の方法、その他諸注意)
2	学校体育における「ダンス」の位置づけと狙い・ダンスを楽しもう!
3	エアロビックダンス体験
4	音楽の違いによる表現法学習・ダンス基本ステップ習得
5	ダンスウォーミングアップとは プログラムを習得する
6	ダンスウォーミングアップの指導法 指導技術を習得する
7	課題運動による表現方法 メリハリ・ダイナミック・リズムカルに良く動こう
8	課題運動実技試験
9	創作ダンスとは/身近な場面やスポーツの場面から創作してみよう
10	現代的なリズムによるダンス創作 グループごとにダンスを作る
11	現代的なリズムによるダンス創作 グループごとに練習
12	現代的なリズムによるダンス創作 発表に向けたグループ活動
13	グループ発表 (実技テスト)
14	ダンスを楽しもう!
15	まとめ

【履修上の注意事項】

実技に支障をきたすものは身につけないこと。
 学習指導要項のダンスの分野に必ず目を通しておくこと。
 現代的なダンス創作に向けて、踊りやすい楽曲をリサーチしておくこと。

【評価方法】

実技試験 30%、発表 60%、学習態度 10%

【テキスト】

中学校学習指導要項解説 保健体育編 (文部科学省)

【参考文献】

明日からトライ! ダンスの授業 (大修館書店)

水泳（アクアビクスを含む）

担当教員 行實 鉄平

配当年次 3年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 実技

単位数 1

【授業のねらい】

【目的】本授業では、有酸素運動に適した水中運動の体験を通して、水中での運動の留意点を理解するとともに、健康づくりに必要な運動に対する意識を高めることを目的にしている。

【到達目標】具体的には、「水中での身体の使い方と推進力の理論について理解したものを文章で表現できる」、「水難訓練の手順を実践できる」、「アクアエクササイズを実践できる」、「基本ストロークの技術練習や泳力練習を実践できる」ことを目的にしている。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション（アクアフィットネス概論）
2	水中運動の留意点
3	水中ウォーキング
4	アクアエクササイズ（道具を使ったエクササイズ）
5	アクアエクササイズ（音楽を使ったエクササイズ）
6	水中安全管理について
7	溺者への対応
8	水中運動プログラムの計画と管理
9	けのびの習得
10	フリーストローク (Free-Stroke) の習得
11	ブレストストローク (Breast-Stroke) の習得
12	バックストローク (Back-Stroke) の習得
13	バタフライストローク (Butterfly-Stroke) の習得
14	ターンの習得
15	泳力テスト

【履修上の注意事項】

授業前には水泳に関する参考文献および映像などを確認し、スケジュールに該当する個所の予習をしておくこと（60分）。授業後は復習として、コミュニケーションペーパー（振り返りシート）を記入していただきます（30分）。また、外のプールでの実習となるため、日焼け対策を考えておいてください。さらに、水着、帽子、ゴーグル、タオル、給水用の水筒などは、各自で準備しておいてください。

【評価方法】

本授業は、「授業への取り組み」、「コミュニケーションペーパー」、「泳力」の3つの観点から総合評価を行います。評価配分は「授業への取り組み50%」、「コミュニケーションペーパー30%」、「泳力20%」とします。

【テキスト】

必要に応じて資料を配布するため、特になし。

【参考文献】

日本水泳連盟(編)：水泳指導教本「地域スポーツ指導者用」、大修館書店。日本赤十字社(編)：赤十字水上安全法講習教本、日本赤十字社。日本スイミングクラブ協会(編)：アクアフィットネス・アクアダンスインストラクター教本、大修館書店。

陸上競技（ジョギング・ウォーキングを含む）

担当教員 玉江 和義

配当年次 2年

開講時期 第2学期

単位区分 選択

授業形態 実技

単位数 1

準備事項

備考

【授業のねらい】

本科目は、理論講義と実技実践の組み合わせによって構成される。理論講義においては、ルールや科学的根拠に基づいて陸上競技を理解・解釈していく。実技では、受講者個人が到達目標を設定し、自律的身体機能の向上を図りながら、基本的な運動技術の獲得、および指導法の基礎について習得する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス（受講者のグループ分け）
2	ウォームアップの内容と方法
3	ランニングドリル+12分間走
4	陸上競技のルール（トラック種目-1）
5	陸上競技のルール（トラック種目-2）
6	ランニングドリル
7	変形リレー競争
8	ウォームダウンの内容と方法
9	Long Slow Distanceの理解と実践
10	陸上競技のルール（フィールド種目-1）
11	陸上競技のルール（フィールド種目-2）
12	トラック種目のコーチング
13	フィールド種目のコーチング
14	陸上競技特有のスポーツ傷害の予防と対策
15	テストとまとめ

【履修上の注意事項】

陸上競技を行なうにふさわしいウェアとシューズを着用のこと。筆記用具なども必ず準備されたい。講義資料を前もって予習しておくこと。また復習すること。

【評価方法】

平常点(30%)とテスト(70%)

【テキスト】

資料を用意し配布する

【参考文献】

練習法百科 陸上競技（大修館）

体操（器械体操を含む）

担当教員 藤崎 道子

配当年次 3年

開講時期 第2学期

単位区分 選択

授業形態 実技

単位数 1

準備事項

備考

【授業のねらい】

文部科学省の指導要領改訂により体操は【体づくり運動】と名称変更され、小学校～高等学校までの全ての学年で取り組まれることとなった。本授業ではからだを動かすことの楽しさや心地よさを味わいながら心と体をほぐしたり、体力を高めるための運動の行い方を理解することをねらいとする。本授業での到達目標は①体の基本的な動きができる②目的に応じた運動の行い方を理解し、動き方を創意工夫することができる③仲間と協力し楽しくかつ安全に運動を行うことができる とする。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	
1	オリエンテーション（授業の進め方、成績評価の方法、現代の健康問題を知る、その他諸注意）	
2	学校体育における「体づくり運動」の位置づけと狙い	
3	体ほぐし運動実習	～体を動かす楽しさを伝えるプログラムとは～
4	体ほぐし運動実習	～体の調子を整える運動とは～
5	体ほぐし運動実習と演習	心とからだの相関性について理解を深める
6	ラジオ体操の実践と指導	正しい動き方をマスターする
7	ラジオ体操の実践と指導	ラジオ体操を指導する
8	現代に合った体操をグループで創る（グループワーク発表）	
9	体力を高める運動の必要性とは	体の変化と体力の変化を理解する
10	体力を高める運動1	体の柔軟性を高めよう～マット運動・ストレッチ～
11	体力を高める運動2	持続する能力を高めよう～エアロビックダンスを楽しむ～
12	体力を高める運動3	筋力を高めよう～正しいトレーニングの方法～
13	体力を高める運動4	心の柔軟を高めよう～ヨガ体験～
14	トータルエクササイズの指導例	全てを網羅した運動実施計画を知る
15	まとめ・筆記確認テスト	

【履修上の注意事項】

実技中心ではあるが、毎時間必ず筆記用具を持参すること。
毎時間の行った実技の内容を必ずまとめる（復習）
ラジオ体操の歴史について事前に調べておくこと（予習）

【評価方法】

実技試験30%、筆記試験30%、レポート20%、学習態度15%、発表5%

【テキスト】

中学校学習指導要項解説 保健体育編（文部科学省）

【参考文献】

バレー・バスケット

担当教員 加藤 千尋、未定

配当年次 2年

開講時期 第2学期

単位区分 選択

授業形態 実技

単位数 1

準備事項

備考

【授業のねらい】

バスケットボールを切り口にゴール型ゲームの特性を理解し、教員養成課程の一部として体育授業の構成方法や評価について学び、課題発見、課題解決方法の探究、協調性、教授法などを身につける。
バレーボールは、ネットを挟んで相対するチームがボールを打ち合い、得点を競うスポーツである。授業を通して、学修者がバレーボールのルールを理解し、基本的な技術・戦術および指導法を習得できることを目指す。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	バスケットボールの特性の理解Ⅰ 戦術的課題の理解(ゴール型ゲームとは?) (加藤)
2	バスケットボールの特性の理解Ⅱと実践 戦術的課題の理解(ゴール型の「攻守」とは?) (加藤)
3	ゴール型ゲームの戦術の理解Ⅰと課題発見(貢献を評価する視点) (加藤)
4	ゴール型ゲームの戦術の理解Ⅱと課題発見(チーム内の役割の明確化) (加藤)
5	ゴール型ゲームの授業づくりⅠ(授業の目的の明確化と授業の構成、発問方法) (加藤)
6	ゴール型ゲームの授業づくりⅡ(カリキュラムの構成と評価方法) (加藤)
7	ゴール型ゲームの授業づくりⅢ(評価:個人の成長とチームの変化) (加藤)
8	バレーボールの特性の理解、学習の流れ、ゲームの工夫 (坂本)
9	個人技能の練習、パス、レフト、スパイクなどの各個人の能力の向上を目指した練習 (坂本)
10	集団技能の練習、ゲームを採り入れた練習、チームでの役割(ポジション)の検討 (坂本)
11	集団技能の練習、自分たちにあった役割、そしてフォーメーションを考える (坂本)
12	班別ルール体験ゲーム (坂本)
13	正式ルールによるゲーム (坂本)
14	正式ルールによるゲーム、テスト (坂本)
15	ボールやルールを工夫したゲーム、チームも続き達成感を味わえるルールの工夫 (坂本)

【履修上の注意事項】

体育実技の出来る服装で出席すること。授業前にはシラバスを見て講義内容を予習し、不明な点は各自で学習すること。また、講義後はその内容を整理し、疑問点があれば、解決するように努めること。

【評価方法】

実技試験 80%、レポート 20%

【テキスト】

特になし

【参考文献】

バスケットボール：高校時に使用した体育実技副教材 「アクティブスポーツ2017」大修館

ラグビー・サッカー

担当教員 藤原 大樹

配当年次 2年

開講時期 第1学期

単位区分 選択

授業形態 実技

単位数 1

準備事項

備考

【授業のねらい】

ラグビー・サッカーは「ゴール型ゲーム」であり、攻守入り混じってボールを奪い合い、得点するという特徴を持っている。この授業では、学修者がラグビーとサッカーそれぞれのスポーツにおけるボール操作とボールをもたないときの動きを習得し、更にはルール、練習法、指導法に関する基礎的な理論を身につけることができる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション：授業内容の説明、ウォーミングアップ
2	サッカー 基礎的なルールの理解
3	サッカー 基礎練習1：パス、トラップ、ドリブル
4	サッカー 基礎練習2：シュート、ヘディング
5	サッカー 応用練習1：3vs1、3vs2
6	サッカー 応用練習2：ハーフコートの練習
7	サッカー ミニゲームの指導法、審判法
8	ラグビー 基礎的なルールの理解（DVD視聴）
9	ラグビー 基礎練習1：パス、ハンドリング、ランニング
10	ラグビー 基礎練習2：キック、タックル
11	ラグビー 基礎練習3：スクラム、ラインアウト
12	ラグビー 応用練習1：オフENSESの基礎、2vs1、3vs2
13	ラグビー 応用練習2：ディフェンスの基礎
14	ラグビー タグラグビーの指導法と審判法
15	サッカーとラグビーのまとめ

【履修上の注意事項】

トレーニングウェアを着用すること
 サッカーシューズ、ラグビーシューズ又はトレーニングシューズを用意すること
 授業前に指導案レポートを作成すること。授業後に学習内容を復習すること。

【評価方法】

授業態度・授業レポート60% 期末レポート40%

【テキスト】

特になし

【参考文献】

サッカーのルールと審判法（浅見俊雄・永嶋正俊：大修館）
 すぐわかるラグビー ルールと試合（上田昭夫：成美堂出版）

エアロビッグ概論

担当教員 藤崎 道子

配当年次 4年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 1

【授業のねらい】

本講座ではこれからの健康づくりの課題となっている様々な場面に適した運動方法を理解することができる。エアロビックエクササイズの種類とそれぞれの運動特性を理解することができる。運動指導者としての指導理論を理解することができる。を目標に行います。

【授業の展開計画】

- 1 現代社会と運動の必要性・フィットネス概論・エアロビックエクササイズとは
- 2 エアロビックエクササイズと運動効果について
- 3 エアロビックエクササイズの種類と運動の違いについて
- 4 グループエクササイズ指導理論
- 5 現場における事例・モデルケース
- 6 運動プログラムの立て方
- 7 運動指導士・運動指導者の役割と健康産業について
- 8 まとめ

【履修上の注意事項】

健康運動実践指導者の資格取得に向けた講義となります。受講者は資格取得の意思があるものとみなします。指導者としてふさわしい態度で臨むこと。現代社会における健康問題について調べておくこと。世代別に見られる健康問題について調べておくこと。

【評価方法】

レポート50%、筆記試験30%、授業態度・発表20%

【テキスト】

【参考文献】

エアロビグ実習

担当教員 藤崎 道子

配当年次 3・4年

単位区分 選択

準備事項

備考 平成30年度は3年次及び4年次の合同開講

開講時期 第1学期

授業形態 実習

単位数 1

【授業のねらい】

健康づくり運動の種類と様々な運動特性を理解することができる。運動指導者としての最低限必要とされる指導スキルを身につけることができる。『指導者とは』という観点で《何を・どのように》伝えていけばいいのかを自ら考え、「話す・伝える」ことができるようになる。運動効果を高めるための正しいフォームや運動のさせ方を学び、対象者に応じた運動を実践させることができる。

【授業の展開計画】

- 1 健康づくりと運動プログラム
- 2 ウォーキングエクササイズ指導の実際
- 3 ジョギングエクササイズ指導の実際
- 4 レジスタンス運動の実際（自体重を使った運動例）
- 5 ウォーミングアップとクールダウン
- 6 アクアエクササイズの運動効果と特性
- 7 アクアウォーキングの指導法
- 8 水中レジスタンス運動の指導法
- 9 アクアダンス（アクアビクス）体験
- 10 エアロビクダンスの運動特性・概論
- 11 エアロビクダンス体験・基本動作習得①
- 12 正しいアライメント・基本動作習得②
- 13 基本動作習得③・運動強度の変化について
- 14 エアロビクダンス指導法①
- 15 エアロビクダンス指導法②（指導の循環）
- 16 運動プログラムの立て方・作成法
- 17 対象者に応じた運動プログラムの考え方
- 18 エアロビクダンス運動指導上の留意点
- 19 介護予防のための運動の考え方
- 20 介護予防運動プログラムの実際
- 21 ストレッチング
- 22 ツールを活用した運動事例（タオル・椅子）
- 23 まとめ

【履修上の注意事項】

健康運動実践指導者及び指導士の資格取得に向けた講義となります。受講者は資格取得の意思があるものとみなします。指導者としてふさわしい態度で臨むこと。事前学習として現代社会の健康問題（ロコモティブシンドローム、認知症、メンタルヘルス、メタボリックシンドローム）について調べておくこと。事後学習として毎時間の学習記録ノートを作成すること。

【評価方法】

実習内容の習得度、レポート、課題運動スキルを総合的に判断し評価する。

【テキスト】

【参考文献】

健康運動指導士養成講習会テキスト

臨床心理学

担当教員 永田 俊明

配当年次 2年

開講時期 第2学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

この授業は、現代の心理学の全体的な動向をコンセプトにした「心理学・臨床講義」というスタンスに立って、必要な基礎的な知識の習得を目指す。とかく従来の臨床心理学は単なる学派の羅列的理解が中心であることが多いが、この授業では、正常との連続変数及び心理学的援助対象のケアシステムの一部として、現代の代表的な心理病理現象をどのように診立て、また、援助を行う必要があるかについての基本知識の習得と心理的援助の勘所に焦点を当てながら教授する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	臨床心理学とは何か（1）史的概説を中心に
2	臨床心理学とは何か（2）精神医学との相違
3	面接と検査 アセスメント
4	観察と行動 データ収集技法
5	正常と異常 DSMを中心に
6	異常心理学 精神的な症状と心理学
7	精神障害 心理的問題と種類
8	発達臨床心理学 ライフサイクルと心理的問題
9	介入理論モデル（1）精神分析とクライエント中心療法
10	介入理論モデル（2）認知行動療法と家族療法
11	介入技法モデル（1）遊戯療法と箱庭療法
12	介入技法モデル（2）SSTと心理教育
13	介入技法モデル（3）さまざまな相談活動
14	コミュニティ・モデル
15	医療・福祉領域の臨床心理学

【履修上の注意事項】

心理的ケアシステムとは何か、事前事後の学習を通して確認すること。

【評価方法】

期末試験：100%で評価 この講義は再試験を実施しない。

【テキスト】

未定

【参考文献】

『精神医学事典』加藤・保崎他編 弘文堂2001年 『心理アセスメントハンドブック』上里監 2001年
『DSM-IV精神疾患の診断・統計マニュアル』加藤他監編 医学書院 1996年

看護学概論

担当教員 柴田 恵子、上妻 尚子、新 裕紀子、古江 佳織、古堅 裕章

配当年次 1年

開講時期 第1学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

看護専門職としての自己の健康観、看護感を追求するために必要となる知識、概念を理解する。看護の対象および看護の提供、歴史・制度および将来の専門職の展望に関する知識から基礎的な看護学について理解する。保健・医療・福祉専門職者として相応しい高い知識と優れた技術を身につける必要性を知る。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション、看護学概論とは（柴田）
2	医療安全と医療の質保証（古江）
3	人間の欲求と健康、健康のとらえ方（上妻）
4	国民の健康状態（上妻）
5	看護の対象の理解（上妻）
6	国際化と看護、グループワーク：国際化と医療職者（古江）
7	災害時における看護（古堅）
8	小テスト1、ナイチンゲールについて（柴田）
9	サービスとしての看護、看護サービス提供の場（新）
10	職業としての看護・看護職者の養成制度と就業状況（古堅）
11	看護職者の教育とキャリア開発（柴田）
12	看護における倫理（柴田）
13	看護の提供のしくみ：看護をめぐる制度と政策（柴田）
14	小テスト2、看護とはなにか（柴田）
15	グループワーク：医療職者における専門性、学習のまとめ（柴田）

【履修上の注意事項】

課題について考え、レポートを提出する。第1回目のオリエンテーション時に授業前・後の学習について説明をするので、具体的な学習方法を考え実践すること。課題レポートは授業前の事前学習であり、講義期間中の小テストはそれまでの学習の復習を兼ねた事後学習である。

【評価方法】

定期試験（筆記）：60%、学習態度・状況（小テスト、レポート提出、グループ活動の参加と発表）：40%

【テキスト】

『系統看護学講座 基礎看護学〔1〕』茂野香おる 他（医学書院）

【参考文献】

随時、紹介する。

社会福祉原論 I

担当教員 金 蘭九

配当年次 1年

開講時期 第1学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

- 1 現代社会における福祉制度の意義や理念、福祉政策との関係について理解する。
- 2 福祉の原理をめぐる理論と哲学について理解する。
- 3 福祉政策におけるニーズと資源について理解する。
- 4 社会福祉の法体系、実施体制及び財政全体の概要について理解する。
- 5 福祉政策の課題について理解する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション、現代社会と福祉
2	福祉制度の概念と理念
3	福祉政策の概念と理念
4	福祉制度と福祉政策の関係
5	前近代社会と福祉1（救貧法、慈善事業）
6	前近代社会と福祉2（博愛事業、相互扶助、その他）
7	近代社会と福祉1（第二次世界大戦後の窮乏社会と福祉）
8	近代社会と福祉2（経済成長と福祉、その他）
9	現代社会と福祉1（新自由主義、ポスト産業主義、グローバル化）
10	現代社会と福祉2（リスク社会、福祉多元主義、その他）
11	需要とニーズの概念（需要の定義、ニーズの定義、その他）
12	資源の概念（資源の定義、その他）
13	福祉政策と社会問題1（貧困、失業、要援護〈児童、老齢、障害、母子・寡婦など〉、偏見と差別）
14	福祉政策と社会問題2（社会的排除、ヴァルネラビリティ、リスク、その他）
15	福祉政策の現代的課題

【履修上の注意事項】

授業前にテキストを読み、キーワードについて調べてくること。
授業後に復習しておくこと。

【評価方法】

定期試験60%、レポート20%、発表20%で評価する。

【テキスト】

社会福祉士養成講座編集委員会編『現代社会と福祉』第4版（中央法規、2018年）。

【参考文献】

厚生労働省編『（平成29年版）厚生労働白書』（ぎょうせい、2017年）。
内閣府編『（平成29年版）障害者白書』（日経印刷、2017年）。『社会福祉六法』（最新版）

生活支援論演習

担当教員 田口 太郎

配当年次 4年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 演習

単位数 2

【授業のねらい】

疾患や障害を持ちながら地域で生活する人（具体的には難病患者）を対象に、フィールドワーク（難病相談支援センターへの訪問や対象者への聞き取り調査等）をとおして、対象者が地域で生活する実情を理解し生活支援の在り方を考える。又、その成果を学内外の関係者に報告することを通して、多職種の専門職が協働することの必要性、その意義について理解を深める。

【授業の展開計画】

〈展開概要〉科目選択者がチームを組み、疾患や障害を持ちながら地域で生活する人（難病患者）を担当し、健康管理、家庭や地域生活の実情や課題を共有し、生活支援の在り方を考え、その結果について関係者に対する報告会を実施する。

〈展開〉

- 1回目（オリエンテーション）：学習目標・授業展開を理解し、自己の将来像と科目の内容を結びつけ、履修の目的を明確できる。（全員）
- 2・3回目（グループワーク：GW）：難病を抱えながら地域で生活する人の生活の様子をイメージでき、生活の質に影響を及ぼす要因と健康の質に影響する要因について、考えることができる。（全員）
- 4・5回目（GW発表）：事前学習の発表と討議。フィールドワーク計画立案（全員）
- 6・7回目（フィールドワーク）：難病相談・支援センターの役割と機能、そこで働く人々について理解することができる。協力者の体験から、生活の実際と医療との関係、生活や健康を支えるもの、医療・福祉・保健の課題を知ることができる。（全員）
- 8回目（GW発表）：フィールドワークの成果発表と振り返り。今後のフィールドワーク計画（全員）
- 9～12回目（フィールドワーク）：難病を抱えてもQOLを保ち地域で生活するには、どのような課題があるのか、課題を解決するための条件は何か、フィールド調査を通して仮説を発展、修正できる。（全員）
- 13・14回目（GW発表）：病を持って生活の質を保ち生活ができる条件と、実現のために保健医療者にできることについて、問題を絞り、説得力のある発表ができる。病を持つ人にとっての体験を語る意味、医療職者にとっての患者の声を聴く事の意味を考えることができる。（全員）
- 15回目：報告会、まとめ（全員）

【履修上の注意事項】

- 1) 生活支援論（1年後期）を履修していること。
- 2) グループワークや討論など参加型の手法を取り入れるため、授業以外の学習時間を活用し課題を整理することが必要になるため、学生間で調整を行い、グループ学習を進めること。
- 3) 各单元ごとの学習課題について、要点を予習復習すること。

【評価方法】

発表内容40%、報告会30%、報告書30%

【テキスト】

大熊由紀子他、患者の声を医療に生かす 医学書院

【参考文献】

カワチ・イチロウ他、ソーシャルキャピタルと健康、等

発育発達論

担当教員 藤原 大樹

配当年次 2年

開講時期 第1学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

この授業では、ジュニア、高齢者、女性、障害者など様々な対象に合わせたスポーツ指導を実施するために必要な発育発達に関する知識を深めることを目的とする。学修者は、授業前半においてジュニア期（発育発達期）の身体的・心理的特徴、スポーツ傷害、トレーニング方法などを身につけ、授業後半では、中高年、女性、障害者の特徴を考慮した運動プログラムの作成ができるようになる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション
2	発育発達の基礎、スキヤモンの発育発達曲線、生涯スポーツ
3	乳幼児期：身体的特徴、心理的特徴、運動発達
4	青少年期：身体的特徴、心理的特徴
5	青少年期Ⅱ：運動発達、トレーニング
6	子どもの運動・身体活動状況、運動・身体活動の意義・恩恵
7	発育発達とスポーツ傷害、子どものスポーツ傷害予防
8	高齢者：身体的特徴・心理的特徴
9	高齢者：運動・スポーツの意義・恩恵、運動指導
10	女性：男女差、女性特有のスポーツ傷害
11	女性：ジェンダーとステレオタイプ、映画「プリティリーグ」
12	アダプテッドスポーツ：障害の定義と種類、アダプテッドスポーツの現状
13	アダプテッドスポーツ：アダプテッドスポーツ実習
14	アダプテッドスポーツ：福祉から競技へ、映画「マダーボール」
15	授業のまとめ

【履修上の注意事項】

授業中に提示されるキーワードについて復習すること

【評価方法】

試験50% レポート50%

【テキスト】

特になし

【参考文献】

発育・発達への科学的アプローチ：藤井勝紀（2007）三恵社
 子どもの発育発達と健康：青柳領（2006）ナカニシヤ出版

トレーニング論

担当教員 玉江 和義

配当年次 3年

開講時期 第1学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

トレーニングの歴史を理解し、トレーニングが正しい過程で行われるための学問的解明をとりあげ、種目別にみたトレーニングの正しい知識、方法、手段、スケジュールの作成方法を理解する。日常生活の中に取り入れられるトレーニングにより健康でより充実したスポーツライフの実践を行えるようになる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	トレーニングの広義および概念について説明できる
2	トレーニングの原則について説明できる
3	トレーニングの形態について説明できる
4	トレーニングの内容について説明できる
5	筋力トレーニングの各種方法について説明できる
6	トレーニングの効果と運動への応用について説明できる
7	種目別にみたトレーニング方法について説明できる
8	種目別にみたトレーニング効果について説明できる
9	柔軟トレーニングの理論と実際について説明できる
10	調整力トレーニングの特徴を説明できる
11	発育段階別にみたトレーニングについて説明できる
12	女子のトレーニングについて説明できる
13	ステロイドホルモンとトレーニングとの関係について説明できる
14	年間スケジュール作成方法について説明できる
15	年間スケジュール作成方法について説明できる

【履修上の注意事項】

出席カードの備考欄に授業の内容および感想を必ず書くこと。
講義資料を前もって予習しておくこと。また、復習すること。

【評価方法】

レポート（20%）、テスト（80%）による総合評価

【テキスト】

開講後、適宜提示する

【参考文献】

開講後、適宜提示する

スポーツ指導論

担当教員 小澤 雄二

配当年次 3年

単位区分 選択

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 1

準備事項

備考

【授業のねらい】

生活の中でスポーツを楽しむ人が増えていることから、スポーツ指導を必要とする対象者も多岐にわたり、そのため、科学的な知見に基づくスポーツ指導論の必要性はますます高まっている。本講義では、スポーツ指導者が身につけておかなければならない指導理論や方法について、スポーツ指導的立場から、自分の言葉で説明できるようになる。特に、スポーツ指導が対象者に及ぼす影響や対象者のやる気を引き出す方法、動機付け、さらに、コーチングにおけるパーソナリティー論の理解や目標設定などについて、自ら実践できるようになる。

【授業の展開計画】

生涯にわたり健康で活力にあふれた、明るく豊かな生活を過ごすために不可欠である体育・スポーツへの導きを問い、生涯スポーツ、スポーツ推進に寄与すべく指導者としての施策、方法を学習する。

1. スポーツ指導の意義と目的及び人間形成に及ぼす影響について説明できる
2. スポーツ指導に関する心理的側面（パーソナリティー論を含む）について説明できる
3. スポーツ指導における動機づけについて説明できる
4. スポーツ指導計画の作成について説明できる
5. コーチングに役立つ心理技法について説明できる
6. やる気を育てる目標設定の方法について説明できる
7. スポーツ集団のまとめ方について説明できる
8. スポーツ指導においてメンタル面での強化法について説明できる

【履修上の注意事項】

「授業前の課題に取り組むこと」「授業後に復習しておくこと」

【評価方法】

レポート70%、発表30%による総合評価

【テキスト】

講義中に資料を配布する。

【参考文献】

開講後、適宜提示する。

コーチング論

担当教員 小澤 雄二

配当年次 3年

開講時期 第2学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

スポーツ指導者として求められる理想像、役割についてスポーツ指導的立場から、自らの言葉で説明できるようになる。生涯にわたり健康で活力にあふれた、明るく豊かな生活を過ごすために不可欠である体育・スポーツへの導きを問い、生涯スポーツ、スポーツ推進に寄与すべく指導者としての施策、方法について、自らの意見を持ち実践できるようになる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	スポーツ指導者としての役割について説明できる
2	指導者の資質と心構え（倫理を含む）について説明できる
3	生涯スポーツの観点から指導者に求められるものについて説明できる
4	スポーツ指導者の現状について説明できる
5	指導者とプレーヤーとのかかわりと役割（ミーティングの方法を含む）について説明できる
6	スポーツ指導上の心得について説明できる
7	指導計画のたて方について説明できる
8	スポーツ医科学とのかかわりとその重要性について説明できる
9	スポーツの安全性と管理（スポーツ裁判の事例）について説明できる
10	諸外国におけるスポーツ指導の現状と文化性について説明できる
11	スポーツ指導の実践・方法について説明できる
12	スポーツマネジメントからみた指導者について説明できる
13	発育段階別にみたスポーツ指導（世界をめざすアスリートの発掘・育成を含む）について説明できる
14	性差におけるスポーツ指導について説明できる
15	世界の頂点をめざすアスリートの育成・強化の在り方と指導者の役割について説明できる

【履修上の注意事項】

「授業前の課題に取り組むこと」「授業前に復習しておくこと」

【評価方法】

レポート70%、発表30%による総合評価

【テキスト】

講義中に資料を配布する。

【参考文献】

開講後、適宜提示する。

メンタルマネジメント論

担当教員 藤原 大樹

配当年次 3年

開講時期 第2学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 1

準備事項

備考

【授業のねらい】

この授業では、学修者は、メンタルトレーニング技法、ストレス対処法、チームビルディング法などに関する知識を深め、スポーツ現場におけるメンタルマネジメントの基礎を理解できるようになる。この授業は、講義、ディスカッション、メンタルトレーニング技法の演習によって構成している。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	競技力向上とメンタルマネジメント
2	やる気を高める方法：動機づけと目標設定理論
3	情動のコントロール：リラクゼーションとサイキングアップ、あがり
4	注意と集中の技術：注意のスタイルと集中力の高め方
5	イメージトレーニング：イメージ技法
6	競技場面への応用：スランプ、心理的コンディショニング、指導者のメンタルマネジメント
7	競技の特徴に合わせたメンタルマネジメント（個人競技）：プレゼンテーション
8	競技の特徴に合わせたメンタルマネジメント（集団競技）：プレゼンテーション
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

【履修上の注意事項】

授業後に課題レポートを作成すること

【評価方法】

プレゼンテーション50%、レポート50%

【テキスト】

【参考文献】

スポーツメンタルトレーニング教本：日本スポーツ心理学編（2005）大修館書店
選手とコーチのためのメンタルマネジメント・マニュアル：日本体育協会（1997）大修館書店

スポーツ経営学

担当教員 行實 鉄平

配当年次 3年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

【目的】本授業では、スポーツ経営学の学問領域における知を基軸とし、スポーツに関する組織や制度（仕組み）を理解することで、スポーツ組織の力を高めスポーツの環境整備に必要な対策を創造できる能力を養うことを目的としている。

【到達目標】1) スポーツ経営学の理論体系を説明できる。2) 自身の興味関心のある個別スポーツ組織におけるマネジメント方策を説明できる。3) グループワークにおいて学習した知識を用いた議論ができる。

【授業の展開計画】

1. オリエンテーション（スポーツ経営学概論）
2. 我が国を取り巻く現状と課題
3. スポーツ経営の概念と構造
4. 運動者行動と運動生活の捉え方
5. スポーツ事業と経営資源
6. スポーツ事業論(1)エリア・サービスの捉え方とスポーツ施設の性格
7. スポーツ事業論(2)プログラム・サービスの捉え方とタイプや形態論
8. スポーツ事業論(3)クラブ・サービスの捉え方と地域スポーツ経営論
9. スポーツマネジメントのトピック(1)総合型地域スポーツクラブのマネジメント
10. スポーツ事業論(4)スポーツマーケティングの基本
11. スポーツ経営過程論(1)計画：経営計画の種類と立案プロセス
12. スポーツ経営過程論(2)組織：組織の構造と特性
13. スポーツ経営過程論(3)統制：経営評価の視点とコントロール
14. スポーツマネジメントのトピック(2)NPO法人格と指定管理者制度
15. 総括

【履修上の注意事項】

授業前は教科書や参考文献およびインターネット等でスケジュールに該当する個所で使われている言葉の意味等を中心とした予習しておいてください（90分）。授業後は、毎時間、コミュニケーションペーパーを記入していただき、振り返りを行います。その内容をまとめる作業をしてください（90分）。

【評価方法】

本授業は「授業への取り組み（グループワークを含む）：30%」「コミュニケーションペーパー（毎時提出）：20%」「試験：50%」の3つの視点で総合評価する。

【テキスト】

「テキスト体育・スポーツ経営学」柳沢和雄・木村和彦・清水紀宏（編）大修館書店 ¥1800+税

【参考文献】

「新しいスポーツマネジメント」山下秋二・中西純司・松岡宏高（編）大修館書店 ¥2400+税

「よくわかる スポーツマネジメント」柳沢和雄・清水紀宏・中西純司（編）ミネルヴァ書房 ¥2400+税

健康管理とスポーツ医学

担当教員 忽那 龍雄、矢澤 克典、平崎 和雄

配当年次 2年

開講時期 第2学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

学修者が、「ヒト」の心身の生理機能は、子供から老年者、及び性により異なり、スポーツは心身に対し種々な影響をもたらすことを理解することができる。人はスポーツという負荷に対して適応するように機能を変化させるが、スポーツには功罪がある。スポーツ活動が循環器系、呼吸器系などの主要臓器の機能に及ぼす影響を理解し、競技者に発症するオーバートレーニング症候群、突然死、暑熱・寒冷等の特殊環境下で起きる正常時とは異なる生体反応を理解する。次いでメディカルチェックやドーピングコントロールの重要性について認識することができる。

【授業の展開計画】

下記の項目について講義で学習を進める。

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション (平崎)
2	スポーツによる循環器系、呼吸器系、などの主要器官の順応が説明できる (忽那)
3	スポーツによる消化器・腎臓泌尿器、などの主要器官の順応が説明できる (矢澤)
4	代謝肥満、皮膚のについてスポーツ活動を行う上での注意事項が説明できる (忽那)
5	スポーツ活動時における感染症の対応策について説明できる (忽那)
6	競技者に発症する病的現象 (オーバートレーニング、突然死) の機序と予防策が認識できる (忽那)
7	競技者にみられる病的現象 (減量・摂食障害、過換気症候群) の機序と予防策が認識できる (忽那)
8	高所、低酸素、高圧下の生体反応と特殊環境下のスポーツ活動の注意事項が認識できる (忽那)
9	熱中症の病態と予防対策 寒冷環境下での生体反応とスポーツ活動の注意事項が認識できる (矢澤)
10	女性のスポーツ障害の特徴を説明できる (矢澤)
11	成長期スポーツ活動の功罪と安全基準について認識することができる (忽那)
12	高齢者等の安全な健康運動プログラムを説明できる (忽那)
13	内科的メディカルチェックの手順と方法について理解することができる (平崎)
14	ドーピングコントロールの必要性和検査手順について認識することができる (矢澤)
15	まとめ (平崎)

【履修上の注意事項】

「ヒト」心身の生理機能を理解し、自らの健康管理について考えてみる。またスポーツ医学とはどのような事象を取り扱う医・科学専門分野であるのか調べておくこと。また復習も行うこと。

【評価方法】

定期筆記試験 (100%) にて評価する

【テキスト】

公認アスレティックトレーナー専門テキスト 第4巻 健康管理とスポーツ医学

【参考文献】

体力測定・評価

担当教員 府内 勇希

配当年次 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義・演習

単位数 2

【授業のねらい】

本講義では、健康・体力の維持、増進に携わる人材に不可欠な体力測定およびその評価の方法について理解し、年齢や体力レベルに応じて適切な運動処方ができるようになる。また、運動に対する身体の基本的な反応について説明できる。

【授業の展開計画】

以下の項目について演習及び実習形式で学習を進める

週	授 業 の 内 容
1	健康・体力の概念および測定評価の意義を説明できる
2	健康・体力にかかわるデータ集計の方法について説明できる
3	基本的な統計処理の方法について説明できる
4	形態の測定方法について説明できる
5	形態の評価方法について説明できる
6	新体力テストの測定方法について説明できる
7	新体力テストの評価方法について説明できる
8	有酸素性能力（PWC170）の概念と測定方法について説明できる
9	有酸素性能力（PWC170）の評価方法について説明できる
10	無酸素性能力（ウィングートテスト）の概念と測定方法について説明できる
11	無酸素性能力（ウィングートテスト）の評価方法について説明できる
12	筋力の測定方法およびその留意点について説明できる
13	筋力の評価方法について説明できる
14	スポーツ動作の観察・分析の方法について説明できる
15	スポーツ動作の評価方法について説明できる

【履修上の注意事項】

測定の際は必ず運動できる服装で参加すること。また、体調を整えて参加すること。

【評価方法】

レポート（60%）、受講態度（40%）

【テキスト】

使用しない

【参考文献】

『健康運動実践指導者養成講習会テキスト』
その他、適宜紹介する。

身体の測定・評価

担当教員 倉野 久美、未定

配当年次 2年

開講時期 第1学期

単位区分 選択

授業形態 講義・演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

学習者が、身体能力としての体力向上についての基本的事項の理解と、向上の目安となる項目の測定と評価方法について学び、スポーツ障害の予防やスポーツパフォーマンスの向上への寄与することができる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	総論（倉野・井手）
2	姿勢・アライメントの評価（倉野・井手）
3	形態計測（倉野・井手）
4	関節弛緩性の評価・関節可動域測定・筋タイトネスの検査（倉野・井手）
5	関節弛緩性の評価・関節可動域測定・筋タイトネスの検査（倉野・井手）
6	徒手筋力検査（倉野・井手）
7	機具を用いた筋力評価（倉野・井手）
8	痛みの評価（倉野・井手）
9	バランスの評価（倉野・井手）
10	全身持久力の検査測定（倉野・井手）
11	敏捷性・協調性の検査測定（倉野・井手）
12	身体組成の検査測定（倉野・井手）
13	一般的な体力測定（倉野・井手）
14	一般的な体力測定（倉野・井手）
15	まとめ（倉野・井手）

【履修上の注意事項】

下記のテキスト「公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 第5巻 検査・測定と評価」を授業開始前までに必ず準備すること。実習に際しては、適した服装で受講すること。

アスレティックトレーナーを目指す学生は、必ず受講すること。

予習は、授業前にテキストを読み、基礎項目の解剖学・運動学について再学習しておくこと。

復習は、特に指定の評価技術（ROMテスト、MMT、整形外科的テスト）は、実技として習得すること。

【評価方法】

出席態度は、積極的姿勢で授業に参加すること。

出席態度、確認の試験等（実技試験と筆記試験）を総合的に判断し評価する。

【テキスト】

公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 第5巻 検査・測定と評価
(AT受験希望者は必ず購入すること)

【参考文献】

新・徒手筋力検査法 協同医書出版社

体力測定評価法

担当教員 未定

配当年次 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義・演習

単位数 2

【授業のねらい】

健康の保持増進のためには、運動習慣の有無が強い影響を与えることはよく知られている。ただ、過度の運動やトレーニングは時には両刃の剣であり、対象者によっては関節や骨、あるいは筋肉や腱を痛めることにもなるとことを理解しておくことが必要である。本講義において、学修者は、健康増進のための運動の在り方について理解を深め、適切なアドバイスを与えることができるよう、各年齢・活動レベルに応じた体力測定の実際とその評価、運動の強度と身体反応について理解することができる。

【授業の展開計画】

以下の項目について演習及び実習形式で学習を進める

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション
2	体力の定義と体力測定の目的
3	体力測定の意義と各種測定法概論
4	形態・体格の測定
5	身体組成（体脂肪量など）の測定
6	中年者の体力測定法（理論）
7	中年者の体力測定法（測定）
8	中年者の体力測定法（評価）
9	高齢者の体力測定法（理論）
10	高齢者の体力測定法（測定）
11	高齢者の体力測定法（評価）
12	介護予防に関する体力測定（理論）
13	介護予防に関する体力測定（測定）
14	介護予防に関する体力測定（評価）
15	体力測定値の統計処理

【履修上の注意事項】

演習・実習で構成するので動きやすい服装で参加すること。
健康運動指導士・健康運動実践指導者は必ず履修すること。

【評価方法】

自主的学修態度(10%)・課題レポート(20%)・定期試験等(70%)で総合的に評価する

【テキスト】

適宜プリントを配布する

【参考文献】

健康運動指導士養成講習会テキスト（上）（下）

スポーツ障害の評価

担当教員 平崎 和雄

配当年次 2年

開講時期 第2学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

学修者が、アスレティックトレーナーはスポーツ障害を評価する上で必要な、スポーツ動作の観察と分析の意義や基礎知識、スキルについて分かりやすく解説し、歩行動作や走動作、投動作などの各動作の基礎知識を習得、競技特性を理解しながら応用し、スポーツ選手の障害の予防やコンディショニングにつなげられる評価スキルを身に付けることができる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	スポーツ障害の評価の目的と意義
2	スポーツ障害の評価とEBM
3	歩行のバイオメカニクス
4	歩行動作に影響する要因
5	走動作のバイオメカニクス
6	走動作に影響を与える要因
7	走動作における外傷、障害の発生機転の特徴とメカニズム
8	ストップ、方向転換動作のバイオメカニクスと影響因子
9	跳動作のバイオメカニクスと影響を与える因子
10	跳動作の外傷、障害の発生メカニズムの特徴
11	投動作のバイオメカニクスと影響を与える因子
12	投動作の外傷、障害の発生メカニズムの特徴
13	あたり動作のバイオメカニクスと影響を与える因子
14	あたり動作の外傷、障害の発生メカニズムの特徴
15	まとめ

【履修上の注意事項】

授業前に前回の作成した図表を復習し、授業後は次回のテキストを予習し動作のイメージをしておくこと

【評価方法】

試験 70%、課題レポート 20%、予習復習による自主的学習態度 10%

【テキスト】

講義中に資料を配布する

【参考文献】

公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト5 「検査測定」

財団法人日本体育協会

スポーツコンディショニング概論

担当教員 平崎 和雄

配当年次 3年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

本講義では、学修者が、コンディショニングの概念、目的、要素を理解し、アスリートの競技活動で目標とする最高のパフォーマンス発揮のための要因、競技特性を踏まえたコンディショニング評価法や多様なスポーツ場面でその時々求められる目的にあったコンディショニングの実際の方法、傷害予防のためのアプローチ、そのための環境設定の方法を学び、コンディショニングを意識したトレーニング計画立案やアドバイスができるよう学び、多様なスポーツ現場に対応できる能力を身につけることができる。

【授業の展開計画】

以下の項目について講義および実習形式で学習を進める。

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション
2	コンディショニングの概念と要素
3	コンディショニングの評価法
4	トレーニング計画とコンディショニング
5	競技力向上目的のコンディショニングの実際（競技力向上）
6	競技力向上目的のコンディショニングの実際（スプリント・エンデュアランス・サーキット）
7	傷害予防目的のコンディショニングの実際（ストレッチング）
8	疲労回復目的のコンディショニングの実際（スポーツマッサージ）
9	疲労回復目的のコンディショニングの実際（アイシング）
10	疲労回復目的のコンディショニングの実際（アクアコンディション）
11	ウォームアップとクールダウンの方法と実際
12	コンディショニングのためのフィットネスチェックの実際
13	コンディショニングのためのフィールドテストの実際
14	コンディショニングのための身体組成テストの実際
15	コンディショニングのための柔軟性テストの実際

【履修上の注意事項】

実習に際しては適した服装で受講するようすること。
授業前に資料を準備してきて、授業後は次回の資料を作成してこること
アスレティックトレーナーを目指す学生は、必ず受講すること。

【評価方法】

実習内容の習得度、定期試験等を総合的に判断し評価する。

【テキスト】

公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 第6巻 「予防とコンディショニング」

【参考文献】

スポーツ栄養学Ⅱ

担当教員 小田 和人

配当年次 3年

単位区分 選択

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

スポーツ栄養学の中でも、特に『アスリートの栄養管理』という観点から栄養学を学びます。また実習やグループワークを通して、アスリートの栄養管理を体感します。アスリートに助言できるために必要な知識を身に付けることがこの授業の到達目標です。

【授業の展開計画】

栄養学に関する基礎知識を学び、アスリート特有の栄養への応用を身に付けます。また、栄養素から食事へ展開し、日常に取り入れられるよう、実習も行います。

週	授 業 の 内 容
1	スポーツ栄養概論
2	消化・吸収、エネルギー代謝
3	アスリートの身体組成
4	スポーツにおける栄養素の働き、スポーツ栄養におけるガイドライン
5	身体作りとウエイトコントロール
6	エネルギー供給系および競技特性別にみた栄養摂取
7	トレーニングスケジュールや期分け別の食事
8	栄養欠陥に基づく疾病と対策
9	サプリメントと栄養エルゴジェニック
10	アスリートの食事計画(基礎編:食事バランスのとり方)
11	アスリートの食事計画(発展編:食品から考えた献立作成)
12	アスリートの食事計画(実践編:トレーニングスケジュールに合わせた献立作成)
13	アスリートの食事計画(調理実習:日常生活に取り入れやすいメニュー)
14	アスリートの食事計画(調理実習:特定の栄養素を補給を目的としたメニュー)
15	アスリートの栄養管理

【履修上の注意事項】

- ・授業前はテキストを読むこと(60分)。また、日頃の食事や市販品、外食等に興味を持ち、食事バランスについて検討すること。
- ・授業後はテキストを復習すること(60分)。また、授業で得た知識を生かし、日頃の食生活からアスリートの食事への応用を検討すること。
- ・受講にあたってはマナーを守り、積極的な態度で臨んで下さい。

【評価方法】

授業態度 10%、グループワーク・レポート 30%、試験 60%

【テキスト】

公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト⑨スポーツと栄養 財団法人 日本体育協会

【参考文献】

アスリートのための栄養・食事ガイド (財)日本体育協会監修 小林修平編著 第一出版

研究方法論

担当教員 塚本 紀之、篠原 昭二、田口 太郎、未定

配当年次 3年

開講時期 第2学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

医学研究においては科学的根拠に基づいた論理的な考え方や手法を身につけることが必要であり、これは科学的思考と根拠に基づいた医療（EBM）を実践するための基礎となる。そのため、本講義では次の4点を目的とする。
①研究課題の立案から学会発表・論文作成に至るまでの流れに沿う各項目の基本的考え方や注意点について説明できる。
②文献を検索することができる。
③基本的な統計処理ができる。
④発表のための図・表を作成できる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	
1	研究とは（研究の目的、意義、研究課題の見つけ方）	塚本
2	文献検索の方法	（図書館・福本）
3	リソースの評価と活用（文献、機器など）	塚本
4	研究デザインの考え方：疑問から目的、仮説へ（背景と意義）	塚本
5	研究倫理	塚本
6	研究計画書の構成と内容	田口
7	研究方法（量的研究と質的研究、観察研究と介入研究）	塚本
8	研究における東洋医学的アプローチ	篠原
9	卒業研究発表会への参加	塚本、篠原、田口
10	統計学（1）基礎知識	篠原
11	統計学（2）検定法	篠原
12	データの管理	篠原
13	データの解釈と疫学	塚本
14	データのまとめと学会発表：図・表の作り方、ExcelとPowerPointの使用方法	田口
15	論文作成：構成と手順	田口

【履修上の注意事項】

履修内容を把握し、思考過程の論理的・科学的な展開を心がける。普段から研究の題材を自ら探し、科学的思考を適用してみる。4年生の卒業研究発表会には全員必ず出席し、卒業研究の実際を体感する。

【評価方法】

筆記試験100%

【テキスト】

特に指定はしない。必要に応じて担当教員が資料を配布または文献を紹介する。

【参考文献】

- ①「はじめての研究法（第2版）」監修：千住秀明ほか。神陵文庫。
- ②「マンガでわかる統計学」著：大上丈彦。サイエンス・アイ新書。

卒業研究

担当教員 齋田 和孝

配当年次 4年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 2

【授業のねらい】

科学的研究は、既知の客観的事実や理論（過去の研究成果）に基づいて仮説を立て、具体的に調査・実験等によって得られた客観的事実（結果）を論理的に考察することによって仮説を実証する一連の作業である。研究における考え方は、臨床の実践においても重要な基礎的能力となる。ここでは、臨床的にも重要な免疫系を題材とし、鍼灸施術による影響に関する研究を具体的に実践しながら、科学的根拠に基づいて論理的に考えることができるようになることを主眼とする。

【授業の展開計画】

1. オリエンテーション（研究とは何か）、まず興味を持とう！
2. 先行研究を調べてみよう！
3. もっとたくさん調べてみよう！
4. どんな疑問をもったかな？
5. その疑問、どうすれば解決できるんだろう？
6. 仮説を立てて、物語を作ってみよう！
7. 具体的には何を調査・実験すればいいのかな？
8. 研究計画を立ててみよう！ついでに結果も予想しよう！
9. 研究計画書を書こう！物語を完成させるためのレシピだよ！
10. 実際に調べてみよう！
11. もっとしっかり調べてみよう！
12. 結果を整理してみよう！予想通りの結果だったかな？
13. みんなで検討してみよう！新しい発見があるかも？
14. で、いったい何が明らかになったの？
15. さあ、物語を完成させよう！

【履修上の注意事項】

常に疑問をもち、自主的・積極的に取り組むこと。原則として欠席は不可。やむを得ず欠席する場合は必ず連絡すること。

【評価方法】

レポート課題（研究計画書など）70%、研究に取り組む姿勢と「授業のねらい」の習熟度30%、として総合的に評価する。

【テキスト】

とくになし

【参考文献】

研究テーマにあわせて適宜紹介する。

卒業研究

担当教員 山下 忍

配当年次 4年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 2

【授業のねらい】

スポーツに関する個々人のテーマをもとに計画作成を行う。本講座では各種スポーツから見た身体の特徴、身体計測、トレーニングの効果、比較能力の検討などについて研究設定を行うことができるようになる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	卒業研究の意義について説明できる。
2	研究の進め方と研究計画書の作成について説明できる。
3	研究内容の検討と研究テーマの作成について説明できる。
4	研究仮説の検討および討議の方法について説明できる。
5	参考文献の選定およびテーマの再構築について説明できる。
6	各テーマごとの作業について説明できる。
7	データー収集について説明できる。
8	データー収集からみたテーマの整合性の検討について説明できる。
9	調査・実験・結果のデーター収集処理について説明できる。
10	調査・実験・結果のデーター収集処理について説明できる。
11	調査・実験・結果のデーター収集処理について説明できる。
12	参考文献との比較検討および論文作成について説明できる。
13	論文作成について説明できる。
14	論文完成および論文発表書類作成について説明できる。
15	論文発表方法について説明できる。

【履修上の注意事項】

予習として文献を読み、要点をまとめておくこと
 復習として実験データを整理し、考察をレポートしておくこと。

【評価方法】

研究目的、方法、結果、結果考察、結語、参考文献が正しく記載され、科学的に処理され心理的な考察、生理学的考察、測定方法が十分であることを評価する

【テキスト】

特定図書の設定はない。テーマにより参考図書が必要となる。

【参考文献】

特定図書の選定はない。

卒業研究

担当教員 野口 恭庸

配当年次 4年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 2

【授業のねらい】

自身が疑問に思った事象について、個人的な印象ではなく、誰もが納得できる事実として認めてもらうためには、どのような手続きや手法が必要なのか、学修者が適切に考え、見出すことができることを目的とする。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション。東洋医学・鍼灸に関する研究の特徴が説明できる
2	どんな疑問を持っているか意見交換（研究テーマの素材選び）
3	その疑問に関連する文献を色々探し、読んでみる
4	もっとも興味を引く疑問を選んで仮研究テーマを決める
5	選んだテーマについて、これまでに行われている研究（先行研究）を調べる
6	さらに視野を広げて先行研究を調べる
7	疑問の解決方法についてグループ討論
8	そろえるべきデータ、そのための調査・実験方法、導かれる結果を想像してみる
9	仮研究計画（構想）を練ってみる
10	調査・実験を行い、得られたデータを分析してみる（A）
11	（A）を踏まえて、さらに調査・実験を行い、得られたデータを分析してみる（B）
12	（B）を踏まえて、さらに調査・実験を行い、得られたデータを分析してみる（C）
13	得られた結果を整理して、グループ討論
14	検討した結果をもとに、テーマや計画を修正してみる
15	「研究計画書」を完成させる

【履修上の注意事項】

ゼミ内での共同作業が多くなりますので、原則、欠席しないこと。やむを得ず欠席する場合は指導教員に必ず連絡をすること。

【評価方法】

各課題、研究計画書などの提出物、ゼミへの参加状況80%、グループワークの内容、取り組む姿勢20%、として総合的に評価する。

【テキスト】

必要に応じて適宜紹介する。

【参考文献】

必要に応じて適宜紹介する。

卒業研究

担当教員 平崎 和雄

配当年次 4年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 2

【授業のねらい】

学修者が、「アスレティックトレーナー専門実習」「フィットネスマネジメント実習」をとおして得られたデータ等をもとに、スポーツ競技特性、スポーツ傷害特性などについて研究できる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション
2	研究の進め方と研究計画書の作成方法
3	研究テーマ・内容の検討
4	研究仮説の検討・先行研究・参考文献の検討
5	研究計画書の作成
6	研究計画書の発表
7	データの収集
8	データの追加収集
9	データの検討
10	データの処理
11	データの解析
12	研究報告書の作成
13	研究報告書の中間報告
14	研究報告書の完成
15	研究報告の発表

【履修上の注意事項】

「アスレティックトレーナー専門実習」及び「フィットネスマネジメント実習」等よりデータを得たりスポーツ運動による特異性を考慮したテーマを持つ者
授業前には前回の進捗に応じ資料を作成し、授業後は資料を共有し管理できるようにすること

【評価方法】

研究報告書が作成でき、発表できているか評価する

【テキスト】

適宜紹介する

【参考文献】

特記なし

卒業研究

担当教員 塚本 紀之

配当年次 4年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

鍼灸スポーツ学科での学習の総まとめとなるのがこの科目です。研究グループ/チームの中で指導にあたる教員との個人的接触および学生が自ら学び・考え・探求することにより「研究の進め方」を学ぶことを目的とします。特に、①鍼灸と生体防御システム（免疫）に関する事、②鍼灸と運動に関する事、③鍼灸と各種療法（温泉、森林浴など）について研究を展開していきます。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション/研究とは何か
2	鍼灸の研究領域について
3	研究チームのテーマ①鍼灸と生体防御系について
4	研究チームのテーマ②鍼灸と疼痛制御について
5	リサーチ・クエスチョン
6	文献精読とディスカッション（1）
7	文献精読とディスカッション（2）
8	文献精読とディスカッション（3）
9	文献精読とディスカッション（4）
10	文献精読とディスカッション（5）
11	文献情報の整理・体系化
12	研究計画の立案～仮説、実験方法の選択
13	研究計画書の作成（1）
14	研究計画書の作成（2）
15	研究計画書の発表

【履修上の注意事項】

熱意と根性、途中であきらめないこと。時間の厳守、提出物などの締め切りを守ること。研究グループ/チーム内の行事などに積極的に参加するなど協調性を有しチームで協力して研究ができる人。講義・研究前の予習：次のテーマや実験内容について配布資料をよく読み、不明な点があれば担当教員に質問して理解しておくこと。講義後の復習：各回の講義・研究後は、実験ノートのまとめをし、担当教員のチェックを次の講義・研究時に受けること。

【評価方法】

教員による評価（80%） 研究への取り組み姿勢、提出物の内容などを総合的に評価します。
研究チーム内学生による評価（20%） 研究チーム内学生同士が、研究への取り組み方、貢献度などを総合的に評価します。

【テキスト】

必要に応じ紹介します。

【参考文献】

必要に応じ紹介します。

卒業研究

担当教員 篠原 昭二

配当年次 4年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 2

【授業のねらい】

鍼灸医学を学ぶ過程において種々の疑問を持つであろうが、その中の一つを題材として、これまでの文献調査による概要の理解、実験研究を行うに当たってのプロトコルの作り方、対照群の設定、研究計画の作り方、実験研究、データ処理、統計計算、考察、プレゼンテーションまでの過程を学修する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	実験研究について学ぶ	16	パイロット実験を検証する
2	疑問のある課題を見つけ出す	17	研究計画の見直しを行う
3	和文文献調査の方法を学ぶ	18	実験研究を開始する(1)
4	テキスト文献調査の方法を学ぶ	19	実験研究を開始する(2)
5	欧文文献調査の方法を学ぶ	20	実験研究を開始する(3)
6	和文文献調査の結果を報告する	21	実験研究を開始する(4)
7	テキスト文献調査の結果を検証する	22	実験研究を開始する(5)
8	欧文文献調査の結果を報告する	23	実験研究を開始する(6)
9	研究プロトコルを作成する	24	実験研究を開始する(7)
10	研究プロトコルを検証する	25	実験研究を開始する(8)
11	研究プロトコルを完成する	26	データ整理を行う
12	具体的な研究計画を立案する	27	統計処理を行う
13	具体的な研究計画を検証する	28	考察を考える(現代医学的)
14	具体的な研究計画を完成する	29	考察を考える(東洋医学的)
15	パイロット実験を行う	30	プレゼンテーションを行う

【履修上の注意事項】

自分なりの疑問をいかにして明らかにするかを考え、調査し、実験計画を立て、実践し、考察し、分析する方法論を学ぶ。たとえ未熟でもよいから、自分で考えて、自分で動き、自ら実践することを重視する。

【評価方法】

実験結果の良しあしではなく、プロセスを重視して、最後まで完遂することが不可欠である。また、実験研究における創意・工夫を重視する。

【テキスト】

特に指定しない。しかし、実験計画法や統計処理等について調査する必要がある。

【参考文献】

全日本鍼灸学会雑誌、日本伝統鍼灸学会雑誌等の研究報告を参考にする。

卒業研究

担当教員 田口 太郎

配当年次 4年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 2

【授業のねらい】

鍼灸医療・スポーツ科学分野において「常に新しい知見を探究する能力」を修得することが、【卒業研究】【卒業研究論文】を通しての共通目標です。【卒業研究】では、自らが関心を持ったテーマにおいて、研究の必要性・研究の構成要素・研究の手順を知り、卒業研究論文作成に向けて、研究計画書が作成できることを目的とします。

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

卒業研究

担当教員 内田 匠治

配当年次 4年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 2

【授業のねらい】

これまでの鍼灸学、東洋医学、解剖学、生理学のその他中で疑問に思ったことについて実験的に検討する。また、鍼灸東洋医学について古典的な疑問がある学生については文献学的なアプローチにて検討する。以上のことを通して、科学的思考、論証ができるようになる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	研究方法について
2	テーマの選び方
3	文献検索の方法について、文献の読み方
4	実験計画法
5	予備実験をしてみる1) プロトコルの作り方、実験倫理について
6	予備実験をしてみる2) 実際に実施しながら細かな注意点を考える
7	予備実験をしてみる3) データのまとめ方について
8	予備実験をしてみる4) 統計処理について
9	本実験の計画を立てる
10	実験計画の検討
11	本実験を実施
12	本実験を実施
13	本実験を実施
14	データのまとめ
15	結果を簡易なレポートにまとめる

【履修上の注意事項】

他のゼミ生と協力して実施する必要があるため、各自が積極的に参加すること。他人にまかせて手を抜くようなことがないようにすること。

【評価方法】

作成過程の貢献度などを総合的に評価する。

【テキスト】

テーマに応じ適宜紹介する。

【参考文献】

テーマに応じ適宜紹介する。

卒業研究

担当教員 浅井 福太郎

配当年次 4年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 2

【授業のねらい】

論文検索や抄読を行うことで、研究テーマを絞ります。また統計について学習し、結果をまとめ論文作成について学習を行います。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	研究テーマの絞り込みについて（1）
2	研究テーマの絞り込みについて（2）
3	研究テーマの絞り込みについて（3）
4	文献検索について（1）
5	文献検索について（2）
6	文献検索について（3）
7	データ入力について（1）
8	データ入力について（2）
9	統計解析について（1）
10	統計解析について（2）
11	統計解析について（3）
12	研究内容についてのディスカッション（1）
13	研究内容についてのディスカッション（2）
14	研究計画書の作成（1）
15	研究計画書の作成（2）

【履修上の注意事項】

ゼミでの集合時間を厳守すること。それぞれの役割について責任を持って作業を行うこと。

【評価方法】

実験やデータ入力、統計処理、資料作成等を総合的に判断し、評価を行います。

【テキスト】

必要に応じ適宜紹介する。

【参考文献】

必要に応じ適宜紹介する。

卒業研究

担当教員 井手 裕子

配当年次 4年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 2

【授業のねらい】

学修者が「アスレティックトレーナー専門実習」および「フィットネスマネジメント実習」を通して得られた経験・データをもとにスポーツ競技特性、スポーツ外傷障害特性、体力の特性などについて研究できる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション
2	研究の進め方と研究計画書の作成方法
3	研究テーマ・内容の検討
4	研究仮説の検討・先行研究・参考文献の検討
5	研究計画書の作成
6	研究計画書の発表
7	データの収集
8	データの収集
9	データの検討
10	データの処理
11	データの解析
12	研究報告書の作成
13	研究報告書の中間報告
14	研究報告書の完成
15	研究報告の発表

【履修上の注意事項】

スポーツならびに健康・運動による特異性に考慮したテーマを持つもの

【評価方法】

研究報告書の作成ならびに発表

【テキスト】

【参考文献】

卒業研究

担当教員 久保 春子

配当年次 4年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

興味・関心・疑問を持ったテーマに関する先行研究論文を精読し、ディスカッションを行い、研究目的を明確にする。研究推進に必要な方法・手順の概要を学ぶ。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション（授業展開等）
2	文献検索と論文精読① 研究テーマ検討
3	文献検索と論文精読② 研究テーマ検討
4	文献検索と論文精読③ 研究テーマおよび研究目的の明確化
5	文献検索と論文精読④ リサーチクエスチョン
6	文献検索と論文精読⑤ 研究方法の検討
7	文献検索と論文精読⑥ 研究方法の検討
8	仮研究計画書の作成
9	実験① データ収集
10	実験② データ収集
11	実験③ データ収集
12	実験④ データ収集
13	データの分析と整理 ディスカッション
14	検討した結果をもとに研究テーマや計画を再検討
15	研究計画書の完成

【履修上の注意事項】

自主的・積極的に取り組むこと。研究にはチーム単位で取り組むため原則として欠席は不可。やむを得ず欠席する場合は指導教員に必ず連絡すること。

【評価方法】

各課題や研究計画書などの提出物、ゼミへの参加状況、グループワークの内容、取り組む姿勢など総合的に評価する。

【テキスト】

テーマに応じ適宜紹介する。

【参考文献】

テーマに応じ適宜紹介する。

卒業研究

担当教員 本田 泰弘

配当年次 4年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

鍼灸医学の中で興味あるテーマを設定し、その研究テーマに沿って研究を行う。研究では、リサーチクエスションの作成、文献検索、研究方法の検討、研究計画の立案、データ収集と分析など、一連の作業を通じ研究に関する基本的な方法論を習得する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション
2	テーマの検討（1）
3	テーマの検討（2）
4	クリニカルクエスションからリサーチクエスションへ
5	先行研究の検索（1）
6	先行研究の検索（2）
7	先行研究の検索（3）
8	問題の所在と仮説の検討
9	研究方法の検討と研究計画（1）
10	研究方法の検討と研究計画（2）
11	パイロット検証
12	実験、データ収集、分析（1）
13	実験、データ収集、分析（2）
14	実験、データ収集、分析（3）
15	まとめ

【履修上の注意事項】

ゼミ生が一つのテーマに沿って協力して取り組むことが大切。毎回参加が原則

【評価方法】

研究方法を正確に習得し、研究の結果を総合的に分析し考察することが重要である。また、研究への取り組み方を含めて総合的に評価する。

【テキスト】

必要に応じて適宜紹介する。

【参考文献】

必要に応じて適宜紹介する。

卒業研究論文

担当教員 齋田 和孝

配当年次 4年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 4

【授業のねらい】

論文とはプレゼンテーション方法の一つである。研究でどんなに素晴らしい結果が得られても、きちんと人に伝えることができなければ研究した意味がない。また、医療の実践においてもさまざまな場面でプレゼンテーション能力が要求される。ここでは、卒業研究での結果を論文としてまとめ、口頭発表も経験することによって、論理的でわかりやすいプレゼンテーションができるようになることを主眼とする。

【授業の展開計画】

1学期（1.～15.）卒業研究に準じて研究を進め、結果を出す

16. プレゼンテーションの基本
17. 論文のフォーマット
18. 根拠をもったデータの提示
19. 統計処理の意味と目的
20. 検定の考え方
21. 検定の進め方
22. データの解釈と考察
23. 表やグラフの作り方
24. 図表の提示の仕方
25. わかりやすい表現と文章力
26. 論理的な文章の組み立て
27. 文献の使い方
28. スライドの作成
29. 口頭発表の実際
30. 卒業研究論文の作成

【履修上の注意事項】

自主的・積極的に取り組むこと。原則として欠席は不可。やむを得ず欠席する場合は必ず連絡すること。

【評価方法】

完成した論文の内容70%、研究に取り組む姿勢と「授業のねらい」の習熟度30%、として総合的に評価する。

【テキスト】

とくになし

【参考文献】

必要に応じて適宜紹介する。

卒業研究論文

担当教員 山下 忍

配当年次 4年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 4

【授業のねらい】

スポーツに関する研究は多岐にわたり、個人々のテーマをもとに計画作成を行う。本講座で設定可能な方法は、各種運動種目、トレーニング種などからの測定、身体計測、統計学、身体適性、トレーニングの効果、比較能力の性差などについて研究設定を行うことができる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	卒業論文の意義について説明できる。	16	データー処理のしかたについて説明できる。
2	研究の進め方と研究計画作成を説明できる。	17	調査・実験・結果について説明できる。
3	研究内容の検討について説明できる。	18	データーの検討について説明できる。
4	研究テーマの選定について説明できる。	19	参考文献との比較検討を説明できる。
5	テーマの目標と目的について説明できる。	20	参考文献との比較検討を説明できる。 2
6	研究仮説の検討について説明できる。	21	文章の書き方について説明できる。
7	グループごとの研究課題について説明できる。	22	論文作成の分担項目について説明できる。
8	参考文献の抽出について説明できる。	23	論文作成について説明できる。
9	テーマの再構築について説明できる。	24	論文作成について説明できる。
10	テーマごとの作業について説明できる。	25	論文集約について説明できる。
11	データ収集方法について説明できる。	26	論文完成について説明できる。
12	データ収集について説明できる。	27	論文抄録作成について説明できる。
13	データ収集の状況について説明できる。	28	論文発表書類作成について説明できる。
14	データの内容について説明できる。	29	模擬論文発表について説明できる。
15	内容の報告の仕方について説明できる。	30	論文発表について説明できる。

【履修上の注意事項】

予習として文献を読み、要点をまとめておくこと
復習として実験データを整理し、考察をレポートしておくこと。

【評価方法】

研究目的、方法、結果、結果考察、結語、参考文献が正しく記載され、科学的に処理され心理的な考察、生理学的考察、測定方法が十分であることを評価する。

【テキスト】

特定図書の設定はない。テーマにより10～20冊の参考図書が必要となる。

【参考文献】

特定図書の設定はない。

卒業研究論文

担当教員 野口 恭庸

配当年次 4年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 4

【授業のねらい】

病院、鍼灸治療院における症例検討会や、研修会・学会発表など、卒業後も様々な場面でプレゼンテーション能力が要求される機会に遭遇します。臨床で自身が得た有用な情報を、スタッフ間で共有したり、同じ医療の現場で働く鍼灸師達に提供する上で、“正確に解りやすく伝える”ことはとても大切です。学修者が卒業研究で学んだ科学的な思考・検証によって得られた成果を、論文としてまとめ、またその成果を発表する上で必要な技術、要領などを理解し、身に付けることを目的とする。

【授業の展開計画】

4月～5月 「卒業研究」の授業展開にしたがって進める。
必要に応じて、テーマの修正および研究計画の修正を行う。

6月～9月…調査、実験等によるデータ収集ならびに解析

10月 …研究発表の準備
抄録作成、図表・画像などの素材作成、スライド（パワーポイント）準備、
発表メモ作成、口頭発表方法の学習、予演会
…論文作成の準備

11月～12月…研究発表会
…卒業研究論文の完成・提出

【履修上の注意事項】

ゼミ内での共同作業が多くなりますので、原則、欠席しないこと。やむを得ず欠席する場合は指導教員に必ず連絡をすること。
指定された期日までに卒業研究論文が提出されない場合は評価の資格を喪失しますので、十分注意すること。

【評価方法】

研究発表、卒業研究論文、ゼミへの参加状況50%、グループワークの内容、取り組む姿勢、論文の内容50%、として総合的に評価する。

【テキスト】

必要に応じて適宜紹介する。

【参考文献】

必要に応じて適宜紹介する。

卒業研究論文

担当教員 平崎 和雄

配当年次 4年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 4

【授業のねらい】

学修者が、「アスレティックトレーナー専門実習」「フィットネスマネジメント実習」をとおして得られたデータ等をもとに、スポーツ競技特性、スポーツ傷害特性などについて研究論文が作成できる

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション	16	研究報告書の見直し
2	研究の進め方と研究計画書の作成方法	17	研究論文テーマの検討
3	研究テーマ・内容の検討	18	研究論文内容の検討
4	研究仮説の検討・先行研究・参考文献の検討	19	研究論文仮説の検討
5	研究計画書の作成	20	研究論文先行研究・参考文献の検討
6	研究計画の発表	21	研究論文データの収集
7	データの収集	22	研究論文データの検討
8	データの追加収集	23	研究論文データの解析
9	データの検討	24	研究論文作成
10	データの処理	25	研究論文中間発表
11	データの解析	26	研究論文完成
12	研究報告書の作成	27	研究論文抄録作成
13	研究報告書の中間報告	28	研究論文抄録完成
14	研究計画書の完成	29	研究論文模擬発表
15	研究報告の発表	30	研究論文発表

【履修上の注意事項】

卒業研究を「アスレティックトレーナー専門実習」及び「フィットネスマネジメント実習」等よりデータを得て報告書を作成・発表した者
授業前の予習、授業後の復習を忘れないようにすること

【評価方法】

卒業研究論文が作成でき、発表できているか評価する

【テキスト】

適宜紹介する

【参考文献】

特記なし

卒業研究論文

担当教員 塚本 紀之

配当年次 4年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 4

【授業のねらい】

卒業研究での学習成果をもとに、研究テーマに関する理解を深め、実験し、結果をまとめていく能力を育成します。実験データの分析と整理、考察、結論を導くことを通し問題解決能力を養い、最終的に卒業研究論文の作成、発表（プレゼンテーション）を行い、自らの情報発信能力を身に着けます。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	実験, データ収集, 分析, 整理 (1)	16	研究論文の論理構成を考える (2)
2	実験, データ収集, 分析, 整理 (2)	17	図表を作る (1)
3	実験, データ収集, 分析, 整理 (3)	18	図表を作る (2)
4	実験, データ収集, 分析, 整理 (4)	19	結果を書く (1)
5	実験, データ収集, 分析, 整理 (5)	20	結果を書く (2)
6	実験, データ収集, 分析, 整理 (6)	21	方法を書く (1)
7	プログレスレポート (1)	22	方法を書く (2)
8	実験, データ収集, 分析, 整理 (7)	23	考察を書く (1)
9	実験, データ収集, 分析, 整理 (8)	24	考察を書く (2)
10	実験, データ収集, 分析, 整理 (9)	25	緒言を書く (1)
11	実験, データ収集, 分析, 整理 (10)	26	緒言を書く (2)
12	実験, データ収集, 分析, 整理 (11)	27	要旨を書く (研究論文の完成)
13	実験, データ収集, 分析, 整理 (12)	28	卒業研究発表の準備 (1)
14	プログレスレポート (2)	29	卒業研究発表の準備 (2)
15	研究論文の論理構成を考える (1)	30	卒業研究発表

【履修上の注意事項】

熱意と根性、途中であきらめないこと。時間の厳守、提出物などの締め切りを守ること。研究グループ/チーム内の行事などに積極的に参加するなど協調性を有しチームで協力して研究ができる人。講義・研究前の予習：次のテーマや実験内容について配布資料をよく読み、不明な点があれば担当教員に質問して理解しておくこと。講義後の復習：各回の講義・研究後は、実験ノートのまとめをし、担当教員のチェックを次の講義・研究時に受けること。

【評価方法】

教員による評価 (80%) 研究への取り組み姿勢、提出物の内容などを総合的に評価します。
研究チーム内学生による評価 (20%) 研究チーム内学生同士が、研究への取り組み方、研究への貢献度などを総合的に評価します。

【テキスト】

必要に応じ紹介します。

【参考文献】

必要に応じ紹介します。

卒業研究論文

担当教員 篠原 昭二

配当年次 4年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 4

【授業のねらい】

卒業研究を通して得られた成果を論文あるいは構造化抄録の形式でまとめることが目的である。

【授業の展開計画】

各单元ごとの授業形態はとらないが、卒業研究を通して、構造化抄録の形式で卒業論文をまとめることが目的である。

【履修上の注意事項】

実験研究を丁寧に実践して、その成果についてまとめることが求められる。

【評価方法】

研究結果をまとめ、考察し、論文を完成することが求められる。

【テキスト】

指定なし

【参考文献】

指定なし

卒業研究論文

担当教員 田口 太郎

配当年次 4年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 4

【授業のねらい】

【卒業研究論文】では、【卒業研究】で作成した研究計画書に沿って、チームで実際に研究を進め、得られた知見を研究論文という形にすることで、論理的な思考能力、問題解決能力、文書作成能力を養います。また、研究発表を通して、口述によるプレゼンテーション能力を身に付けます。

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

卒業研究論文

担当教員 内田 匠治

配当年次 4年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 4

【授業のねらい】

卒業研究で行った内容をさらに構造化された論文としてまとめていく。必要であれば、追加の実験を実施する。

それらをまとめて卒論発表会にてプレゼンテーションを行う。授業を通して、各種ソフトの使用やわかりやすいプレゼンテーションができるようになり、論理的な文章を構成し作成することができるようになる。

【授業の展開計画】

9月～10月末までに
卒業研究発表のスライド資料を完成させる。

12月初旬までに
卒業研究論文を作成する。

それぞれのテーマに応じ、データのまとめ方やスライド、論文作成方法を指導する。

【履修上の注意事項】

実験などで、本来の授業時間以外にも実施することがあるのでゼミ内で話し合い調整すること。

【評価方法】

発表と卒論作成の貢献度によって総合的に評価する。

【テキスト】

必要に応じ適宜紹介する。

【参考文献】

必要に応じ適宜紹介する。

卒業研究論文

担当教員 浅井 福太郎

配当年次 4年

開講時期 通年

単位区分 選択

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

文献調査、実験、解析、論文作成を行うことで、研究テーマに関する理解と能力を育成します。その中で、物事に対して自らで考える力を身に着けます。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	データ収集 (1)	16	実験 (8)
2	データ収集 (2)	17	実験 (9)
3	データ収集 (3)	18	実験 (10)
4	データ収集 (4)	19	データ入力
5	データ分析、整理 (1)	20	統計解析
6	データ分析、整理 (2)	21	論文作成 (1)
7	データ分析、整理 (3)	22	論文作成 (2)
8	データ分析、整理 (4)	23	論文作成 (3)
9	実験 (1)	24	論文作成 (4)
10	実験 (2)	25	論文作成 (5)
11	実験 (3)	26	論文作成 (6)
12	実験 (4)	27	要旨作成
13	実験 (5)	28	研究発表の準備
14	実験 (6)	29	研究発表 (1)
15	実験 (7)	30	研究発表 (2)

【履修上の注意事項】

ゼミでの集合時間を厳守すること。それぞれの役割について責任を持って作業を行うこと。

【評価方法】

実験やデータ入力、統計処理、資料作成等を総合的に判断し、評価を行います。

【テキスト】

必要に応じ適宜紹介する。

【参考文献】

必要に応じ適宜紹介する。

卒業研究論文

担当教員 井手 裕子

配当年次 4年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 4

【授業のねらい】

学修者が「アスレティックトレーナー専門実習」および「フィットネスマネジメント実習」を通して得られた経験・データをもとにスポーツ競技特性、スポーツ外傷障害特性、体力の特性などについて研究・論文作成・発表ができる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション	16	研究報告書の見直し
2	研究の進め方と研究計画書の作成方法	17	研究論文テーマの検討
3	研究テーマ・内容の検討	18	研究論文内容の検討
4	研究仮説の検討・先行研究・参考文献の検討	19	研究論文仮説の検討
5	研究計画の作成	20	研究論文先行研究・参考文献の検討
6	研究計画の発表	21	研究論文データ収集
7	データの収集	22	研究論文データ検討
8	データの収集	23	研究論文データの解析
9	データの検討	24	研究論文作成
10	データの処理	25	研究論文中間発表
11	データの解析	26	研究論文完成
12	研究報告書の作成	27	研究論文抄録作成
13	研究報告書の中間報告	28	研究論文抄録完成
14	研究報告書の完成	29	研究論文模擬発表
15	研究計画書の発表	30	研究論文発表

【履修上の注意事項】

卒業研究を「アスレティックトレーナー専門実習」及び「フィットネスマネジメント実習」等においてデータを収集し報告書を作成・発表した者

【評価方法】

卒業論文および発表

【テキスト】

【参考文献】

卒業研究論文

担当教員 久保 春子

配当年次 4年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 4

【授業のねらい】

【卒業研究】の科目と連動して論文作成を行う。
卒業研究論文作成に必要な、①研究計画立案、②データ収集・処理、③研究成果の発表(プレゼンテーション)、④卒業研究論文作成を行い、論理的な思考能力・問題解決能力・文書作成能力を養う。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	【卒業研究】の展開に従う。	16	実験① データ収集、分析、整理
2	【卒業研究】の展開に従う。	17	実験② データ収集、分析、整理
3	【卒業研究】の展開に従う。	18	実験③ データ収集、分析、整理
4	【卒業研究】の展開に従う。	19	実験④ データ収集、分析、整理
5	【卒業研究】の展開に従う。	20	データの図表作成
6	【卒業研究】の展開に従う。	21	データの解釈と考察
7	【卒業研究】の展開に従う。	22	卒業研究論文作成① 方法・結果
8	【卒業研究】の展開に従う。	23	卒業研究論文作成② 考察
9	【卒業研究】の展開に従う。	24	卒業研究論文作成③ 考察
10	【卒業研究】の展開に従う。	25	卒業研究論文作成④ 諸言
11	【卒業研究】の展開に従う。	26	卒業研究論文作成⑤ 要旨
12	【卒業研究】の展開に従う。	27	研究発表会 スライド作成
13	【卒業研究】の展開に従う。	28	研究発表会 プレゼンテーション
14	【卒業研究】の展開に従う。	29	卒業研究論文作成⑥ 仕上げ
15	【卒業研究】の展開に従う。	30	卒業研究論文作成⑦ 完成

【履修上の注意事項】

自主的・積極的に取り組むこと。研究にはチーム単位で取り組むため原則として欠席は不可。
やむを得ず欠席する場合は指導教員に必ず連絡すること。

【評価方法】

研究発表、卒業研究論文 60%
ゼミへの参加状況、グループワークの内容、取り組む姿勢など総合的に評価 40%

【テキスト】

テーマに応じ適宜紹介する。

【参考文献】

テーマに応じ適宜紹介する。

卒業研究論文

担当教員 本田 泰弘

配当年次 4年

開講時期 通年

単位区分 選択

授業形態 卒業研究・論文等

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

研究を遂行し、その成果をまとめ科学論文として完成させる方法を習得する。
また、その内容をプレゼンテーションする方法を習得する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	「卒業研究」の内容に従う	16	論文：タイトル、背景の作成（1）
2	「卒業研究」の内容に従う	17	論文：タイトル、背景の作成（2）
3	「卒業研究」の内容に従う	18	論文：目的の作成
4	「卒業研究」の内容に従う	19	論文：仮説の作成
5	「卒業研究」の内容に従う	20	論文：手続きの作成
6	「卒業研究」の内容に従う	21	論文：統計的解析内容の作成
7	「卒業研究」の内容に従う	22	論文：図表の作成
8	「卒業研究」の内容に従う	23	論文：グラフの作成
9	「卒業研究」の内容に従う	24	論文：結果の作成
10	「卒業研究」の内容に従う	25	論文：考察の作成（1）
11	「卒業研究」の内容に従う	26	論文：考察の作成（2）
12	「卒業研究」の内容に従う	27	論文：引用文献の作成
13	「卒業研究」の内容に従う	28	論文：要約の作成
14	「卒業研究」の内容に従う	29	プレゼンテーションの練習（1）
15	「卒業研究」の内容に従う	30	プレゼンテーションの練習（2）

【履修上の注意事項】

どう取り組んだかが大切である。毎回参加が原則。

【評価方法】

研究を遂行しその成果をまとめ正しい科学論文が作成できたか、またプレゼンテーションの手法を習得できたかが大切である。研究への取り組み方を含めて総合的に評価する。

【テキスト】

必要に応じて適宜紹介する。

【参考文献】

必要に応じて適宜紹介する。

国際協力論

担当教員 安藤 学、川原 英照、川原 光祐、久家 誠司

配当年次 1年

開講時期 第1学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

危機管理と災害支援

担当教員 安藤 学

配当年次 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

日常生活の中においても、危険は常に存在する。もちろん日常生活だけではなく拡大して考えれば地球上にはいろんな危険が存在しており、それに対する危機管理が必要である。家庭内の危険から出発し国際紛争までにいたる危機管理について学ぶ。

そして、災害についての危機管理と災害発生後の支援のあり方について検討するための能力を修得することができる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	危機とは何か
2	危険とは何か
3	危機管理とは何か
4	家庭における危険と危機管理
5	地域社会における危険と危機管理
6	学校における危険と危機管理
7	企業における危険と危機管理
8	国家における危険と危機管理
9	国家間へのバランスと危機管理
10	現場からの危機管理（外部講師 海上）
11	現場からの危機管理（外部講師 陸上）
12	災害支援の方法（災害発生時）
13	災害支援の方法（自活生存）
14	災害支援の方法（避難救助）
15	危機管理をはじめよう

【履修上の注意事項】

授業前に出された課題を完成させて授業に臨み、授業後は授業前の課題と授業で学んだことを比較して復習をすること。

【評価方法】

レポート80% 授業への取り組み20%

【テキスト】

なし

【参考文献】

適宜紹介する

災害支援演習

担当教員 安藤 学

配当年次 2年

単位区分 選択

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

災害支援の場合、常に支援協力活動にあたる要員の為に、快適な宿泊設備、生活物資が用意されているとは限らない。むしろ多くの場合が、災害被災地であったり、生活物資の不足する場所での支援協力活動である。支援協力活動において任務を遂行するために、まず自分自身の安全の確保と生命の維持が確保されなければならないし、またチームワークも重要である。この演習では、協力協同の精神を涵養し災害場面を想定して自活生存、生命維持のための基本的な方法と共に、支援活動に必要な基本技術を修得できる。

【授業の展開計画】

この演習では、「海上訓練」と「陸上訓練」に分けて集中的に実施する。

「海上訓練」では短艇(カッター)を用いて協同協力の精神を養い、「陸上訓練」では実際にテントを設営し野営して自活生存方法を修得する。また「海上訓練」「陸上訓練」を通じてチームワークの重要性を学ぶ。実施の時期については、前もってオリエンテーションを開き説明指導する。ただしこの演習で、他の授業に支障(公欠で授業を欠席)がでないように、夏季休暇中の実施する。

「海上訓練」(9月上旬 4日間 長洲海洋センター/前面海域)

短艇(カッター)・帆走(ヨット)・結索(ロープワーク)・安全管理・気象観測・溺者救助・応急処置・信号通信・統率(指揮)法

「陸上訓練」(9月中旬 2泊3日 大学構内/蛇が谷公園)

オリエンテーリング(地図見・コンパス見方)・ロープ技術(ロープ渡り・降下等)・野営方法(テント設営・炊飯等)・安全管理・救急処置(傷病者搬送方法含む)・統率(指揮)法

※ 「海上訓練」・「陸上訓練」とも、学内において事前指導を行った後に実施する

【履修上の注意事項】

演習に際しては、安全確保のために指定の作業着・帽子・作業靴を着用する。(作業着等については、貸与するが、食事代と作業服のクリーニング代は各自負担) 演習前に出された課題を完成させて授業に臨み、演習後は演習で学んだことを復習をすること。事前に配布された資料を学習しておき、演習終了後は各自で復習を定期的におこなうこと。

【評価方法】

技能(80%)、演習態度(20%)

【テキスト】

プリントを配布する

【参考文献】

なし

4 自由選択科目

アスレティックトレーナー概論

担当教員 平崎 和雄

配当年次 1年

開講時期 第1学期

単位区分 要件外

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

学修者が、スポーツ環境でのアスレティックトレーナーの役割と業務を具体的に示し、日体協会公認アスレティックトレーナー養成の趣旨や設立の背景、歴史的背景や諸外国の状況を理解し、アスレティックトレーナーの組織的な活動に触れ、その位置づけや運営管理について学び、コーチ、スポーツドクターなど様々な専門家といかに連携を取って選手をサポートしていくかなどアスレティックトレーナーが現場で活動する上で必要な知識を養うとともに、社会的秩序や倫理観を身につけることができる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション
2	アスレティックトレーナー制度の歴史
3	日本体育協会公認アスレティックトレーナー養成事業制度とカリキュラム
4	諸外国のアスレティックトレーナー制度
5	アスレティックトレーナーの任務と役割
6	アスレティックトレーナーの業務（求められる知識・技能）
7	アスレティックトレーナー活動 総論
8	アスレティックトレーナー活動の実際（スプリント系）
9	アスレティックトレーナー活動の実際（球技系）
10	アスレティックトレーナー活動の実際（冬期競技）
11	アスレティックトレーナーとスポーツドクターとの関わりについて
12	アスレティックトレーナーと医科学スタッフ等他のスタッフとの連携
13	アスレティックトレーナーの組織運営と各種管理
14	アスレティックトレーナー関連資格について
15	アスレティックトレーナーと倫理

【履修上の注意事項】

アスレティックトレーナーを目指す学生は、必ず受講のこと。
科目受講を通し、社会的秩序や倫理観を身につけるようするため出席、受講態度も重視する。
授業前に前回のレポートの関連事項を調べて授業に望み、授業後は終了時のレポートとテキストの関連づけをすること。

【評価方法】

受講態度、提出物、定期試験等を総合的に判断し評価する

【テキスト】

公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 第1巻 財団法人 日本体育協会

【参考文献】

基礎分野 「スポーツ社会学」のテキスト

アスレティックリハビリテーション論

担当教員 常盤 直孝

配当年次 3年

単位区分 要件外

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

アスレティックリハビリテーションの意味を理解し、歴史や現場における活動内容を解説する。アスレティックリハビリテーションを実施していくにあたり、必要な専門的基礎知識と計画の立案やリスク管理、医療行為との境界など必要な考え方を実行出来るようになる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	アスレティックリハビリテーションの概念と定義
2	アスレティックリハビリテーションの概要
3	アスレティックリハビリテーションの歴史
4	アスレティックリハビリテーションに必要な評価・検査
5	現場におけるATの活動と役割
6	科学としてのアスレティックリハビリテーションの捉え方
7	機能評価の考え方（目的、役割）
8	アスレティックリハビリテーションの進め方・組み立て方
9	痛みとアスレティックリハビリテーション
10	アスレティックリハビリテーションで用いる手法（筋力トレーニング、ストレッチング）
11	アスレティックリハビリテーションで用いる手法（物理療法、装具、テーピング）
12	スポーツ障害、外傷の管理
13	医療行為とアスレティックリハビリテーション
14	リスク管理の基礎知識
15	リスク管理・トレーナー倫理

【履修上の注意事項】

レポート等の提出期限の遵守と受講中の態度に注意すること。アスレティックリハビリテーションの歴史等について予習をしっかりと行い、また授業後の復習も行うこと。

【評価方法】

試験80%、課題レポート10%、自主的学習態度10%。

【テキスト】

アスレティックリハビリテーション 公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト7 日本体育協会

【参考文献】

スポーツリハビリテーション—最新の理論と実践— G. Sコルト、L. スナイダー=マクラー編 守屋秀繁 監訳 西村書店

アスレティックリハビリテーションⅠ

担当教員 常盤 直孝

配当年次 3年

開講時期 第1学期

単位区分 要件外

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

アスレティックリハビリテーションを実践していく上で必要な運動療法に関する基礎知識を習得する事が出来る。現場に必要な物理療法や装具に関する基礎知識を習得し、選手に正しい指導が出来るような理論と技術を習得することが出来る。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	運動療法とは
2	筋力トレーニングの基礎知識
3	ストレッチング、関節可動域改善エクササイズの基礎知識
4	神経筋協調エクササイズ
5	全身持久力回復・向上のエクササイズ
6	身体組成管理のためのエクササイズ
7	外傷予防のためのエクササイズ
8	再発予防、外傷予防のためのエクササイズ
9	物理療法総論
10	温熱療法と寒冷療法
11	各種電気療法、水治療法
12	装具総論
13	テーピングの効果と欠点
14	足底板療法
15	まとめ

【履修上の注意事項】

レポート等の提出期限の遵守と受講中の態度に注意すること。授業前にしっかりテキストを読み文献等で調べてくること。予習、復習をしっかりと行うこと。

【評価方法】

試験80%、課題レポート10%、自主的学習態度10%。

【テキスト】

アスレティックリハビリテーション 公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト7 日本体育協会

【参考文献】

スポーツリハビリテーションー最新の理論と実践ー G. Sコルト、L. スナイダー=マクラー編 守屋秀繁 監訳 西村書店

アスレティックリハビリテーションⅡ

担当教員 常盤 直孝

配当年次 3年

開講時期 第2学期

単位区分 要件外

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

アスレティックリハビリテーションの考え方と実技を学び、対象者に正しい指導が実践できる知識と技術の習得することが出来る。部位別や各疾患毎の病態や機能的問題の特徴を理解し、情報収集から機能評価、プログラムの実施まで実践出来るようになる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	外傷のアスレティックリハビリテーションの考え方
2	肩関節前方脱臼のアスレティックリハビリテーション
3	投球障害肩へのアスレティックリハビリテーション
4	肘関節、手関節障害へのアスレティックリハビリテーション
5	頸椎捻挫へのアスレティックリハビリテーション
6	腰部疾患へのアスレティックリハビリテーション
7	足関節捻挫へのアスレティックリハビリテーション
8	膝靭帯損傷へのアスレティックリハビリテーション
9	肉離れへのアスレティックリハビリテーション
10	慢性スポーツ外傷へのアスレティックリハビリテーション
11	アスレティックリハビリテーションにおける競技種目特性の考え方
12	動作特性と機能的要素
13	競技種目ごとの受傷機転と予防
14	競技種目ごとのリハビリテーションプログラム
15	まとめ

【履修上の注意事項】

レポート等の提出期限の遵守と受講中の態度に注意すること。テキストをしっかりと読み、文献等で調べ学習、復習をしっかりとすること。

【評価方法】

試験80%、課題レポート10%、自主的学習態度10%。

【テキスト】

アスレティックリハビリテーション 公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト7 日本体育協会

【参考文献】

スポーツリハビリテーションー最新の理論と実践ー G. Sコルト、L. スナイダー=マクラー編 守屋秀繁監訳 西村書店

スポーツコンディショニング

担当教員 平崎 和雄

配当年次 3年

開講時期 第2学期

単位区分 要件外

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

学修者が、様々な競技スポーツ特性を現場を通し見極め理解し、その競技特性にあったコンディショニングプログラムを立案できる能力を習得することができる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション (平崎・井手)
2	記録系競技のコンディショニング (1) 水泳競技 (平崎・井手)
3	記録系競技のコンディショニング (2) 陸上競技、自転車競技 (平崎・井手)
4	記録系競技のコンディショニング (3) ボート・カッター (平崎・井手)
5	記録系競技のコンディショニング (4) まとめと発表 (平崎・井手)
6	球技系競技のコンディショニング (1) サッカー、ラグビー、アメリカンフットボール (同上)
7	球技系競技のコンディショニング (2) バスケットボール、バレーボール、ハンドボール (同上)
8	球技系競技のコンディショニング (3) 野球、ソフトボール (平崎・井手)
9	球技系競技のコンディショニング (4) テニス、バドミントン (平崎・井手)
10	球技系競技のコンディショニング (5) まとめと発表 (平崎・井手)
11	採点系競技のコンディショニング (器械体操、新体操) (平崎・井手)
12	格技系競技のコンディショニング (柔道、レスリング、ボクシング) (平崎・井手)
13	採点・格技系競技のコンディショニング (まとめと発表) (平崎・井手)
14	冬季競技のコンディショニング (氷上種目、雪上種目) (平崎・井手)
15	冬季競技のコンディショニング (まとめと発表) (平崎・井手)

【履修上の注意事項】

アスレティックトレーナー資格取得の学生は履修すること
グループに分かれスポーツの現場を実際に体験・調査し発表する形式をとるので、校外の活動と校内活動のプレゼンテーションができるようにすること。授業前には、テーマとなる種目について調べ、授業後は資料を整理しておくこと

【評価方法】

調査・発表の内容、定期試験等を総合的に判断し評価する。

【テキスト】

公認アスレティックトレーナー専門テキスト 第6巻 予防とコンディショニング 財団法人 日本体育協会

【参考文献】

テーピングコンディショニング

担当教員 岩上 明治、未定

配当年次 2年

開講時期 第2学期

単位区分 要件外

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義では、学修者が障害予防および再発予防としてスポーツ現場で広く普及しているアスレティック・テーピング・テーピングについて学ぶ。講義の内容は、アスレティック・テーピングの特徴および効果、注意事項を把握し、傷害特性および競技特性について理解しながらテーピング技術を高める事ができるようになる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス (アスレティックトレーナーが行うテーピングについて) (岩上・井手)
2	アスレティック・テーピング総論 (外傷の予防、応急処置、再発予防、効果、有効性等) (同上)
3	足関節のテーピング 基本 (足関節内反捻挫 その他) (岩上・井手)
4	足関節のテーピング 応用 (足関節外反捻挫 その他) (岩上・井手)
5	足関節のテーピング (中足部、足底部) (岩上・井手)
6	下腿部のテーピング (下腿筋群、アキレス腱) (岩上・井手)
7	膝関節のテーピング (内反、外反に対するの固定) (岩上・井手)
8	膝関節のテーピング (前十字靭帯の固定) (岩上・井手)
9	太腿部・股関節のテーピング (大腿部の捻挫・打撲、股関節のバンテージ) (岩上・井手)
10	肩関節のテーピング (肩鎖関節、肩甲上腕関節) (岩上・井手)
11	肘関節のテーピング (内反及び外反屈伸障害) (岩上・井手)
12	手関節・手指のテーピング (母指、四指のDIP、PIP等) (岩上・井手)
13	応用的なテーピング (1～12の症状別テーピングを考慮する) (岩上・井手)
14	応用的なテーピング (総合して対応力をつけ反復練習) (岩上・井手)
15	まとめ (時間内に基本的なテーピングを巻ける様に) (岩上・井手)

【履修上の注意事項】

- ・以下の項目を受講していることが望ましい 「運動器の解剖と機能」「スポーツ外傷・障害の基礎知識」
- ・授業前にテキストのテーピングコンディショニングについて調べてくること。授業後に実習の内容を理解し反復練習すること。
- ・講義、および実習を行う際には適した服装で受講すること。適宜指示は行う。

【評価方法】

授業中の理解度30%、定期試験70%

【テキスト】

公認アスレティックトレーナー専門テキスト⑥

【参考文献】

ファンクショナルテーピング：川野哲英：ブックハウス エイチ デイ

健康教育概論

担当教員 井手 裕子

配当年次 1年

開講時期 第2学期

単位区分 要件外

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

現代の健康課題としての生活習慣病予防は、児童生徒期から健康問題に対する関心を喚起し、望ましい健康行動についての健康教育が重要となる。そこで、学修者は健康の概念を捉え、健康と関連する生活習慣について理解し、健康の保持増進のための生活習慣はどのようにあるべきかを将来の指導者という立場から自分の言葉で説明できるようになる。また、スポーツの効果や弊害についても理解したうえで、スポーツ指導者として自己の健康の保持増進を図り、健康教育を推進していくための知識を深め自ら実践することが出来るようになる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	健康とはー健康の概念
2	わが国の健康の指標と現状
3	健康増進
4	健康教育とは
5	生活習慣と健康
6	疾病の予防
7	健康管理の進め方
8	健康の実際
9	指導者の役割
10	文化としてのスポーツ
11	トレーニング論
12	スポーツにおける医学的知識
13	スポーツと栄養
14	指導計画と安全管理
15	ジュニア期のスポーツ

【履修上の注意事項】

アスレティックトレーナーを目指す学生は必ず受講すること。
毎時間配布する資料は必ず保管し、次回の講義に備えること。
授業後に復習しておくこと。

【評価方法】

レポート(20%)、自主的学修態度(10%)、試験等(70%)を総合的に判断し評価を行う。

【テキスト】

授業時にプリントを配布する。

【参考文献】

学生のための健康管理学 木村康一・熊澤幸子・近藤陽一
公認スポーツ指導者養成テキスト共通科目Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 日本体育協会

運動器の解剖と機能Ⅱ

担当教員 平崎 和雄

配当年次 2年

単位区分 要件外

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

学修者が、アスレティックトレーナーが行う、選手の動作の運動学的観察、スポーツ障害の評価、原因の同定、アスレティックリハビリテーションなどのトレーナー活動に必要な人体の構造と機能について身体各部位におけるスポーツ動作の関係やスポーツ障害発生メカニズムとを解剖学的・運動学的特徴について理解させることができる。

【授業の展開計画】

以下の項目について講義、実習形式で学習を進める。

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション
2	スポーツ動作・スポーツ傷害概論
3	体幹の解剖と機能（総論）
4	体幹の解剖と機能（脊柱）
5	体幹の解剖と機能（頸部）
6	体幹の解剖と機能（胸部）
7	体幹の解剖と機能（腰部）
8	上肢帯の解剖と機能
9	肩関節の解剖と機能
10	肘関節の解剖と機能
11	手関節・手の
12	下肢帯の解剖と機能
13	股関節の解剖と機能
14	膝関節の解剖と機能
15	足関節・足の解剖と機能

【履修上の注意事項】

アスレティックトレーナーの資格を目指すものは必ず履修のこと。
すでに「運動器の解剖と機能Ⅰ」を履修しておくこと。
授業の前に今回の実施部位の起始、停止、作用など予習し
授業後は、実施部位の起始、停止、作用を復習すること。

【評価方法】

おおよそ口頭試問試験70%、課題レポート20%、予習復習による自主的学習態度10%

【テキスト】

公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 第2巻 「運動器の機能と解剖」

【参考文献】

「解剖学」「生理学」のテキスト

アスレティックトレーナー専門実習 I

担当教員 平崎 和雄、井手 裕子

配当年次 2年

開講時期 第1学期

単位区分 要件外

授業形態 実習

単位数 1

準備事項

備考

【授業のねらい】

学修者が、公認アスレティックトレーナーの指導管理の下に、主にアスレティックトレーナーの活動するスポーツ現場および医療現場等へ出向き、その活動を見学しアスレティックトレーナーの活動を知ることができる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション (90分)
2	スポーツ現場活動実習 (900分)
3	医療施設現場活動実習 (720分)
4	まとめ (90分)
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

【履修上の注意事項】

アスレティックトレーナー資格取得希望者は履修のこと。
実習日誌をつけレポートの提出を義務付ける。
すでに「アスレティックトレーナー概論」を履修していることを条件とする。

【評価方法】

実習態度、実習日誌の内容を総合的に判断し評価する。

【テキスト】

公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 第1巻 アスレティックトレーナーの役割
財団法人 日本体育協会

【参考文献】

アスレティックトレーナー専門実習Ⅱ

担当教員 平崎 和雄、井手 裕子

配当年次 2年

開講時期 第2学期

単位区分 要件外

授業形態 実習

単位数 1

準備事項

備考

【授業のねらい】

学習者が、公認アスレティックトレーナーの指導管理の下に、スポーツ選手の体力測定および傷害の評価、メディカルチェックなどの検査・測定と評価とアスレティックリハビリテーションプログラム作成を実習することができる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション (90分)
2	検査・測定の評価 (180分)
3	検査・測定の実施 (270分)
4	検査・測定データの整理 (180分)
5	検査・瘦躯亭結果のフィードバック内容の検討 (180分)
6	検査・測定結果のフィードバック (180分)
7	再評価・個別評価 (180分)
8	アスレティックリハビリテーションプログラム作成 (270分)
9	アスレティック・リハビリテーションプログラムフィードバック (180分)
10	まとめ
11	
12	
13	
14	
15	

【履修上の注意事項】

アスレティックトレーナー資格取得希望者は履修のこと
実習日誌をつけレポートの提出を義務付ける

アスレティックトレーナー専門実習Ⅰを履修するに必要な科目に、「トレーニング科学」「スポーツ心理学」：
「運動器の解剖と機能Ⅰ」「運動器の解剖と機能Ⅱ」「スポーツ社会学」を履修していることを条件とする

【評価方法】

実習態度、実習日誌の内容を総合的に判断し評価する

【テキスト】

公認アスレティックトレーナー専門テキスト 第5巻 検査測定と評価 財団法人 日本体育協会

【参考文献】

アスレティックトレーナー専門実習Ⅲ

担当教員 平崎 和雄、井手 裕子

配当年次 3年

開講時期 第1学期

単位区分 要件外

授業形態 実習

単位数 1

準備事項

備考

【授業のねらい】

学習者が、公認アスレティックトレーナーの指導管理の下に、スポーツ現場へ出向き、スポーツ選手に対してストレッチングの指導およびストレッチングの補助を行うとともに、テーピングを要する選手に対してテーピングを実施する。また、スポーツ活動中に発生した傷害に対しての応急処置を行うことができる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション (90分)
2	ストレッチングの指導 (270分)
3	ストレッチングの補助 (360分)
4	テーピング (360分)
5	応急処置 (270分)
6	アフターケア (360分)
7	まとめ
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

【履修上の注意事項】

アスレティックトレーナー資格希望者は履修のこと。実習日誌をつけレポート提出を義務付ける。アスレティックトレーナー専門実習Ⅱを履修するに必要な科目に「身体の測定評価」「スポーツコンディショニング概論」「テーピングコンディショニング」「救急処置法」「スポーツ栄養学」「コーチング論」「トレーニング論」「スポーツ指導論」「メンタルマネジメント論」「スポーツ医学概論」「生活栄養学」を履修していること

【評価方法】

実習態度・実習日誌の内容を総合的に判断し評価する

【テキスト】

公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 第6巻 予防とコンディショニング 第8巻 救急処置
財団法人 日本体育協会

【参考文献】

アスレティックトレーナー専門実習Ⅳ

担当教員 平崎 和雄、井手 裕子

配当年次 3年

開講時期 第2学期

単位区分 要件外

授業形態 実習

単位数 1

準備事項

備考

【授業のねらい】

学習者が、公認アスレティックトレーナーの指導管理の下に、スポーツ選手の障害に対して競技復帰までのリハビリテーション計画を立て、そのリハビリテーションにおいて評価およびエクササイズの指導・補助を行うことができる

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション (90分)
2	上肢のアスレティックリハビリテーション (450分)
3	下肢のアスレティックリハビリテーション (450分)
4	体幹のアスレティックリハビリテーション (450分)
5	患部外トレーニング (270分)
6	まとめ (90分)
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

【履修上の注意事項】

アスレティックトレーナー資格取得希望者は履修のこと。実習日誌をつけレポートの提出を義務付けるアスレティックトレーナー専門実習Ⅲを履修するに必要な科目に、「運動生理学」「臨床医学各論Ⅲ」「スポーツ傷害の評価」「スポーツコンディショニング」「発育発達論」「スポーツ経営学」を履修していることを条件とする

【評価方法】

実習態度・実習日誌の内容を総合的に判断し評価する

【テキスト】

公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 第3巻 スポーツ外傷・障害の基礎知識
第7巻 アスレティックリハビリテーション 財団法人 日本体育協会

【参考文献】

アスレティックトレーナー専門実習 V

担当教員 平崎 和雄、井手 裕子

配当年次 4年

開講時期 第1学期

単位区分 要件外

授業形態 実習

単位数 1

準備事項

備考

【授業のねらい】

学習者が、公認アスレティックトレーナーの指導管理の下に、スポーツ現場や医療機関等におけるアスレティックトレーナーの活動についてアスレティックトレーナー専門実習 I～IVを活かし総合的に実習することができる。

【授業の展開計画】

1. オリエンテーション (90分)
2. 総合実習 (1620分)
3. まとめ (90分)

【履修上の注意事項】

実数日誌をつけレポートの提出を義務付ける。

アスレティックトレーナー専門実習IVを履修するに必要な科目に「バイオメカニクス」「臨床医学各論IV」「健康管理とスポーツ医学」「アスレティックリハビリテーション概論」「アスレティックリハビリテーションI」を履修していることを条件とする。

【評価方法】

実習態度、実習日誌の内容を総合的に判断し評価する

【テキスト】

公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 第1～9巻 財団法人 日本体育協会

【参考文献】

アスレティックトレーナー専門実習Ⅵ

担当教員 平崎 和雄、井手 裕子

配当年次 4年

開講時期 第2学期

単位区分 要件外

授業形態 実習

単位数 1

準備事項

備考

【授業のねらい】

学修者が、公認アスレティックトレーナーの指導管理の下に、スポーツ現場や医療機関等におけるアスレティックトレーナーの活動についてアスレティックトレーナーⅤの総合実習の経緯を活かし総合的に実習することができる。

【授業の展開計画】

スポーツ現場および医療機関等に出向き実習する

1. オリエンテーション（90分）
2. 総合実習（1620分）
3. まとめ（90分）

【履修上の注意事項】

実習日誌をつけレポートの提出を義務付ける
アスレティックトレーナー専門実習Ⅴを履修するに必要な科目に、「アスレティックリハビリテーションⅡ」を履修していることを条件とする

【評価方法】

実習態度、実習日誌の内容を総合的に判断し評価する

【テキスト】

公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 第1～9巻 財団法人 日本体育協会

【参考文献】

フィットネスマネジメント実習

担当教員 平崎 和雄、井手 裕子

配当年次 3・4年

開講時期 第1学期

単位区分 要件外

授業形態 実習

単位数 1

準備事項

備考 平成30年度は3年次及び4年次の合同開講

【授業のねらい】

学修者が、健康運動を指導する者として知識・技術を身につけることができるとともに、健康・体力づくりの現場でのさまざまなニーズに対応できる実践的な指導力を身に付けさせることができる。健康運動指導の際に必要なスキルを確認し、その指導に基づく結果のフィードバック方法や利用者とのコミュニケーション方法など、健康運動指導士としての実践能力を体験・理解することができる。

【授業の展開計画】

1. 学内トレーニングルーム等での基礎的実習 <井手・平崎>
2. 見学実習（民間フィットネスクラブ） <井手・平崎>
3. 見学実習（公共体育施設） <井手・平崎>
4. 見学実習（医療機関併設施設） <井手・平崎>
5. 見学実習（介護予防施設） <井手・平崎>
6. 施設実習（7日間以上） <井手・平崎>

【履修上の注意事項】

実習参加に当たっては、前回の実習の課題を抽出しその日の目的・計画等を立て実習終了後は、カンファレンスを行い、実習日誌をつけ提出をすることを義務づける。履修届には、施設実習費用が必要です

【評価方法】

施設実習先健康運動指導士の評価と担当教員により評価する

【テキスト】

【参考文献】

スポーツ医学演習

担当教員 平崎 和雄、井手 裕子、齋田 和孝

配当年次 3年

開講時期 第1学期

単位区分 要件外

授業形態 演習

単位数 1

準備事項

備考

【授業のねらい】

学修者が、メディカルチェックの重要性と心電図の基礎を理解し、運動負荷試験の検査の目的、適応、禁忌、合併症、運動負荷の様式、装置、プロトコルなど準備、実際、その判定の実際と個人差について理解でき、各種の運動負荷試験を実習することで理解を深めることができる。

【授業の展開計画】

以下の項目について講義、実習形式で学習を進める

週	授 業 の 内 容
1	健診結果の読み方（平崎）
2	心電図の基礎と記録法（安静時心電図の読み方）（平崎）
3	運動負荷試験の実際（齋田）
4	運動負荷試験の実習（トレッドミル、エルゴメーター）（齋田・井手・平崎）
5	運動負荷試験の実習（ホルター心電図あるいはテレメーター心電図の実際）（齋田・井手・平崎）
6	運動負荷試験の実習（潜水反射試験）（齋田・井手・平崎）
7	運動負荷試験の実習（呼気分析）（齋田・井手・平崎）
8	運動負荷試験の運動時の安全管理（平崎）
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

【履修上の注意事項】

健康運動指導士受験資格を希望する学生は必ず履修のこと。
授業後に復習をしておくこと。

【評価方法】

受講態度・レポート・小テスト40%・試験60%

【テキスト】

必要に応じてプリントを配布する

【参考文献】

健康運動指導士養成講習会テキスト（下）

運動処方論

担当教員 未定

配当年次 2年

単位区分 要件外

開講時期 第2学期

授業形態 講義・演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

運動処方の目的は、第一に健康維持を意図して行われるものである。そのため、運動の効用を最大限に引き出し、危険性を最小限に抑えることが非常に重要となる。学修者は、運動による健康の維持・増進について具体的な方法を学び、各個人に適した運動処方を提供できるよう、運動の強度と身体への反応との関係を学びながら、健康状態に合わせた運動の種類や強度、時間と頻度を適切に判断し、生活習慣病に対する運動プログラムを立案・実践出来るようになる。

【授業の展開計画】

以下の項目について講義、および実習形式で学修を進める

週	授 業 の 内 容
1	健康と体力の考え
2	健康づくりのための運動
3	運動基準と運動・身体活動のガイドライン
4	運動によるエネルギー消費とMETs
5	運動プログラムの作成の理論
6	ロコモティブシンドローム
7	メディカルチェックの重要性と安全対策
8	健診結果による効果判定
9	運動行動変容のためのカウンセリング技術
10	肥満・メタボリックシンドロームと運動
11	糖尿病・脂質異常症・高血圧症の運動処方
12	介護予防のための運動処方
13	運動実践実習（体力測定）
14	運動実践実習（運動指導）
15	運動実践実習（運動処方）

【履修上の注意事項】

各種の疾患についてその発症と進行の予防およびその対策としての運動療法について学ぶので、授業の際には運動ができる服装で参加すること。

授業後に復習しておくこと。

3回の運動実践実習（学内・学外）に必ず参加すること。

【評価方法】

自主的学修態度(10%)・レポート(10%)・プレゼンテーション(20%)・試験等(60%)を総合的に判断し評価する。

【テキスト】

授業時にプリントを配布する

【参考文献】

健康運動指導士養成講習会テキスト(上)(下)

エアロビッグ演習

担当教員 藤崎 道子

配当年次 3・4年

開講時期 第1学期

単位区分 要件外

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考 平成30年度は3年次及び4年次の合同開講

【授業のねらい】

本講座ではより実践的な運動指導者のスキルを高めるため、指導論やプログラム作成能力向上を中心に進めていきます。運動を実際に指導するスキル（コミュニケーションや実技技能）を身につけることができる。参加者の動機づけにつながる言葉かけができるようになる。エアロビッグダンスの指導技術を習得できる。

【授業の展開計画】

- 1 健康運動実践指導者に求められるもの・現代における運動の位置づけとこれからの指導者の役割
- 2 エアロビッグダンス演習① ウォーミングアップの考え方と指導法
- 3 エアロビッグダンス演習② ウォーミングアップ指導の実際
- 4 エアロビッグダンス演習③ メインエクササイズプログラムの立て方
- 5 エアロビッグダンス演習④ メインエクササイズ指導法
- 6 エアロビッグダンス演習⑤ クールダウン&リラクゼーション法
- 7 エアロビッグダンス演習⑥ 健康運動実践指導者実技試験対策
- 8 アクアエクササイズ演習① 水中ウォーキング指導法
- 9 アクアエクササイズ演習② 水中レジスタンス運動指導法（陸上での指導演習）
- 10 アクアエクササイズ演習③ 水中レジスタンス運動指導法（水中での指導演習）
- 11 アクアエクササイズ演習④ アクアダンス（アクアビクス）指導の考え方と指導法
- 12 アクアエクササイズ演習⑤ 健康運動実践指導者実技試験対策
- 13 レジスタンス運動演習① レジスタンス運動の指導法
- 14 ストレッチ運動演習① ストレッチ運動の指導法
- 15 まとめ

【履修上の注意事項】

健康運動実践指導者の資格取得に向けた講義となります。受講者は資格取得の意思があるものとみなします。指導者としてふさわしい態度で臨むこと。エアロビッグ実習も履修していること。毎時間の学習記録ノートを作成すること。水中運動のメリットについて調べておくこと。

【評価方法】

実技試験50%、レポート50%

【テキスト】

【参考文献】

アクアエクササイズ指導教本、エアロビッグダンスエクササイズ指導理論、健康運動実践指導者用テキスト（以上、公益社団法人 日本フィットネス協会発行）

スポーツ外傷・障害の基礎知識 I

担当教員 忽那 龍雄、矢澤 克典、平崎 和雄

配当年次 3年

開講時期 第1学期

単位区分 要件外

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

学修者が、アスレティックトレーナー活動を行う上で必要なスポーツ外傷・障害の基礎的知識について理解できるようにする。そのために上肢・体幹・下肢の主なるスポーツ外傷の病態、評価方法及を習得できるようにする。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション (平崎)
2	概論：外傷と障害・治癒過程 (忽那)
3	肩の外傷 (矢澤)
4	肩の障害 (矢澤)
5	頸部の外傷 (忽那)
6	頸部の障害 (忽那)
7	肘・手部の外傷 (忽那)
8	肘・手部の障害 (平崎)
9	大腿部の外傷 (忽那)
10	大腿部の障害 (忽那)
11	膝の外傷 (矢澤)
12	膝の障害 (矢澤)
13	足部の外傷 (忽那)
14	足部の障害 (忽那)
15	まとめ (平崎)

【履修上の注意事項】

授業前にはテキストを読みあらかじめ予習し不明なことは調べてくること、授業後はノートを整理しておくこと。

【評価方法】

試験 80%、授業の態度 20%

【テキスト】

公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 第3巻 スポーツ外傷・障害の基礎知識 (各自で、日体協web、FAXから購入してください)

【参考文献】

スポーツ外傷・障害の基礎知識Ⅱ

担当教員 忽那 龍雄、矢澤 克典、平崎 和雄

配当年次 3年

開講時期 第2学期

単位区分 要件外

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

学修者が、アスレティックトレーナー活動を行う上で必要なスポーツ外傷・障害の基礎知識について理解できるようになる。そのために重篤な外傷、その他の外傷、年齢・性別によるスポーツ外傷の特徴を習得できるようにする。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション (平崎)
2	頭蓋脳震盪 (忽那)
3	脊髄損傷 (矢澤)
4	胸腹部 (忽那)
5	大出血 (忽那)
6	顔面 (忽那)
7	目 (忽那)
8	鼻 (忽那)
9	耳 (矢澤)
10	歯 (矢澤)
11	女性 (忽那)
12	成長期 (忽那)
13	高齢者 (平崎)
14	スポーツ整形外科メディカルチェック (矢澤)
15	まとめ (平崎)

【履修上の注意事項】

授業前にはテキストを読みあらかじめ予習し不明なことは調べてくること。授業後はノートを整理しておくこと。

【評価方法】

試験 80%、授業の態度 20%

【テキスト】

公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 第3巻 スポーツ外傷・障害の基礎知識 (各自で、日体協WEB、FAXから購入下さい。)

【参考文献】

5 教職に関する科目

教職論

担当教員 嶋 政弘

配当年次 1年

単位区分 要件外

準備事項

備考

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

- 1 教員の身分と役割, 義務と裁量権について理解する。
- 2 最近の, 教員を取り巻く状況や課題について理解する。
- 3 教員に関わる教育制度, 学校の組織構造, 学級経営の現代的問題理解を通して, 求められる新しい教師像と専門性について考察することができる。

【授業の展開計画】

授業の概要

授業においては, 各回のテーマに関連のあるニュース等を資料にするなど, 具体的な事象を基に考える場面づくりを設定する。

また, ペアによるディスカッションを随所に仕組んだ講義を中心に進め, 提示または配布した資料を基に自分の考えを導き出すような展開にする。

授業計画

- 第1回: 教職とは何か 教師の役割と使命感
- 第2回: 教職の意義と教員の立場
- 第3回: 教員の服務義務 (法的義務と現状)
- 第4回: 教育をめぐる現状と求められるもの
- 第5回: 社会と教員に求められる資質能力
- 第6回: 校務分掌と教員の多様な仕事
- 第7回: 教師間の仕事量の均衡と公務員制度
- 第8回: 一人一人の児童・生徒を守る教師
- 第9回: 児童・生徒のための学校に
- 第10回: 学校・家庭・地域の役割と連携
- 第11回: 教員の資質の向上と研修制度
- 第12回: 教員の専門性の向上 免許更新制と教職大学院
- 第13回: 教員の不祥事とその背景にあるもの
- 第14回: 任命権者と教員採用の在り方
- 第15回: 教職への道

【履修上の注意事項】

- 1 ペアを中心としたディスカッションをするため, ペアをつくって着席する。
- 2 すべてのペアに発言の機会があるので, 常に自分の考えを持って参加する。

【評価方法】

ディスカッションへの参加40%, 課題提出20%, 期末試験40%で評価する。
追試験はしない

【テキスト】

使用しない。

【参考文献】

毎回, 資料 (学習プリント) を配布する。
参考資料については, 授業中に随時提示する。

教育原理

担当教員 山本 孝司

配当年次 2年

開講時期 第1学期

単位区分 要件外

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

- 1) 教育の基本的概念を身に付けるとともに、教育を成り立たせる諸要因とそれら相互の関係を理解する。
- 2) 教育の歴史に関する基礎的知識を身に付け、それらと多様な教育の理念との関わりや過去から現代に至るまでの教育及び学校の変遷を理解する。
- 3) 教育に関する様々な思想、それらと多様な教育の理念や実際の教育及び学校との関わりを理解する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	教育とは何か／講義の目的・概要と進め方について
2	教育の目的と本質
3	教育と人間発達（1）発達のメカニズム
4	教育と人間発達（2）レディネスと教育
5	教育と社会／教育の理念についての理解
6	諸外国における教育の歴史と思想（1）古代の教育
7	諸外国における教育の歴史と思想（2）中世・近世の教育
8	諸外国における教育の歴史と思想（3）近代の教育
9	近代教育への批判と新教育運動の思想・実践（1）ヨーロッパ
10	近代教育への批判と新教育運動の思想・実践（2）アメリカ進歩主義教育
11	わが国における教育の歴史と思想（1）戦前
12	わが国における教育 歴史と思想（2）戦後
13	教育における家庭の役割
14	社会のなかの子どもの変化
15	今日の子どものめぐる諸問題（いじめ、不登校などをめぐる状況と学校教育の在り方）

【履修上の注意事項】

授業には参加的態度で臨むこと。
 その他、授業外でも教育にかかわる情報をキャッチする鋭敏なアンテナを持ち合わせて欲しい。
 事前にテキストを読み、事後は復習しておくこと。

【評価方法】

原則として学期末試験（70%）、小レポート（30%）を評価の対象とする。

【テキスト】

石村華代・軽部勝一郎編著『教育の歴史と思想』ミネルヴァ書房、2013年。

【参考文献】

授業時に適宜紹介する。

教育行政論

担当教員 嶋 政弘

配当年次 3年

単位区分 要件外

準備事項

備考

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

- 1 教育行政の基本概念を理解し、教育行政をめぐる諸問題について自分の考えを持つことができる。
- 2 日本国憲法及び教育基本法から導き出される教育の基本原則、及びその意義を理解する。
- 3 学校教育における具体的な事例について、その多くが教育行政と密接に関連していることを理解する。

【授業の展開計画】

学校教育における様々な場面において、事例や判例を基に、学校教育に関する様々な場面や課題を想定し、その実態と問題点に視点を向けさせる。

次に、その根拠となる関連法規や資料を判断基準として、実際の場面ではどのように判断すべきかについてのディスカッションを中心に展開する。

授業計画

第1回：学校教育制度の目的と構造

第2回：教育行政① 教育委員会の組織・機能、教職員の人事権

第3回：教育行政② 学校選択制の拡大、教育振興基本計画

第4回：学校組織① 校長の職務と権限と職員会議の機能

第5回：学校組織② 校長、副校長、教頭の資格要件とその緩和

第6回：学校組織③ 養護・栄養・図書教諭等の職務

第7回：教職員① 教員の身分と職務・サービス

第8回：教職員② 指導力不足の教員の人事管理と教員の研修体系

第9回：教職員③ 教員免許更新制と教職大学院の役割・機能

第10回：教育課程① 学習指導要領の法的拘束力と基準性

第11回：教育課程② 学習指導要領とその改訂

第12回：教育課程③ 教科書採択制度

第13回：児童・生徒への対応① 登下校時を含む安全の確保と現代的課題

第14回：児童・生徒への対応② 学校事故における法的責任

第15回：児童・生徒への対応① 懲戒の範囲と体罰、出校停止

定期試験 試験期間中に実施

・知識・理解（基本的事項や学習指導の理解）、学んだことを学習指導に生かす姿勢

【履修上の注意事項】

- 1 ペアによるディスカッションをするため、ペアを作って着席する。
- 2 すべてのペアに発言の機会があるので、常に自分の考えを持って参加する。

【評価方法】

ディスカッションへの参加40%、課題提出20%、期末試験40%で評価する。

追試験は実施しない。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献】

毎回、資料を配布する。参考資料については、授業の中で随時提示する。

教育課程論

担当教員 山本 孝司

配当年次 2年

開講時期 第1学期

単位区分 要件外

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

- 1) 学校教育において教育課程が有する役割や機能、並びに意義を理解する。
- 2) 教育課程編成の基本原則、並びに学校の教育実践に即した教育課程編成の方法を理解する。
- 3) 教科・領域・学年をまたいでカリキュラムを把握し、学校教育課程全体をマネジメントすることの意義を理解する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	教育課程とは：教育課程の意義
2	教育の目的と教育課程の編成原理
3	教育課程の歴史的展開と教育方法
4	日本における教育課程の歩み：戦前
5	日本における教育課程の歩み：戦後
6	教育課程の法と行政
7	学習指導要領の特徴と変遷（1）経験主義から系統主義、教育の現代化
8	学習指導要領の特徴と変遷（2）「ゆとり教育」と新学力観、「脱ゆとり教育」
9	教科・領域を横断して教育内容を選択・配列する方法
10	児童又は生徒や学校、地域の実態を踏まえた教育課程や指導計画
11	学校教育課程全体のマネジメントおよび学習指導要領に規定する教育課程のマネジメント
12	授業計画（学習指導案）の作成
13	授業計画（学習指導案）の発表と相互検討
14	教育課程の経営と評価
15	今日の教育課題と教育課程：「学力」をどう捉えるか

【履修上の注意事項】

上記の計画は、受講者の数及びニーズに応じて一部変更する場合があります。事前にテキストを読み、事後は復習しておくこと。

【評価方法】

期末試験70%＋リフレクションペーパー30%を原則とし、総合的に評価する。

【テキスト】

広岡義之『はじめての教育課程論』ミネルヴァ書房、2016年

【参考文献】

『学習指導要領』

保健体育科教育法 I

担当教員 則元 志郎

配当年次 3年

開講時期 第1学期

単位区分 要件外

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

教科教育学は教員免許に養成に関わる重要な授業科目であり、本科目はそのうちの保健体育科教育を扱う。保健体育科教育は基礎的内容であり、主に保健体育科の目的・内容、教育課程、社会変化と学校体育、運動の特性論、教授－学習過程論、学習指導要領、授業計画の立て方・考え方、体育評価論などについて学習する。到達目標として、保健体育科教育法について保健体育教員の立場から、各論を理解したうえで体育実践を指導できるようになる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	保健体育科教育 総論
2	目的・目標論（保健体育科の目的・目標の変遷と現代的課題）
3	内容論 1（学習指導要領における内容の捉え方）
4	内容論 2（教科内容の基準と系統化）
5	教材論 1（教材と教科内容の関係）
6	教材論 2（教材研究と教材化の視点）
7	運動領域論（学習指導料における運動領域の捉え方）
8	指導方法論（学習としての体育、「めあて学習」の見方・考え方）
9	学習形態論（グループ学習の基本的要素と構成）
10	学習計画論（年間計画、単元計画、指導案の考え方）
11	授業づくり論 1（授業づくりの視点）
12	授業づくり論 2（授業づくりの実際）
13	学習評価論（評価基準と評価内容、指導と評価）
14	教師論（保健体育教師の資質と能力）
15	授業全体の総括

【履修上の注意事項】

授業前に配布した資料（テキスト）を読み、次回の内容について予習しておくこと。さらに、授業後には復習も行うこと。

【評価方法】

課題レポート（5回）100%

【テキスト】

授業時にテキストとなる資料を配布する。

【参考文献】

竹田・高橋・岡出編著『体育科教育学の探求』大修館書店、文部科学省『学習指導要領 保健体育編』学校体育研究同志会編『体育実践に新しい風を一教科内容を軸に体育実践を創る一』大修館書店

保健体育科教育法Ⅱ

担当教員 末松 大喜

配当年次 3年

開講時期 第2学期

単位区分 要件外

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

- ①健康観の変遷を理解し、国民健康の現状と課題を説明できる。
- ②高校生期における保健学習はどのようにあるべきかを説明できる。
- ③高校生期の「心と体を一体としてとらえる」とした教科目の中身を理解し、模擬授業を実践できる。

【授業の展開計画】

保健体育科の教科目標である「心と体を一体としてとらえる」という内容を正しく理解する。また、高校生期にとって「おもしろい保健の授業」を展開することができる、保健教科に秀でた保健体育科教師としての力量を高められるように進めたい。

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション（講義の進め方、受講する際の留意事項、保健教科目の性格等）
2	健康科学概論（食事、運動、休養とヘルスプロモーションの意味）
3	高等学校保健体育科教師としての健康哲学
4	高等学校学習指導要領保健体育の教科目と指導案
5	高校生期の発育の特徴
6	高校生期の発達の特徴
7	精神の健康
8	保健科教育の授業づくり
9	課題レポート（自分が受けた高校生期の保健科教育）バズセッションと全体討議
10	安全教育・安全管理・救急法
11	授業書方式による「環境と健康」
12	授業書方式による「環境と食品の保健」
13	授業書方式による「労働と健康」
14	飲酒・喫煙・薬物乱用防止
15	思春期と健康、結婚生活

【履修上の注意事項】

各時間の講義課題を明確にして、出席すること。過去受講した健康教育を振り返り、何が良くて、改善すべきことは何かについて、考えておくこと。

【評価方法】

期末試験（40%）、課題レポート・授業参画態度（60%）

【テキスト】

最新「授業書」方式による保健の授業 保健科教材研究会 編 大修館書店
 高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編 文部科学省（平成21年）

【参考文献】

現代保健学習・指導事典 保健科教材研究会 編 大修館書店
 高等学校学習指導要領 文部科学省（平成21年）

保健体育科教育法Ⅲ

担当教員 堤 公一

配当年次 3年

開講時期 第1学期

単位区分 要件外

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本授業のねらいは、中学校保健体育教員として必要な実践的指導力を養うことである。そのための到達目標は、以下の通りである。

- 1 中学校保健体育科の授業構成・学習指導・授業分析・評価などの基本的な考え方を理解することができる。
- 2 学習指導要領において取り上げられている体育分野領域「体づくり運動」「器械運動」「陸上競技」「水泳」「球技」「ダンス」「武道」についての授業づくり・授業研究の方法を理解することができる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション（授業の目標と概要、成績評価について）
2	体育のこれまでとこれから（学習指導要領と保健体育科の変遷）
3	体育の目標・カリキュラム・学習内容（運動の特性と分類）
4	体育の学習指導法（体育におけるICT利活用）
5	体育の授業づくり①（体育授業の条件）
6	体育の授業づくり②（体育授業と評価）
7	体育の授業づくり③（体育授業のリフレクション）
8	体育の授業づくり④（体づくり運動・器械運動・陸上競技・水泳・球技・武道・ダンス・体育理論）
9	体育の模擬授業実践演習①（学習指導案の作成）
10	体育の模擬授業実践演習②（学習カードの作成）
11	体育の模擬授業実践演習③（模擬授業実践「ねらい1」）
12	体育の模擬授業実践演習④（模擬授業実践「ねらい2」）
13	体育の模擬授業実践演習⑤（模擬授業実践「ねらい1」リフレクション）
14	体育の模擬授業実践演習⑥（模擬授業実践「ねらい2」リフレクション）
15	総括リフレクション（模擬授業実践演習レポート作成についての検討）

【履修上の注意事項】

授業回数の2/3以上の出席がない者は、試験を受験することができない。教室での講義だけではなく、授業づくりの演習として模擬授業を行うので、運動のできる服装および屋外屋内シューズを準備すること。授業づくりの演習では授業づくり担当者を割り振るので、その役割をきちんと果たすこと。

授業以外の学習として、授業前にテキストを読むなどして、各回の予定内容について予習を行うこと。授業後には講義内容についてのリフレクションや整理を行い復習をしておくこと。

【評価方法】

試験50%、模擬授業実践演習レポート（学習指導案・学習カード・模擬授業実践・リフレクションを含む）50%

【テキスト】

文部科学省（2008）「中学校学習指導要領解説 保健体育編」東山書房

高橋健夫・岡出美則・友添秀則・岩田靖編著（2010）「新版 体育科教育学入門」大修館書店

【参考文献】

北尾倫彦監修（2012）「平成24年版観点別学習状況の評価基標準と判定基準中学校保健体育」図書文化

高橋健夫（2003）「体育の授業を観察評価する」明和出版

保健体育科教育法Ⅳ

担当教員 末松 大喜

配当年次 3年

開講時期 第2学期

単位区分 要件外

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

- ①健康とは何か、時代と共に健康に対する考えがどのように変遷したのかについて説明できる。
- ②現代社会の健康状況を把握し、中学校期における保健学習の進め方について説明できる。
- ③中学生期の「心と体を一体としてとらえる」とした教科目標を理解し、模擬授業を实践できる。

【授業の展開計画】

保健体育科の教科目標である「心と体を一体としてとらえる」という内容を正しく理解する。また、中学生にとって「おもしろい保健の授業」を展開することができる、保健教科に秀でた保健体育科教師としての力量を高められるように進めたい。

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション（講義の進め方、受講する際の留意事項、保健教科目の性格等）
2	健康学概論
3	中学校保健体育科教師としての健康哲学
4	中学校学習指導要領保健体育の教科目標と指導案
5	中学生期の発育の特徴
6	中学生期の発達の特徴
7	健康と環境
8	良い保健科の授業と悪い保健科の授業
9	保健科教育教材内容の構造化
10	課題レポート（自分が受けた中学校期の保健科教育）バズセッションと全体討議
11	仮説実験授業、授業書方式と保健科教育
12	健康と環境
13	保健科教育と安全教育
14	保健科教育と喫煙・飲酒・薬物乱用防止教育
15	感染症予防と慢性疾患の予防

【履修上の注意事項】

各時間の講義課題を明確にして、出席すること。過去受講した健康教育を振り返り、何が良くて、改善すべきことは何かについて、考えておくこと。

【評価方法】

期末試験（40%）、課題レポート・授業参画態度等（60%）

【テキスト】

新版 保健の授業づくり入門 森昭三 和唐正勝 編著 大修館書店
新しい体育の授業づくり 勝亦紘一 家田重晴 著 大日本図書

【参考文献】

仮説実験授業のABC 板倉聖宣 著 仮説者
中学校学習指導要領解説 保健体育編 文部科学省（平成20年）

道徳教育論

担当教員 山本 孝司

配当年次 3年

開講時期 第2学期

単位区分 要件外

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

- 1) 道徳の意義や原理等を踏まえ、学校における道徳教育の目標や内容を理解する。
- 2) 学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科における指導計画や指導方法を理解する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	道徳教育の歴史や現代社会における道徳教育の課題（いじめ、情報モラル等）
2	道徳教育の本質
3	学習指導要領に示された道徳教育及び道徳科の目標及び内容
4	道徳性 1（道徳教育の原則からみた道徳性）
5	道徳性 2（コールバーグの道徳性発達理論）
6	日本における道徳教育の史的展開
7	学校における道徳教育の現状（新基本法と学習指導要領）
8	「特別の教科 道徳」について
9	道徳科の特質を生かした多様な指導方法の特徴
10	道徳科における教材の特徴を踏まえた授業設計
11	道徳授業の指導計画
12	道徳科の学習指導案の作成（模擬授業 1）
13	道徳科の学習指導案の作成（模擬授業 2）
14	道徳科の特性を踏まえた学習評価の在り方
15	道徳教育に関する今後の課題

【履修上の注意事項】

授業内ではディスカッション・ディベート等、話し合い活動を取り入れることが多い。
 参加的態度で臨むこと。
 教育界における「常識」をラディカルな次元に立ち返り疑ってみる鋭敏なセンスを養って欲しい。
 事前に資料を読み、事後は復習しておくこと。

【評価方法】

原則として学期末試験（70％）、小レポート（30％）を評価の対象とする。

【テキスト】

石村秀登・末次弘幸編著『道徳教育の理論と実践』大学教育出版（2018年3月）

【参考文献】

『「道徳」授業に何が出来るか』／宇佐美寛／明治図書

特別活動論

担当教員 山本 孝司

配当年次 1年

開講時期 第2学期

単位区分 要件外

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

- 1) 特別活動の意義、目標及び内容を理解する。
- 2) 特別活動の指導の在り方を理解する。
- 3) 総合的な学習の時間の意義や、各学校において目標及び内容を定める際の考え方を理解する（指導計画作成、評価を含む）。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	学習指導要領における特別活動の目標及び内容
2	教育課程における特別活動の位置付けと各教科等との関連
3	学級活動・ホームルーム活動の特質
4	児童会・生徒会活動の特質
5	クラブ活動の特質
6	学校行事の特質
7	教育課程全体における特別活動の指導の在り方
8	特別活動における取組の評価・改善活動
9	合意形成に向けた話し合い活動、意思決定につながる指導及び集団活動の意義と指導の在り方
10	特別活動における家庭・地域住民や関係諸機関との連携の在り方
11	「総合的な学習の時間」の意義と教育課程において果たす役割
12	学習指導要領における「総合的な学習の時間」の目標
13	各教科等と関連させた「総合的な学習の時間」の年間指導計画の作成
14	探究的な学習の過程及びそれを実現するための具体的な手立て
15	総合的な学習の時間における児童及び生徒の学習状況に関する評価の方法及びその留意点

【履修上の注意事項】

学級活動、児童会・生徒会活動、学校行事等の特質や内容について実践事例や受講生の経験等も活用しながらより具体的な講義を展開していきたい。
事前にテキストを読み、事後には復習をしておくこと。

【評価方法】

レポート40%、期末試験60%

【テキスト】

広岡義之編著『新しい特別活動』ミネルヴァ書房、2015年。

【参考文献】

教育方法論

担当教員 嶋 政弘

配当年次 2年

単位区分 要件外

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

- 1 多様な学習者に配慮して「教授と学習」という視点に立った学習指導の方法と技術を習得することができる。
- 2 学び方や思考の発展性に配慮した学習指導案の作成方法を理解し、作成することができる。
- 3 学習や学校生活における様々な場面に応じた指導方法について理解することができる。
- 4 授業効果を高めるための方法としての教育情報機器の利用について理解し、活用することができる。

【授業の展開計画】

授業の概要

まず、教育における方法論的な立場から、教育方法の歴史や組織面(形態)及び改革等について学ぶとともにその成果の評価について学習する。

次に、学習指導案を作成するために必要な多面的な視点をもとに、学習指導案を作成するための知識と技術を習得する。

さらに、教育効果を高めるために、各種情報機器の必要性を理解するとともに、その有効活用ができる知識と技術を習得する。

授業形態は講義とするが、ペア等によるディスカッションを随所に取り入れ、特に、資料(動画や図表等)から読み取る目を育てることに力点を置く。

授業計画

第1回：授業のねらいと展開の方法

第2回：教育方法の歴史

第3回：教育方法の類型と特質

第4回：教育方法の改革と課題① 学力形成の方法論

第5回：教育方法の改革と課題② 学習の形態と、教師と子どもの関係性

第6回：教育方法の改革と課題③ 学習の成果とその評価

第7回：学習指導の実際① 学習指導案作成の手順と目標設定

第8回：学習指導の実際② 指導計画と本時のねらい

第9回：学習指導の実際③ 授業準備と学習活動における指導上の留意点

第10回：学習指導の実際④ 思考の流れを育てるための学習展開の方法

第11回：教育情報機器の活用① 教育情報機器の例とその効果

第12回：教育情報機器の活用② 五感に訴える資料の条件

第13回：教育情報機器の活用③ プレゼンテーションの作成方法

第14回：具体的な場面における指導方法の実際① (生徒指導や生活に関する指導)

第15回：具体的な場面における指導方法の実際② (健康や安全に関する指導)

【履修上の注意事項】

- 1 ペアによるディスカッションをするため、ペアを作って着席する。
- 2 すべてのペアに発言の機会があるので、常に自分の考えを持って参加する。

【評価方法】

ディスカッションへの参加40%、課題提出20%、期末試験40%で評価する。

追試験は実施しない。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献】

毎回、資料(学習プリント)を配布する。参考資料については、授業の中で随時提示する。

生徒指導・進路指導論

担当教員 山本 孝司

配当年次 2年

開講時期 第2学期

単位区分 要件外

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

- 1) 生徒指導の意義や原理を理解する。2) すべての児童生徒を対象とした学級・学年・学校における生徒指導の進め方を理解する。3) 児童生徒の抱える主な生徒指導上の課題の様態と、養護教諭等の教職員、外部の専門家、関係機関等との校外の連携も含めた対応の在り方を理解する。4) 進路指導・キャリア教育の意義や原理を理解する。5) 全ての児童生徒を対象とした進路指導・キャリア教育の考え方と指導の在り方を理解する。6) 児童生徒が抱える個別の進路指導・キャリア教育上の課題に向き合う指導の考え方と在り方を理解する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	教育課程における生徒指導の位置付け
2	各教科、道徳教育、総合的な学習の時間、特別活動における生徒指導の意義及び重要性
3	集団指導・個別指導の方法原理
4	生徒指導体制と教育相談体制
5	校務分掌上の立場や役割並びに学校の指導方針及び年間指導計画に基づいた組織的な取組
6	基礎的な生活習慣の確立や規範意識の醸成等の日々の生徒指導の在り方
7	生徒の自己の存在感が育まれる場や機会の設定の在り方
8	生徒指導にかかわる法令（校則、懲戒、体罰、停学・退学等）
9	暴力行為、いじめ、不登校等の生徒指導上の課題の定義及び対応
10	生徒指導における学校と家庭、地域との連携の在り方（専門機関との連携を含む）
11	教育課程における進路指導・キャリア教育の位置付け
12	学校の教育活動全体を通じたキャリア教育の視点と指導の在り方
13	キャリア教育の視点を持ったカリキュラム・マネジメントの意義
14	キャリア形成の視点に立った自己評価の意義の理解
15	キャリア・カウンセリングの基礎的な考え方と実践方法

【履修上の注意事項】

授業へは参加的態度で臨むこと。
事前にテキストを読み、事後はテキスト、配布資料を読み返しておくこと。

【評価方法】

課題レポート（40%）＋学期末試験（60%）

【テキスト】

広岡義之編著『教育実践に役立つ生徒指導・進路指導論－「生徒指導提要」に触れつつ』あいり出版。

【参考文献】

授業内で適宜紹介する。

教育相談（カウンセリングを含む）

担当教員 古賀 由紀子、三津家 律子

配当年次 3年

開講時期 第2学期

単位区分 要件外

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

教育相談とは、一人一人の子どもの教育上の諸問題について本人または、保護者、教師などにその望ましい在り方について指導助言することを意味しているが、特に学校生活において不適応を訴える児童生徒、保護者に対して主として個別援助するとき、これらの悩みや問題行動に対してどのように理解し、具体的に対応していったらよいのか説明できる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	教育相談の考え方・教育相談の位置づけ、生徒指導と教育相談（古賀）
2	児童生徒理解の基礎Ⅰ（教育相談の内容、発育発達、疾病等の一般的理解）（古賀）
3	児童生徒理解の基礎Ⅱ（個別的理解とその方法）（古賀）
4	カウンセリングの意義（三津家）
5	カウンセリングの理論（三津家）
6	カウンセリングの技術（三津家）
7	問題行動の理解（三津家）
8	学校でできる遊戯療法（三津家）
9	学校でできる認知行動療法（三津家）
10	発達促進的教育相談（三津家）
11	教育相談の事例研究、支援会議（三津家）
12	家族への援助、教師へのコンサルテーション（三津家）
13	教育相談の担い手（学級担任、教育相談担当者、養護教諭、スクールカウンセラー他）（古賀）
14	教育相談の機関と援助事業（古賀）
15	支援的ネットワーク、教育相談の課題（古賀）

【履修上の注意事項】

授業の最後に次の授業内容を予告するので、その内容について調べておくこと。
授業の最後に振り返りのための課題を提示するので、それを踏まえて振り返りまとめておく。次の授業の最初に前回のまとめを提出する。

【評価方法】

レポート等20%、期末試験80%により評価する

【テキスト】

特にテキストはなし。随時プリントを配布する。

【参考文献】

「改訂版心理臨床の基礎」小野けい子編著 放送大学教育振興会
「学校でフル活用する認知行動療法」 神村栄一著 遠見書房

教職実践演習（中・高）

担当教員 嶋 政弘、柴田 恵子、山下 忍、古賀 由紀子、山本 孝司、吉岡 久美、水間 宗幸、古江 佳織、新 裕紀子

配当年次 4年

開講時期 第2学期

単位区分 要件外

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

使命感や責任感に裏打ちされた教員としての確かな実践的指導力を身につける。
具体的には次の四つの事項（①使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項、②社会性や対人関係能力に関する事項、③幼児・児童・生徒理解や学級経営等に関する事項、④教科・保育内容等の指導力に関する事項）に関する知識・技術を修得し、それに基づいた実践が行えるようになる。

【授業の展開計画】

- I 教師に関する研究(教育実習自己評価用紙を基に自己省察を行う)
自己省察(教育実習自己評価用紙を基に)
- II 学校教育におけるエコロジカルアプローチ(事例研究や対人援助技術を学び最新の子どもの発達に関する理解を深める)
 - (1) 事例研究(保護者地域社会との連携・協働について)
 - (2) 学校に関連した対人援助技術を学ぶ(保護者との関係性の構築の仕方等に関するロールプレイングを含む)
 - (3) 最近の知見に基づく子どもの発達に関する理解を深める。
- III 授業研究(実習生による模擬授業の実施と現職教諭を交えての授業研究を行う)
 - (1) 実習生による模擬授業の実施と現職教諭を交えての授業研究(その1)
 - (2) 実習生による模擬授業の実施と現職教諭を交えての授業研究(その2)
 - (3) 実習生による模擬授業の実施と現職教諭を交えての授業研究(その3)
- IV 生徒指導(生徒指導の在り方及び不登校といじめ問題・ロールプレイングを含めた事例研究を行う)
 - (1) 生徒指導の在り方について(「生徒指導上の諸問題の現状について」)を基に
 - (2) 事例研究(不登校といじめ問題等)
 - (3) 事例研究(ロールプレイング含む)
- V 児童・生徒理解(玉名市内のスクールボランティア協力校・学校支援・市内協力高校でのフィールド学習を実施する)
 - (1) スクールボランティアを活用したフィールド学習
 - (2) スクールボランティアを活用したフィールド学習
 - (3) スクールボランティアを活用したフィールド学習
 - (4) フィールド学習の振り返りと評価
- VI 総括

【履修上の注意事項】

事前事後学習については担当者の指示に従うこと。

【評価方法】

①授業態度(30%)、②ポートフォリオを通しての評価(50%)、外部講師による評価(20%)

【テキスト】

【参考文献】

教育実習（事前事後指導を含む）

担当教員 嶋 政弘、柴田 恵子、山下 忍、古賀 由紀子、山本 孝司、吉岡 久美、水間 宗幸、古江 佳織、新 裕紀子

配当年次 4年

開講時期 通年

単位区分 要件外

授業形態 実習

準備事項

単位数 5

備考 中学校教諭1種免許状取得希望者

【授業のねらい】

本学における教職課程で学んだ理論をもとに、学校現場における教育の実践的経験を通して、中学校教諭に必要な資質や専門性、実践的指導力をもつことができる。

【授業の展開計画】

1. 事前指導（3年次～4年次実習前）

教育実習の意義・心得、実習の内容や過程の理解、教育現場の事前理解、指導案の作成、実習に必要な知識・技術・技能の獲得、及び実習校の確定とその手続き、実習校との打ち合わせにかかわる実際的な指導

2. 教育実習（4年次、3週間）

実習校の指導のもとで実習を行う

3. 事後指導（4年次、実習後）

実習に関する反省と指導一体験内容の相互共有により実習経験の充実・深化をはかる。また終了レポートの作成、自己評価、体験発表、討論会等を行う。

*なお、事前事後指導については、別途指導計画表を配布する。とくに3年次は専門の実習の関係で、事前指導の日程は、変則的に組まれるので注意すること。初回のガイダンスで詳細に説明する。

【履修上の注意事項】

中学校教諭1種免許状の取得希望者のみ。履修に当たっては教職課程履修細則が適用されるので、よく確認すること。

事前事後学習については担当者の指示に従うこと。

【評価方法】

実習校による評価（60%）、実習録・実習終了レポートによる評価（10%）、事前事後指導における平常の評価（授業態度等）（10%）、事前事後指導におけるレポート等による評価（20%）。

なお、事前事後指導、本実習のすべてにおいて、無断欠席は認められないので厳重に慎むこと。

【テキスト】

特に使用しない。資料を配布する。

【参考文献】

適宜紹介する。

教育実習（事前事後指導を含む）

担当教員 嶋 政弘、柴田 恵子、山下 忍、古賀 由紀子、山本 孝司、吉岡 久美、水間 宗幸、古江 佳織、新 裕紀子

配当年次 4年

開講時期 通年

単位区分 要件外

授業形態 実習

単位数 3

準備事項

備考 高等学校教諭1種免許状取得希望者

【授業のねらい】

本学における教職課程で学んだ理論をもとに、学校現場における教育の実践的経験を通して、高校教諭に必要な資質や専門性、実践的指導力をもつことができる。

【授業の展開計画】

1. 事前指導（3年次～4年次実習前）

教育実習の意義・心得、実習の内容や過程の理解、教育現場の事前理解、指導案の作成、実習に必要な知識・技術・技能の獲得、及び実習校の確定とその手続き、実習校との打ち合わせにかかわる実際的な指導

2. 教育実習（4年次、2週間）

実習校の指導のもとで実習を行う

3. 事後指導（4年次、実習後）

実習に関する反省と指導一体験内容の相互共有により実習経験の充実・深化をはかる。また終了レポートの作成、自己評価、体験発表、討論会等を行う。

*なお、事前事後指導については、別途指導計画表を配布する。とくに3年次は専門の実習の関係で、事前指導の日程は、変則的に組まれるので注意すること。初回のガイダンスで詳細に説明する。

【履修上の注意事項】

高校教諭1種免許状の取得希望者のみ。履修に当たっては教職課程履修細則が適用されるので、よく確認すること。

事前事後学習については担当者の指示に従うこと。

【評価方法】

実習校による評価（60%）、実習録・実習終了レポートによる評価（10%）、事前事後指導における平常の評価（授業態度等）（10%）、事前事後指導におけるレポート等による評価（20%）。

なお、事前事後指導、本実習のすべてにおいて、無断欠席は認められないので厳重に慎むこと。

【テキスト】

特に使用しない。資料を配布する。

【参考文献】

適宜紹介する。